

日本史		通年 4 単位	1・2年
概説日本近現代史		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
ねらい	日本の近現代史について考察する。明治維新から敗戦までの日本社会の歴史的变化について様々な角度から検証し、特に国家と民衆、差別と同化、日本とアジアといった観点を軸に時代状況の意義を理解し、近代以降の日本の歴史的動向を多面的に、またグローバルな視野から通観できるようにする。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 「日本」とはなにか 第2回 世界史の中の明治維新 第3回 岩倉使節団：留学生の見た海外諸国 第4回 文明開化と民衆 第5回 「国民」の創成 第6回 自由民権運動 第7回 日清・日露戦争 第8回 「帝国日本」のアジアへの膨張 第9回 韓国併合への道 第10回 差別と同化①：知里幸恵とアイヌ民族の誇り 第11回 差別と同化②：柳宗悦と沖縄の方言論争 第12回 資本主義の発展と矛盾 第13回 社会主義と非戦論 第14回 明治から大正へ 第15回 試験	<p>【後期】</p> 第1回 第一次世界大戦 第2回 藩閥専制から政党内閣へ 第3回 大正デモクラシーと民衆 第4回 女性解放の思想と運動 第5回 植民地と日本人 第6回 関東大震災と朝鮮人虐殺 第7回 満州事変と軍部の台頭 第8回 国家主義の思想 第9回 日中戦争から太平洋戦争へ 第10回 戦時体制と国民総動員 第11回 「大東亜共栄圏」の実態 第12回 戦争と「健康」 第13回 兵士達の戦場 第14回 敗戦と占領 第15回 試験	
進め方	重要なテーマを中心に時代状況とその問題を探求し、歴史の推移やその特質を多面的に考察する。文献や映像など様々な資料を手がかりに歴史的に分析する力を養い、現代日本の今日的課題を検討する。随時授業の感想・意見等を書いてもらい、参加意欲や理解度をみる。前期・後期合わせて2回のレポート提出がある。		
テキスト	毎回資料プリントを配布する。	参考文献	大日方純夫『はじめて学ぶ日本近代史 上・下』（大月書店）の他、講義のテーマに即して随時紹介する
評価方法	平常点:30% レポート:40% 試験:30%		

西洋史		通年 4 単位	1・2年
フランス社会史		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
ねらい	ルイ14世からナポレオンまでのフランスを対象に、戦争と社会について「科学する」。「科学する」とは、特定の価値観やモラルから解放されることである。その解放から生まれるところの自由とエクスタシーをエンジョイしよう！高校の「世界史」では余り触れられない、歴史教科書の「ウラ」を知ってもらいたい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 序論 戦争とは何か 戦争の種類 第3回 序論 戦争とは何か 戦争の主体 第4回 フランスの戦争 スペイン王位継承戦争など 第5回 フランスの戦争 オーストリア王位継承戦争など 第6回 フランスの戦争 革命戦争 第7回 フランスの戦争 ナポレオン戦争 第8回 軍隊と社会 戦士としての貴族 第9回 軍隊と社会 民主主義と軍隊 第10回 軍隊と社会 福祉政策 ナポレオン時代の社会 第11回 戦争の収支決算表 人口 第12回 戦争の収支決算表 経済 (革命前) 第13回 戦争の収支決算表 経済 (革命後) 第14回 戦争の収支決算表 貿易 第15回 予備日	<p>【後期】</p> 第1回 戦争の収支決算表 工業 科学技術 第2回 戦争の収支決算表 災禍としての戦争(1) 第3回 戦争の収支決算表 災禍としての戦争(2) 第4回 戦争の文化 戦争の神学(1) 第5回 戦争の文化 戦争の神学(2) 第6回 戦争の文化 マスメディア (新聞・教科書) 第7回 戦争の文化 マスメディア (演劇・音楽) 第8回 戦争の文化 芸術 (戦う英雄) 第9回 戦争の文化 芸術 (ダヴィッドとナポレオン) 第10回 戦争の文化 戦士の文化 (制服・軍旗) 第11回 戦争の文化 戦士の文化 (新しい名前・決闘) 第12回 戦争の文化 軍人の死生観 第13回 まとめ 第14回 学生による発表 第15回 予備日	
進め方	戦争という大きな問題を、硬くなく重たくなく真面目すぎずに、しなやかに軽やかにエスプリたっぷりで叙述していくつもりである。講義形式。暗記よりも、分析と理解が重要な講義である。毎回、映画などの視聴覚資料を用いる。また、フランスの時事問題や日常生活なども、時間が許す範囲で紹介したい。		
テキスト	特になし。	参考文献	阪口修平・丸富宏太編著『近代ヨーロッパの探求⑫ 軍隊』ミネルヴァ書房、2009年。
評価方法	6回の講義感想文:60% 期末レポート:40%		

英国史		通年 4 単位	2年
イギリスの過去を知り、現在を知る		甲斐 祥子 (かい しょうこ)	
ねらい	各人が抱く多様なイギリス像—議会制の母国、伝統のある美しい国、先端的な若者文化の国、フーリガンの国等々—これらはすべて、イギリスの歴史に根ざしている。歴史を知ること、表面的なイギリス像の下に見えてくるものがある。本講義は、英国史を通じて、過去が現在をいかに形作っているかを洞察し、イギリスへの理解を深めることをめざす。		
授業計画	【前期】 第1回 序論—イギリス史を学ぶとは？ 第2回 イギリスの歴史のはじまり 第3回 アングロ・サクソン民族とイギリスの基礎 第4回 イングランド王国の形成 第5回 ノルマン人の征服1 第6回 ノルマン人の征服2 第7回 イングランド封建国家 第8回 アンジュー帝国 第9回 イギリス立憲政治の基礎1 第10回 イギリス立憲政治の基礎2 第11回 島国国家の形成 第12回 百年戦争と封建社会の変容1 第13回 百年戦争と封建社会の変容2 第14回 ばら戦争とテューダー朝の創始 第15回 まとめ	【後期】 第1回 イングランド宗教改革1 第2回 イングランド宗教改革2 第3回 エリザベス時代の光と影 第4回 イギリス革命1 第5回 イギリス革命2 第6回 イギリス革命3 第7回 名誉革命体制 第8回 植民地帝国の形成 第9回 二重革命の時代 第10回 改革の時代から繁栄の時代へ 第11回 大英帝国の繁栄と衰退 第12回 帝国主義の時代 第13回 2つの世界大戦 第14回 新しい時代のイギリス 第15回 まとめ	
進め方	時代順にテーマを設定し、1つのテーマを1～3回かけて論ずる。テキストを読み進めるという形式はとらないが、参考資料および補助教材として用いるので、授業時にはテキストを持参すること。		
テキスト	指昭博『図説 イギリスの歴史』（河出書房新社）	参考文献	『（世界歴史大系）イギリス史1、2、3』（山川出版社）、『（新版世界各国史11）イギリス史』（山川出版社）、『イギリスの歴史』（有斐閣）
評価方法	試験:40% レポート:30% 出席:30%		

日本文化史		通年 4 単位	1・2年
日本の造形文化の特色		井田 太郎 (いだ たろう)	
ねらい	日本の造形と視覚文化・言語文化との関係・相互の交流などの現象を具体的な作品（代表的な古典『源氏物語』・『伊勢物語』や名所絵を中心にする）を通して探る。前期は特に文学と絵画の関係を中心に考え、作品を紹介し、近代にまで至る多様な展開を考察。中国あるいは西洋などとの比較を通じ、日本の特色を探る。講義は、以下のように予定して		
授業計画	【前期】 第1回 日本の造形文化における諸要素 第2回 絵画・文学との関係1 第3回 絵画・文学との関係2 第4回 絵巻物概説1 第5回 絵巻物概説2 第6回 文学と絵画 第7回 「源氏物語絵巻」1 第8回 「源氏物語絵巻」2 第9回 「源氏物語絵巻」3 第10回 「源氏物語絵巻」4 第11回 「伊勢物語絵巻」1 第12回 「伊勢物語絵巻」2 第13回 「伊勢物語絵巻」3 第14回 空間と絵画 第15回 学外での展覧会鑑賞1	【後期】 第1回 仮名の書と料紙1 第2回 仮名の書と料紙2 第3回 名所絵1 第4回 名所絵2 第5回 名所絵3 第6回 琳派の造形1 第7回 琳派の造形2 第8回 風俗画とその時代1 第9回 風俗画とその時代2 第10回 学外での展覧会鑑賞2 第11回 文学と浮世絵でのパロディ 第12回 日本の造形文化の特質 第13回 前期の復習 第14回 後期の復習・総論 第15回 試験	
進め方	視覚的な問題を幅広く扱うので、講義にパワーポイントやビデオ上映を交えて進めていく。前期・後期それぞれ学外で展覧会をみる予定である。毎回リアクションペーパーを書いてもらいながら、習熟度や学生諸君の興味の方向性をみて、講義を進めていきたい。なお、前期はレポート、後期は試験を課する。		
テキスト	特に定めず、適宜参考資料を配布。	参考文献	辻惟雄「日本美術の歴史」（東京大学出版会）、「光琳デザイン」（淡交社）など。特に前者は閲読を薦める。
評価方法	出席・授業態度:30% レポート:20% 試験:50%		

東洋文化史		通年 4 単位	1・2年
東洋を知ろう		原田 理恵 (はらだ りえ)	
ねらい	今、中国はいろいろな意味で巨大な存在であると同時に、日本にとっては千年以上も前から政治・経済、そして何よりも文化的に深く関わってきた隣国です。その巨大な隣国の多様な文化について知り、考え、理解し、そして自らの社会や文化について再び問い直す機会となること、この授業のねらいです。		
授業計画	【前期】 第1回 陶磁器から時代を見る 1 第2回 陶磁器から時代を見る 2 第3回 陶磁器から時代を見る 3 第4回 陶磁器から時代を見る 4 第5回 古代中国世界の形成 1 第6回 古代中国世界の形成 2 第7回 古代中国世界の形成 3 第8回 古代中国世界の形成 4 第9回 孔子の生涯とその思想 1 第10回 孔子の生涯とその思想 2 第11回 孔子の生涯とその思想 3 第12回 孔子の生涯とその思想 4 第13回 商鞅の新法 第14回 韓非の時代 第15回 前期レポートについて	【後期】 第1回 法家の思想 1 第2回 法家の思想 2 第3回 性善の思想・性悪の思想 第4回 官僚—最も中国的なもの— 郷拳里選と九品官人法 第5回 官僚—最も中国的なもの— 科挙沿革① 第6回 官僚—最も中国的なもの— 科挙沿革② 第7回 官僚—最も中国的なもの— 科挙の実際① 第8回 官僚—最も中国的なもの— 科挙の実際② 第9回 元朝秘史の世界 1 第10回 元朝秘史の世界 2 第11回 元朝秘史の世界 3 第12回 チンギス・ハーンのモンゴル帝国 第13回 征服王朝 元 第14回 “東洋文化”の視点からもう一度日本を見る 第15回 試験	
進め方	講義が中心となります。「東洋の歴史」の広大な時間と空間の中から、中国世界を中心として人々の生活や思想あるいは社会のあり方など様々な観点で切り取ったいくつかのテーマを紹介します。一つのテーマを三週間程度の講義で修了し、その区切り毎に講義に関する質問・感想・意見等を書いていただき、次の授業で紹介します。		
テキスト	使用しません。	参考文献	授業で紹介します。
評価方法	平常点:30% レポート:30% 筆記試験:40%		

西洋文化史		通年 4 単位	1・2年
ギリシア神話と文学の伝統		小林 薫 (こばやし かおる)	
ねらい	ヨーロッパ文明・文化の起源は、古代ギリシアに遡ると考えられている。本講義では、古代ギリシアの神話伝説や、代表的な文学作品について学ぶとともに、これらが古代ローマ、ルネッサンスを経て、近代、現代の西洋文化にどのような影響を与えているか、検討する。		
授業計画	【前期】 第1回 序論：西洋の古典としてのギリシア 第2回 古代社会を知るための手がかり 1 第3回 古代社会を知るための手がかり 2 第4回 古代ギリシアの神話伝説：オリュポスの神々1 第5回 古代ギリシアの神話伝説：オリュポスの神々2 第6回 古代ギリシアの神話伝説：世界の始まり 第7回 古代ギリシアの神話伝説：死生観 第8回 古代ギリシアの神話伝説：死生観2 第9回 古代ギリシアの神話伝説：オリンピック競技会 第10回 古代ギリシアの神話伝説：オリンピック競技会2 第11回 古代ギリシアの神話伝説：英雄による怪物退治 第12回 テーバイ伝説とギリシア悲劇：『オイディプス王』1 第13回 テーバイ伝説とギリシア悲劇：『オイディプス王』2 第14回 テーバイ伝説とギリシア悲劇：『オイディプス王』3 第15回 これまでのまとめ	【後期】 第1回 古代ギリシアの神話伝説：トロイア伝説と英雄叙事詩 第2回 古代ギリシアの神話伝説：トロイア伝説と英雄叙事詩2 第3回 古代ギリシアの神話伝説：トロイア伝説と英雄叙事詩3 第4回 英雄叙事詩の系譜：『イリアス』1 第5回 英雄叙事詩の系譜：『イリアス』2 第6回 英雄叙事詩の系譜：『イリアス』3 第7回 英雄叙事詩の系譜：『イリアス』4 第8回 英雄叙事詩の系譜：『イリアス』5 第9回 英雄叙事詩の系譜：『イリアス』6 第10回 英雄叙事詩の系譜：『イリアス』7 第11回 トロイア伝説の受容と展開1：古代ギリシャ 第12回 トロイア伝説の受容と展開2：ローマからルネッサンスへ 第13回 トロイア伝説の受容と展開3：日本におけるトロイア伝説 第14回 トロイア伝説の受容と展開4：現代におけるトロイア伝説 第15回 これまでのまとめ	
進め方	講義を中心とする。ビデオ、スライド等の視聴覚教材を用いて理解を助ける。		
テキスト	西村賀子『ギリシア神話 神々と英雄に出会う』（中公新書1798番）ISBN9784121017987	参考文献	参考文献表を配布する。
評価方法	期末試験（前期）:30% 期末レポート（後期）:50% 課題:10% 出席:10%		

美術史		通年 4 単位	1・2年
西洋美術史入門		田中 容子 (たなか ようこ)	
ねらい	本講義では、美術史の用いる方法論の要点をおさえたうえで、ルネサンス以降の西洋美術の変遷をたどり、各時代の美術の特質や作品が生み出された社会的背景について学びます。最終的には受講生みずからが美術史の視点から西洋の美術作品にアプローチし思考できるようにすることを目指します。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 「はじめての美術史」 第2回 美術史の方法論1 第3回 美術史の方法論2 第4回 美術史の方法論3 第5回 イタリア初期ルネサンス美術1 第6回 イタリア初期ルネサンス美術2 第7回 イタリア初期ルネサンス美術3 第8回 15世紀北方ヨーロッパ美術 第9回 イタリア盛期ルネサンス1 第10回 イタリア盛期ルネサンス2 第11回 イタリア盛期ルネサンス3 第12回 16世紀ヴェネチア美術 第13回 ドイツのルネサンス 第14回 マニエリスム 第15回 試験	【後期】 第1回 ルネサンスとバロック 第2回 17世紀イタリア美術1 第3回 17世紀イタリア美術2 第4回 17世紀フランドル美術 第5回 17世紀オランダ美術 第6回 17世紀フランス美術 第7回 18世紀フランス美術 第8回 18世紀イタリア・イギリス・スペイン美術 第9回 芸術の近代：新古典主義からロマン主義へ 第10回 ロマン主義 第11回 レアリズムから印象主義へ 第12回 印象主義 第13回 後期印象主義 第14回 象徴主義、アール・ヌーヴォー 第15回 20世紀の美術	
進め方	講義形式。毎回スライドやビデオを用いて具体的な作品を見ながら考察します。		
テキスト	『カラー版 西洋美術史』（高階秀爾監修、美術出版社）。加えて講義内容にあわせてプリントを配布します。	参考文献	『西洋美術史ハンドブック』（高階秀爾・三浦篤編、新書館）。その他、講義内容にあわせて随時紹介します。
評価方法	前期筆記試験:20% 後期レポート:20% 展覧会レポート:20% 平常点:40%		

社会思想史		通年 4 単位	1・2年
20世紀の危機とキリスト教		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
ねらい	20世紀の人類社会は、科学技術の発展、大量殺戮、全体主義、南北問題、環境問題など、かつてない危機に直面してきました。この授業では、これらの危機の背景と意味を考察しながら、それにキリスト教がどのように応答していったのかを学びます。人類の根本問題を根本的に考えるという困難な課題に、正面から立ち向かう視野と力を獲得します。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション 第2回 オリエンテーション (第1回と同内容) 第3回 イントロダクション ―キリスト教の基礎知識の確認 第4回 人類史における20世紀 第5回 キリスト教と権力 ―コンスタンティヌス体制とは何か 第6回 キリスト教と全体主義(1) 第7回 キリスト教と全体主義(2) 第8回 キリスト教と全体主義(3) 第9回 植民地支配と「解放の神学」(1) 第10回 植民地支配と「解放の神学」(2) 第11回 植民地支配と「解放の神学」(3) 第12回 人種差別と「黒人神学」(1) 第13回 人種差別と「黒人神学」(2) 第14回 人種差別と「黒人神学」(3) 第15回 前期の総括	【後期】 第1回 前期レポート発表会 第2回 男性中心社会と「フェミニスト神学」(1) 第3回 男性中心社会と「フェミニスト神学」(2) 第4回 男性中心社会と「フェミニスト神学」(3) 第5回 ハンセン病差別とキリスト教(1) 第6回 ハンセン病差別とキリスト教(2) 第7回 世俗化・ファンダメンタリズム・正統主義(1) 第8回 世俗化・ファンダメンタリズム・正統主義(2) 第9回 キリスト教と平和(1) 第10回 キリスト教と平和(2) 第11回 キリスト教と平和(3) 第12回 環境破壊と「エコロジー神学」(1) 第13回 環境破壊と「エコロジー神学」(2) 第14回 総括 第15回 後期レポートの発表会	
進め方	担当者による問題提起を受けて、グループでの話し合いを行い、さらに各グループの話し合いを教室全体でシェア(共有)する時間をたびたび設けます。結論を出すことよりも、考えるプロセスを大事にし、かつ楽しみたいと思います。		
テキスト	教室でプリントを配布します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	期末レポート:50% 平常点:50%		

現代社会と倫理		通年 4 単位	1・2年
代表的な倫理的立場について学び、現代の具体的な倫理的諸問題について考える。		福田 敦史（ふくだ あつし）	
ねらい	「どのような生き方がよいのか」や「なぜのように生きるのがよいのか」といったことを考える際に参考となるような、倫理についての代表的な考え方を学んでもらいます。そして、現代において生じているさまざまな倫理的諸問題を具体的に取り上げて、みなさんに実際にいろいろと考えてもらおうと思います。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨソ 第2回 倫理について考えること 第3回 相対主義：その1（文化的相対主義について） 第4回 相対主義：その2（文化的相対主義について） 第5回 相対主義：その3（文化的相対主義について） 第6回 相対主義：その4（道徳相対主義について） 第7回 相対主義：その5（道徳相対主義について） 第8回 相対主義：その6（道徳相対主義について） 第9回 主観主義：その1（単純な主観主義について） 第10回 主観主義：その2（単純な主観主義について） 第11回 主観主義：その3（単純な主観主義について） 第12回 主観主義：その4（情緒主義について） 第13回 主観主義：その5（情緒主義について） 第14回 主観主義：その6（情緒主義について） 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 前期の復習と後期のINTROクダクシヨソ 第2回 利己主義：その1（心理的利己主義について） 第3回 利己主義：その2（心理的利己主義について） 第4回 利己主義：その3（倫理的利己主義について） 第5回 利己主義：その4（倫理的利己主義について） 第6回 功利主義：その1（一般的な功利主義の考えについて） 第7回 功利主義：その2（一般的な功利主義の考えについて） 第8回 功利主義：その3（行為功利主義と規則功利主義） 第9回 功利主義：その4（規則功利主義について） 第10回 義務論：その1 第11回 義務論：その2 第12回 義務論：その3 第13回 徳の倫理学 第14回 後期のまとめ 第15回 試験	
進め方	講義を中心に進める予定ですが、できるだけ双方向的なものにしたいと考えています。講義期間中に数回、講義内容についての簡単なペーパーを皆さんに書いてもらい、書いてもらった事を紹介し、検討したり回答したりする時間を設ける予定です。もちろん講義中の質問や意見も大歓迎です。前期末と後期末に、それぞれ筆記試験を実施する予定です。		
テキスト	特に指定しません。代わりにハンドアウトを配布することがあります。	参考文献	ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房、2003年。 この他にも授業中にできるだけ文献を紹介しします。
評価方法	前期末試験：40% 後期末試験：40% リアクションペーパー：20%		

比較文化論		通年 4 単位	1・2年
食文化を切り口とする比較宗教・比較思想・比較文学・比較文化		中井 章子（なかい あやこ）	
ねらい	1. 食べることは生きること。「食」をめぐる思想を学ぶ。 2. 現代の食文化を歴史の中で見る。 3. 食文化を宗教との関連で考える。		
授業計画	【前期】 第1回 はじめに。比較文化論について 第2回 I. 現代日本の食文化・食生活 (1) その特徴は？ 第3回 II. 現代日本の食文化・食生活 (2) その問題点は？ 第4回 III. 食文化の見方 (1) 食文化の範囲は広い 第5回 III. 食文化の見方 (2) ささまざまなアプローチ 第6回 III. 神話と食文化 (1) 「神話」とは？ 第7回 III. 神話と食文化 (2) 食の起源 第8回 III. 神話と食文化 (3) ささまざまな神話 第9回 IV. 食のタブー (1) 食べてよいもの、いけないもの 第10回 IV. 食のタブー (2) 肉食と菜食 第11回 V. 宗教と食文化 (1) 旧約聖書 第12回 V. 宗教と食文化 (2) 「ユダヤ教」と食文化 第13回 V. 宗教と食文化 (3) 新約聖書 第14回 V. 宗教と食文化 (4) 「キリスト教」と食文化 第15回 試験、レポート	【後期】 第1回 V. 宗教と食文化 (5) イスラームの歴史 第2回 V. 宗教と食文化 (6) 「イスラム教」と食文化 第3回 V. 宗教と食文化 (7) 仏教と禅の食文化 第4回 V. 宗教と食文化 (8) 禅寺の食事 第5回 VI. 風土と食文化 (1) 自然環境と文化 第6回 VI. 風土と食文化 (2) 日本の風土と食文化 第7回 VII. 大航海時代と食文化 (1) 異文化交流と食 第8回 VII. 大航海時代と食文化 (2) グローバル時代の食 第9回 VIII. マナーと「文明化」 (1) マナーとは？ 第10回 VIII. マナーと「文明化」 (2) ささまざまな「マナー」 第11回 IX. 「グルメ」の誕生 (1) 質素と贅沢、飽食と禁欲 第12回 IX. 「グルメ」の誕生 (2) レストラン 第13回 X. 食における身体と精神 (1) 第14回 X. 食における身体と精神 (2) 第15回 試験、レポート	
進め方	1. 講義が中心。テキストを配るので、直接じっくり読んで、自分で考える。 2. 授業中またはその後にコメント、考えたことを書いて提出。 3. 小レポート（1200字程度）を前期・後期、おのおの2～3回提出。		
テキスト	コピーを配布する。	参考文献	リストを配布する。
評価方法	出席とコメント内容：40% 小レポート：30% 試験かレポート：30%		

異文化間コミュニケーション		通年 4 単位	2年
異文化間コミュニケーション		横溝 環（よこみぞ たまき）	
ねらい	本講義は、異文化間コミュニケーションに関する基本的理論を学ぶとともに、自己および他者への気づきを高め、その上で、自他の尊重が相互になされるようなコミュニケーションを探求していくことを目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 オリエンテーション、文化とは 第2回 コミュニケーションとは 第3回 自分とは 第4回 価値観と文化的特徴① 第5回 価値観と文化的特徴② 第6回 価値観と文化的特徴③ 第7回 アイデンティティ 第8回 ステレオタイプと偏見① 第9回 ステレオタイプと偏見② 第10回 言語コミュニケーション① 第11回 言語コミュニケーション② 第12回 ポライトネス① 第13回 ポライトネス② 第14回 まとめ 第15回 試験	【後期】 第1回 非言語コミュニケーション① 第2回 非言語コミュニケーション② 第3回 カルチャーショックと文化的調節① 第4回 カルチャーショックと文化的調節②：映像から 第5回 カルチャーショックと文化的調節③：映像から 第6回 協調的問題解決 第7回 異文化コミュニケーションスキル 第8回 日米コミュニケーションスタイル比較①：映像から 第9回 日米コミュニケーションスタイル比較②：映像から 第10回 メディアの中の文化① 第11回 メディアの中の文化② 第12回 文化心理学的な視点から物事を捉えてみよう① 第13回 文化心理学的な視点から物事を捉えてみよう② 第14回 まとめ 第15回 試験	
進め方	講義とともに、それに関連したエクササイズを行なう。さらに、それらをグループ討議または全体討議へとつなげていく（受講者の積極的参加を望む）。レスポンスシートを授業の最後に毎回提出してもらう。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用する。	参考文献	八代京子ほか(2009)『異文化トレーニング【改訂版】』（三修社） その他、適宜紹介する。
評価方法	出席:20% レスポンス・提出物:20% 積極的参加度:20% 試験:40%		

アメリカの文化と社会		通年 4 単位	1・2年
アメリカ研究入門		荒木 純子（あらか きじゅんこ）	
ねらい	アメリカ合衆国の地理、歴史、文学、政治、社会・文化、ポピュラーカルチャー、外交、そして日米関係について学び、アメリカに関する知識を得る。その際、最近興隆している多文化主義（エスニシティ、ジェンダーなど）、グローバルイゼーションといった観点も分析の視野に入れ、アメリカ社会への理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 地理1 第3回 地理2 第4回 アメリカとは？1 第5回 アメリカとは？2 第6回 歴史1 第7回 歴史2 第8回 歴史3 第9回 歴史4 第10回 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター訪問 第11回 政治1 第12回 政治2 第13回 政治3 第14回 まとめ 第15回 前期試験もしくはレポート指導	【後期】 第1回 夏休みのまとめ 第2回 社会・文化1 第3回 社会・文化2 第4回 社会・文化3 第5回 文学1 第6回 文学2 第7回 文学3 第8回 ポピュラーカルチャー1 第9回 ポピュラーカルチャー2 第10回 外交1 第11回 外交2 第12回 日米関係1 第13回 日米関係2 第14回 まとめ 第15回 後期試験もしくはレポート指導	
進め方	テキストを中心にし、文字史料、ビデオや画像も利用しながら理解を深める。予習部分や講義の内容などについて、簡単なコメントを毎回提出してもらう。各学期末には人数により、アメリカについての基本的な知識を問う試験、もしくは期末レポートを課す。また前期と後期各1-2回ずつ、小さな課題をレポートにして提出してもらう。		
テキスト	古矢旬+遠藤泰生編『新版アメリカ学入門』（南雲堂、2004）、亀井俊介編『アメリカ文化史入門』（昭和堂、2006）他、プリントを配布する。	参考文献	能登路雅子『ディズニーランドという聖地』（岩波新書、1990）、斎藤真他監修『アメリカを知る事典（新訂増補版）』（平凡社、2000）他、授業中に指
評価方法	前期試験／レポート:30% 後期試験／レポート:30% 課題:20% 出席（コメント）:20%		

文化人類学		通年 4 単位	1・2年
「文化」と「ひと」のかかわりについて：多様性と試行錯誤		中村 淳（なかむら じゅん）	
ねらい	「文化」も「ひと」も、その概念は自明のようにも思えるが、実はそれぞれに多様性を抱えているために、多面的な考察が求められる。本講義では、映像資料や参加学生による毎回のインプレッションといったユニークな教材を用いつつ、身近なものごとから世界大のスケールまで、さまざまなテーマから「文化」と「人間」についての考察を深めた		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：異文化理解とは？ 第2回 自分のスタンスを見極める：MajorityとMinorities 第3回 民族誌フィルムを観る 第4回 文化の多様性と普遍性 第5回 文化相対主義と自文化中心主義 第6回 文化を「翻訳」すること、文化を「理解」すること 第7回 化石人類史(1)：ひとの普遍性とは？ 第8回 化石人類史(2)：王権・国家・民族の登場まで 第9回 民族と国民国家(1) 第10回 民族と国民国家(2) 第11回 日本と民族(1) 第12回 日本と民族(2) 第13回 映画『GO』から考える 第14回 前期のまとめ(1)：ひと・社会・文化 第15回 前期のまとめ(2)	【後期】 第1回 文化の変化について(1)：映像を通して考える 第2回 文化の変化について(2) 第3回 自給自足と大量消費(1)：映像を通して考える 第4回 自給自足と大量消費(2) 第5回 食文化をめぐる試行錯誤 第6回 食文化と文化からの疎外 第7回 文化を変えてゆく力・文化を守ってゆく力 第8回 文化とはなんだろうか？：試行錯誤の重要性 第9回 日本文化(1)：さくら 第10回 日本文化(2)：お正月 第11回 日本文化(3)：クリスマス 第12回 「正しい文化」という考え方 第13回 方言・地域文化・国民文化 第14回 後期のまとめ：文化をめぐる概念図 第15回 全体のまとめ：「文化」と「ひと」	
進め方	基本的には、各授業の最初にその回の資料プリントを配り、それをもとに講義を行なう。授業ごとに感想・質問などを書く簡単なインプレッション・ペーパーを提出してもらい、その結果をその都度次回の授業にフィードバックさせて、相互理解を助ける。授業用ホームページも参照のこと。 http://www.aoyama.juntak.net/2010/index.html		
テキスト	プリントを配布する。	参考文献	授業内で適宜指示する。
評価方法	出席点：20% 各回インプレッション：40% 学年末レポート：40%		

現代社会と法律		通年 4 単位	1・2年
現代社会の法律問題を学ぶ		信澤 久美子（のぶさわ くみこ）	
ねらい	現代社会には多くの社会問題があり、法律はこれらの社会問題を解決するためにあります。本講義では、まず、若い女性に身近な、結婚・離婚の法律問題から講義を始め、就職・子育て等、人生のライフステージにそって起こる出来事から、法律学を学びます。最終的には、消費者法、環境法、情報法など、最先端の社会問題に迫ります。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 法律学への誘い 第2回 法律学基礎の基礎 民事法・刑事法 第3回 法律学基礎の基礎 裁判制度 条文と判例 第4回 民法の基礎 権利主体 第5回 民法の基礎 契約関係 第6回 民法の基礎 不法行為法 交通事故・医療事故 第7回 恋愛に関する法律 レイブ・セクハラ・ストーカー 第8回 婚約・内縁関係・不倫 第9回 結婚 夫婦の財産 DV 法律婚・事実婚 第10回 離婚 破綻主義離婚 第11回 離婚 離婚の方法と離婚原因 財産分与 第12回 離婚 子供をめぐる問題 認知・親権・監護権 第13回 インターネットに関する法律問題 名誉毀損 第14回 インターネットに関する法律問題 発信者開示請求 第15回 前期テスト	【後期】 第1回 前期のテストの講評と前期の復習 第2回 働くことに関する法律 雇用機会均等法 第3回 働くことに関する法律 間接差別 第4回 働くことに関する法律 同一労働同一賃金の原則 第5回 働くことに関する法律 働きながら子育て 第6回 働くことに関する法律 パート・アルバイト・人材派遣 第7回 民法・消費者法 民法における契約とは？ 第8回 民法・消費者法 悪徳商法 クーリング・オフ制度 第9回 民法・消費者法 民法における保護 債務不履行 第10回 民法・消費者法 クレジット・カード 第11回 民法・消費者法 レンダー・ライアビリティ 製造物責任 第12回 民法・環境法 公害と不法行為法 第13回 民法・環境法 地球環境問題 第14回 民法・環境法 環境アセスメントと開発 第15回 後期テスト	
進め方	講義形式です。情報量が多いのでたいへんですが、重要なところは繰り返し重要であると注意しますので、必ずノートをとってください。前期と後期にテストをします。教科書にそって進めますので、教科書を持ってきて下さい。教科書は、恋愛・結婚・離婚から始め、その後、最初に戻って、「働く自由」に入ります。		
テキスト	副田隆重他著『ライフステージと法』有斐閣アルマ	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	出席及び授業参加：7% テスト（2回）：93%		

現代社会と経済		通年 4 単位	1・2年
現代社会経済システムの歴史的考察		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	1989年「ベルリンの壁崩壊」に端を発する冷戦の終結によって、現代世界は新しい地平を切り開いた反面、グローバル化が急速に進行しますます混迷の度を深めている。この授業では、このように複雑化する現代社会経済の様相を、19世紀資本主義と20世紀資本主義の比較という観点から、その歴史的生成過程を踏まえて理解することを目標にする		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション 第2回 現代社会の諸問題① 第3回 現代社会の諸問題② 第4回 市場経済の淵源① 第5回 市場経済の淵源② 第6回 市場経済の淵源③ 第7回 産業革命と自由主義① 第8回 産業革命と自由主義② 第9回 産業革命と自由主義③ 第10回 大不況と帝国主義① 第11回 大不況と帝国主義② 第12回 大不況と帝国主義③ 第13回 世紀転換期の社会経済① 第14回 世紀転換期の社会経済② 第15回 試験	【後期】 第1回 第1次世界大戦の衝撃① 第2回 第1次世界大戦の衝撃② 第3回 両大戦間期の社会経済① 第4回 両大戦間期の社会経済② 第5回 世界大恐慌と市場経済の変質① 第6回 世界大恐慌と市場経済の変質② 第7回 世界大恐慌と市場経済の変質③ 第8回 第2次世界大戦と戦後構想① 第9回 第2次世界大戦と戦後構想② 第10回 IMF=GATT体制の成立① 第11回 IMF=GATT体制の成立② 第12回 高度経済成長と福祉国家① 第13回 高度経済成長と福祉国家② 第14回 まとめ 第15回 試験	
進め方	講義が中心となるが、時事問題に合わせてビデオ等の映像を使用することもある。講義の参考となる印刷物（図表・グラフなど）については適宜配布する。		
テキスト	特に指定しない（購買義務はない）。	参考文献	藤瀬浩司『欧米経済史』（放送大学）、石見徹『世界経済史』（東洋経済）は非常に有益。関口尚志『欧米経済史』（放送大学）も良書。他の文献は適宜紹介
評価方法	出席:30% 前期試験:35% 後期試験:35%		

現代社会と政治		通年 4 単位	1・2年
現代政治とリベラル・デモクラシー		村田 玲（むらた あきら）	
ねらい	本講義の目的は、リベラル・デモクラシーに関する諸々の政治理論を検討することをつうじて、現代政治を観察し、理解し、そしてこれに参加するにあたって有用な思考の枠組みを受講生に提供することに存する。その際、現代政治の諸論点をより根本的に考察するために、政治思想史上の諸々の古典にも言及する。		
授業計画	【前期】 第1回 序論および授業概要 第2回 現代政治の諸論点1 第3回 現代政治の諸論点2 第4回 政治と権力1 第5回 政治と権力2 第6回 リベラリズムの歴史1 第7回 リベラリズムの歴史2 第8回 リベラリズムと福祉国家1 第9回 リベラリズムと福祉国家2 第10回 現代の正義論1 第11回 現代の正義論2 第12回 リベラリズム批判の諸相1 第13回 リベラリズム批判の諸相2 第14回 前期の総括 第15回 前期試験	【後期】 第1回 現代政治の諸論点3 第2回 現代政治の諸論点4 第3回 デモクラシーの歴史1 第4回 デモクラシーの歴史2 第5回 現代デモクラシー論の諸相1 第6回 現代デモクラシー論の諸相2 第7回 デモクラシーと公共性1 第8回 デモクラシーと公共性2 第9回 アイデンティティの政治1 第10回 アイデンティティの政治2 第11回 現代政治とグローバル化1 第12回 現代政治とグローバル化2 第13回 リベラル・デモクラシーの展望 第14回 後期の総括 第15回 後期試験	
進め方	テキストおよび参考文献に基づく講義を中心に進める予定であるが、毎時間、質疑応答の時間を設ける。活発な授業参加を期待する。		
テキスト	川崎修・杉田敦編『現代政治理論』（有斐閣、2006年）。なお、授業時に毎回講義レジュメを配布する。	参考文献	北山俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学・構造改革の向こうに』第三版（有斐閣、2009年）他、授業時に提示する。
評価方法	出席および平常点:20% 前期試験:30% 後期試験:30% レポート:20%		

国際関係論		通年 4 単位	1・2年
国際関係論入門 グローバル社会の歴史・現状・未来		芝崎 厚士 (しばさき あつし)	
ねらい	国際関係論を初めて学ぶ人を対象に(1)国際関係の歴史・現状(2)分析道具としての国際関係論の理論・概念に関する基礎知識を習得することが目的です。さまざまなメディアを利用して、1年間かけて、国際関係に関する(1)論理的な文章や話を理解し要約する力(2)自分の考えを表現する力(3)映像や音楽などに対するリテラシー、を身につけていきます。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 学問・科学としての国際関係論 第3回 国際関係の歴史その1 19世紀まで 第4回 国際関係の歴史その2 20-21世紀 第5回 主権・国民・国家 国際関係の基礎概念 第6回 映像分析1 (20世紀の国際関係を考える) 第7回 多国籍企業・NGO・個人 非国家的行為体の基礎 第8回 パワーと国益 リアリズムとパワー・ポリティクス 第9回 相互依存と国際協調 リベラリズムと国際主義 第10回 映像分析2 (日本と世界のかかわりを考える) 第11回 アイデンティティとアイデア コンストラクティビズム 第12回 外交と対外政策 第13回 安全保障1 (戦争、軍事力) 第14回 映像分析3 (21世紀の戦争と平和を考える) 第15回 安全保障2 (内戦、紛争、ジェノサイド、テロリズム)	【後期】 第1回 Special Seminar (世界政治・国際関係とメディア) 第2回 グローバリゼーションの基礎 第3回 日米安保と日米同盟 第4回 地球環境問題 第5回 映像分析4 (地球環境問題を考える) 第6回 国際政治経済 第7回 貧困と開発 第8回 国際関係思想入門 第9回 映像分析5 (フラット化する世界と格差) 第10回 ナショナリズムと民族紛争 第11回 リージョナリズムと地域統合 第12回 <帝国>とマルチテュード 第13回 映像分析6 (国際紛争と平和構築) 第14回 グローバル市民社会と下からの「革命」 第15回 グローバル市民社会と人間の安全保障	
進め方	テスト形式&解説が基本。答えは毎回回収し、出席と平常点を評価します。予習は不要。授業中にどれだけ集中して取り組んでいるかを重視します。国際関係に関する映像・音楽の分析も課します。夏休みのレポートは分量が多いですが、飛躍的に力が付きます。遅刻・欠席は厳禁。月曜1限は電車が遅れやすいので、1本早めに電車に乗るように。		
テキスト	開講時に指示します。	参考文献	開講時に指示します。
評価方法	出席及び平常点:40% レポート(夏休み):30% 試験(前後期計2回):30%		

教育学		通年 4 単位	1・2年
教育について多角的に考えよう!		吉田 重和 (よしだ しげかず)	
ねらい	これまで皆さんが当たり前を受けてきた「教育」とは、いったいどのような営みなのでしょう。本講義は、受講する皆さんが教育にまつわる基礎的な事項を理解すること、及び教育に関係する多様なテーマを複眼的に捉えた上で各自の興味・関心を深めることを目的とします。		
授業計画	【前期】 第1回 教育について考えよう—オリエンテーション— 第2回 教育経験を振り返る 第3回 教育の歴史と思想(1)—西洋の教育史と教育思想 第4回 教育の歴史と思想(2)—日本の教育を振り返る 第5回 学校と教育(1)—学校を多側面から捉えよう 第6回 学校と教育(2)—学校教育の歴史と特徴 第7回 家庭と教育—家庭教育の重要性と多様性 第8回 社会と教育(1)—地域「で」教育 第9回 社会と教育(2)—地域「の」教育 第10回 現代教育の課題(1)—子どもをめぐる諸問題 第11回 現代教育の課題(2)—学校をめぐる諸問題 第12回 現代教育の課題(3)—教師をめぐる諸問題 第13回 教育における新たな試み—内容・方法・制度を中心に 第14回 質問とディスカッション、グループワーク 第15回 試験	【後期】 第1回 教育を比較するとは? 第2回 日本の教育と北米の教育 第3回 日本の教育とヨーロッパの教育 第4回 日本の教育とアジアの教育 第5回 日本の教育とアフリカの教育 第6回 教育における援助と開発 第7回 質問とディスカッション、グループワーク(1) 第8回 比較教育学の理論と変遷 第9回 比較教育学の方法 第10回 質問とディスカッション、グループワーク(2) 第11回 グループ発表(1) 第12回 グループ発表(2) 第13回 グループ発表(3) 第14回 発表に対するフィードバック 第15回 本講義のまとめ—改めて「教育」とは	
進め方	本講義には、レクチャー中心の授業形式と、ディスカッションとグループワーク中心の授業形式があります。いずれの授業形式においても、授業内容に応じて、適宜課題や小テストを課す予定です。受講する皆さんが積極的に授業に参加すること、及び主体的に課題等に取り組むことを期待します。		
テキスト	特に定めず、配布資料を活用します。	参考文献	授業時に適宜指示します。
評価方法	平常点:30% 前期試験:30% 後期グループ発表:40%		

社会心理学		通年 4 単位	1・2年
社会心理学概説		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	社会心理学で扱われているテーマについて、個人内過程、対人間、集団間などさまざまな視点からの研究知見を理解する。なるべく具体的な事例や研究を挙げながら進めていくが、自分の体験なども関連づけてさらに理解を深めてほしい。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 対人認知1 第3回 対人認知2 第4回 自己の認知と評価1 第5回 自己の認知と評価2 第6回 対人関係の発展・対人魅力 第7回 親密な関係の発展 第8回 社会的交換理論 第9回 対人葛藤・相互依存関係 第10回 対人行動1 第11回 対人行動2 第12回 対人行動3 第13回 対人コミュニケーション1 第14回 対人コミュニケーション2 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 マス・コミュニケーション 第2回 態度とその変容1 第3回 態度とその変容2 第4回 説得的コミュニケーション 第5回 社会的影響過程1 第6回 社会的影響過程2 第7回 個人と集団 第8回 集団間関係1 第9回 集団間関係2 第10回 文化と個人 第11回 社会的推論1 第12回 社会的推論2 第13回 感情の影響 第14回 感情と認知 第15回 全体のまとめ	
進め方	基本的に講義形式で行うが、簡単な調査や実験を取り入れる。自分の体験と結びつけたり、自分と向き合ったりすることが有効である。強制ではないが実際の研究への協力を求めることもある。これは社会心理学の知見をより深く理解する大変よい機会となるので、ぜひ積極的に参加してほしい。		
テキスト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。	参考文献	池上知子・遠藤由美 (1998) 『グラフィック社会心理学』 ナカニシヤ / 21世紀の社会心理学シリーズ (1~13) 北大路書房 この他適宜紹介する。
評価方法	出席:20% レポート:20% 試験:60%		

教育心理学		通年 4 単位	2年
動機と個人差の理解		木村 直人 (きむら なおと)	
ねらい	この講義では教育に関する心理学からの知見を紹介し、必要な知識の習得と人間についての理解を深めることを目的とします。「教育」というよりは「学習、学ぶこと」の理解とそれを行う人間（児童、生徒、学生そして教師）の理解を目指した講義にしたいと考えています。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス：どのようなトピックスをとりあげるか 第2回 人の行動と動機づけ 第3回 自発的行動と動機づけ 第4回 動因（動機）の種類と分類 第5回 アスリートの動機を推測する 第6回 外発的動機づけと内発的動機づけ 第7回 教室での動機づけ 第8回 学習の基礎 第9回 学習理論 第10回 学習の転移 第11回 プログラム学習と発見学習 第12回 記憶の働きと学習 第13回 測定とはなにをすることなのか 第14回 偏差値：測定値の相対的位置 第15回 相対的位置の推定	【後期】 第1回 知能をどのようにとらえ、どうしたら測定できるか 第2回 ビネによる知能検査 第3回 ウェクスラーによる知能検査 第4回 知能検査が測定してこなかったもの 第5回 気質、性格、パーソナリティといった術語の意味 第6回 パーソナリティを理解しようとする二つの代表的な方法 第7回 パーソナリティ理論 第8回 アイデンティティとはなにか 第9回 性格検査 第10回 パーソナリティの形成と測定 第11回 学力の測定とテスト 第12回 学力の評価とその解釈 第13回 評価とは何か 第14回 個人の成長の伴う心理的発達 第15回 発達理論とその発達段階	
進め方	講義形式ですが、ほぼ毎回興味深いビデオクリップを用意します。講義サイトを利用して受講生と担当者とのインタラクティブで能動的な学習の場を提供しますので、ぜひ活用してください。また詳しいシラバス、講義内容と計画を下記URLでお知らせしていますので、受講希望の方は必ず目を通して下さい。		
テキスト	テキストは利用しませんが、次のURLで講義資料を配付します。 http://spot4u.net/	参考文献	講義中サイトに掲載します。
評価方法	期末試験:80% 復習課題複数回:20%		

臨床心理学		通年 4 単位	1・2年
臨床心理学概論		佐藤 さやか (さとう さやか)	
ねらい	「困っている人の話を聞いてあげる」といったイメージがある臨床心理学であるが、実際には科学的・客観的な基礎心理学の研究活動を背景にもつ応用心理学の一分野である。本講義では、主として医療における事例などを紹介しつつ臨床心理学の背景にある理論や支援の実際について基礎的な知見を提供する。		
授業計画	【前期】 第1回 イントロダクション：臨床心理学とは 第2回 「こころ」とは何か？ 第3回 こころの「健康」と「病気」をどのようにとらえるか 第4回 支援の対象となる疾患・障害・問題～気分障害 1 第5回 支援の対象となる疾患・障害・問題～気分障害 2 第6回 支援の対象となる疾患・障害・問題～不安障害 1 第7回 支援の対象となる疾患・障害・問題～不安障害 2 第8回 支援の対象となる疾患・障害・問題～統合失調症 第9回 支援の対象となる疾患・障害・問題～そのほかの障害 第10回 支援の対象となる疾患・障害・問題～発達障害 1 第11回 支援の対象となる疾患・障害・問題～発達障害 2 第12回 心理検査 1 第13回 心理検査 2 第14回 前期のまとめ 第15回 前期試験	【後期】 第1回 「心理学」と「臨床心理学」 第2回 精神分析学および精神分析療法 1 第3回 精神分析学および精神分析療法 2 第4回 精神分析学から派生した心理学 第5回 行動理論～2つの条件付け 第6回 行動理論と行動療法 1 第7回 行動理論と行動療法 2 第8回 認知行動療法 第9回 ストレスマネジメント 第10回 実習：Social Skills Training 1 第11回 実習：Social Skills Training 2 第12回 人間性心理学およびクライアント中心療法 1 第13回 人間性心理学およびクライアント中心療法 2 第14回 後期のまとめ 第15回 後期試験	
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義が中心であるが、視覚資料を適宜用いる。 ・授業の一環として、心理臨床の現場で用いる支援の技法について実習を行う。 ・授業に出席するにあたっては「何かを与えてもらう」という態度ではなく「積極的に参加する」という態度を歓迎す 		
テキスト	特に定めない	参考文献	適宜紹介する
評価方法	前期試験:40% 後期試験:40% 実習:10% 出席:10%		

発達心理学		通年 4 単位	1・2年
個人の発達／家族の中の発達		大野 祥子 (おおの さちこ)	
ねらい	前期は生涯発達心理学の基礎について学ぶ。環境との相互作用を通して自分を形成していく発達のダイナミズムを知り、人間についての理解を深めてほしい。後期は個人の発達と家族関係を中心に取り上げる。女性にとって家庭生活と自分らしさの両立は一生のテーマとなる。近い将来の自分の生き方について考える機会としてほしい。		
授業計画	【前期】 第1回 生涯発達心理学とは何か 第2回 赤ちゃんの有能さ 第3回 赤ちゃんの社会性 第4回 養育者との絆－愛着 第5回 発達の可塑性 第6回 言葉の発達 第7回 考える力の発達 第8回 自分を知る・他者を知る 第9回 エリクソンの発達段階1－自分でできる喜び 第10回 エリクソンの発達段階2－青年期の心理 第11回 性役割の発達 第12回 エリクソンの発達段階3－次世代を育てる 第13回 年をとること＝衰えか？ 第14回 もう一つの賢さ－英知 第15回 試験	【後期】 第1回 人間にとって家族とは何か 第2回 現代家族をとりまく社会状況 第3回 現代女性のライフコース 第4回 母性神話を考える 第5回 育児は大変か(ビデオ) 第6回 育児不安はなぜ起こるのか 第7回 家族を営むこと 第8回 結婚・夫婦関係の心理 第9回 親子関係の心理 第10回 親子関係の発達 第11回 家族システムと個人の発達 第12回 家族カウンセリング 第13回 再び、人間にとって家族とは何か 第14回 新しい家族のかたち 第15回 試験	
進め方	講義を中心に進める。リアクションペーパーを通して寄せられる受講生の疑問や関心にできるだけ応えながら進めたいと考えているので、取り上げるトピックや順序が予定とは変わることもある。		
テキスト	前期：テキストは使用せず、資料を配布する。 後期：柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待(第2版)』ミネルヴァ書房	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	出席:10% リアクションペーパー:25% 小課題:25% 試験:40%		

社会学		通年 4 単位	1・2年
基本的テーマの考察を中心に、社会学の考え方を学ぶ		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
ねらい	社会学は、心理学、文化人類学とともに行動科学に分類されているが、人間の形づく社会生活、集団、社会を研究し、社会的存在としての人間の行動の解明を目指している。この講義では、社会学の基本的な考え方だけでなく、ミクロレベルの現代人の意識や行動からマクロレベルの現代社会の社会構造まで、理解を深めることを目指したい。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 社会学の性格と基礎概念 第2回 社会とは何か 第3回 個人と社会 (1) 社会的ジレンマ 第4回 個人と社会 (2) 社会化 第5回 個人と社会 (3) 社会的性格 第6回 禁欲的プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 第7回 地位と役割 第8回 集団の構造と機能 第9回 不平等な社会 (1) 社会階級 第10回 不平等な社会 (2) 社会階層 第11回 不平等な社会 (3) 社会移動 第12回 不平等な社会 (4) 日本の社会階層と社会移動 第13回 不平等な社会 (5) 学歴社会 第14回 不平等な社会 (6) 格差社会 第15回 試験	<p>【後期】</p> 第1回 家族 (1) 家族の類型 第2回 家族 (2) 家族の構造と機能 第3回 家族 (3) 親族 第4回 家族 (4) 結婚 第5回 家族 (5) 離婚 第6回 集合行動 (1) うわさ・流言・デマ 第7回 集合行動 (2) うわさ・流言・デマ 第8回 集合行動 (3) 都市伝説 第9回 集合行動 (4) うわさ・流言の性質と対策 第10回 集合行動 (5) 流行 第11回 現代社会論 (1) 産業社会論 第12回 現代社会論 (2) 大衆社会論 第13回 現代社会論 (3) 情報化社会論 第14回 現代社会論 (4) 消費社会論 第15回 試験	
進め方	講義による。		
テキスト	特に使用しない。	参考文献	A・ギデンズ著『社会学』（而立書房）W・グールド著『社会学の基本的な考え方』（而立書房）松田健著『テキスト現代社会学』[第2版]（ミネルヴァ書
評価方法	出席:15% 定期試験:85%		

マス・コミュニケーション		通年 4 単位	1・2年
マス・メディアを理解しそのメッセージを読みとく		長谷川 倫子 (はせがわ ともしこ)	
ねらい	メディア論の視点から各メディアの成り立ちをたどり、近代化とともに新しいコミュニケーション・ツールがマス・メディアとなるまでを理解する。日本におけるマス・メディア産業やジャーナリズムの特徴と現状について解説する。メディアの影響や効果をめぐる考えを紹介し、事例を通じて生活のなかのマス・メディアをクリティカルな視点から見直		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 マス・コミュニケーションとマス・メディアとは 第2回 近代化と印刷メディアの登場 第3回 映画の輸入・定着からトーキーへ 第4回 ラジオの登場とその普及 第5回 戦時体制下のマス・メディア 第6回 高度経済成長とテレビ 第7回 大衆社会とマス・メディア 第8回 日本の新聞 第9回 日本の放送 第10回 日本の映画 第11回 日本の出版 第12回 衛星放送からデジタル化へ 第13回 メディアの個別化を考える 第14回 日本人とマス・メディア (1) 第15回 日本人とマス・メディア (2)	<p>【後期】</p> 第1回 マス・メディアの影響を考える 第2回 火星からの侵入と大衆説得 第3回 2段の流れ研究 第4回 利用と満足の研究 第5回 議題設定機能と沈黙のらせん 第6回 テレビと子ども 第7回 ジャーナリズムとは 第8回 ニュースとニュース番組を考える 第9回 政治とメディア 第10回 マス・メディアと社会制度 第11回 対外メディア戦略としての国際情報発信 第12回 グローバル化とマス・メディア 第13回 プロパガンダとは 第14回 戦争とメディア 第15回 これからのメディア環境	
進め方	遅刻なしで出席すること。パワー・ポイントやビデオなどの視覚・映像資料を用いてわかりやすい講義を心がけるつもりです。出席重視ですが、レポートや課題の配点も高いので出席だけでは単位はとれません。履修確認のため、1回目の講義には必ず出席のこと。		
テキスト	講義にて紹介する。	参考文献	講義にて紹介する。
評価方法	出席点:30% 講義中の課題:30% レポートか期末試験:40%		

簿記原理		通年 4 単位	2年
簿記の基本		福井 由実 (ふくい ゆみ)	
ねらい	本授業では初めて簿記を学ぶ学生を対象とする。1年を通して簿記一巡の手続きを学び、複式簿記の基本的な概念を学ぶ。日商3級程度の内容を扱い、簿記のルールや用語について詳しく説明していく予定である。		
授業計画	【前期】 第1回 簿記の意義とその目的 第2回 資産の定義 第3回 負債の定義 第4回 資本の定義 第5回 資産・負債・資本の関係 第6回 貸借対照表 第7回 収益の定義 第8回 費用の定義 第9回 純損益の求め方 第10回 損益計算書 第11回 財産法と損益法 第12回 貸借対照表と損益計算書の作成 第13回 企業会計原則について 第14回 前期のまとめその1 第15回 前期のまとめその2	【後期】 第1回 簿記会計上の取引 第2回 取引の8要素 第3回 仕訳とは何か・仕訳のルール 第4回 仕訳練習その1 第5回 仕訳練習その2 第6回 試算表と精算表の作成 第7回 仕訳帳作成 第8回 総勘定元帳への転記 第9回 簿記上の現金・現金過不足 第10回 当座預金・小口現金 第11回 有価証券 第12回 約束手形 第13回 伝票 第14回 有価証券 第15回 固定資産	
進め方	講義中心であるが理解を深めるために授業中に練習問題を解く予定である。授業時には毎回レジュメを配布し、レジュメとテキストを併用して授業を進めていく。小テストも随時行う予定である。		
テキスト	新版 簿記の基本を学ぶ 八田進二 橋本尚 同文館出版	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	定期試験:90% 小テスト:10%		

商品学・流通論 I		前期 2 単位	1・2年
消費者への価値創造と企業活動		伊藤 匡美 (いとう まさみ)	
ねらい	大ヒット商品や人気のお店が生まれるのはなぜか。その背後では、どんな企業がどのような活動を行っているのか。私達が日頃目にする現象やその仕組みについて、流通・マーケティングの見地から論理的に考えていくことにする。		
授業計画	【前期】 第1回 流通の位置づけと構造 第2回 消費者と流通①—消費構造とその変化— 第3回 消費者と流通②—店舗選択基準— 第4回 消費者と流通③—買物行動と商品分類— 第5回 流通の役割と卸売業・小売業 第6回 小売業の機能と構造 第7回 小売業の店舗形態と経営特性①—百貨店— 第8回 小売業の店舗形態と経営特性②—チェーンストアその1— 第9回 小売業の店舗形態と経営特性③—チェーンストアその2— 第10回 小売業の店舗形態と経営特性④—コンビニエンスストア— 第11回 マーケティングについて①—基本的な考え方— 第12回 マーケティングについて②—マーケティング環境分析— 第13回 マーケティングについて③—マーケティング・チャネル— 第14回 マーケティングについて④—マーケティング戦略— 第15回 試験		
進め方	講義を中心に行う。身近な事例を具体的に挙げながら、わかりやすく話を進めていくつもりである。		
テキスト	鈴木安昭『新・流通と商業』（有斐閣）	参考文献	講義の中で随時紹介する。
評価方法	前期末に行う定期試験:95% 小レポート:5%		

商品学・流通論Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
流通の機能・役割とその変化		長原 紀子（ながはら のりこ）	
ねらい	製品やサービスは流通過程を経て“商品”になる。流通の機能・役割の基本と、変化する流通業の実態を学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 授業ガイダンス 第2回 流通の社会的役割と仕組み 第3回 流通の機能 第4回 卸売業の役割と機能 第5回 小売業の役割と機能 第6回 小売業の形態と構造および変化 第7回 消費者と流通 第8回 ストアコンパリゾンへオリエンテーションと実習へ 第9回 ウェブ時代の流通 第10回 ストアコンパリゾン発表会1 第11回 ストアコンパリゾン発表会2 第12回 流通とマーケティング 第13回 顧客心理と販売技術1 第14回 顧客心理と販売技術2 第15回 流通・商業に関する公共政策		
進め方	基本的には座学を中心に行うが、街で実際に店舗を見て比較・発見するストアコンパリゾンを組み入れる。身近で具体的な事例を数多くとりあげ、流通についての理解を深める。		
テキスト	新・流通と商業（有斐閣） お客がわかれば売り方がわかる（商業界）	参考文献	必要に応じて資料を紹介する。
評価方法	出席:50% レポート（2回）:50%		

科学文化史		通年 4 単位	1・2年
中国の科学技術史		八耳 俊文（やつみみ としふみ）	
ねらい	ここでは中国の伝統社会の中で発達した科学についてまなびます。科学は自然認識の一様式と考えれば、中国にも独特な自然観や身体観が存在し、中国の文化を豊かなものにしました。したがって中国科学史をまなぶねらいは、個々の科学の内容を知るにとどまらず、科学を通じて中国さらには東アジアの社会や文化の理解を深めることにあります。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 「科学」と「Science」 第2回 中国になぜ科学革命が起きなかったのか 第3回 中国の古代文明 第4回 太陽暦と太陰暦 第5回 甲骨文と殷代の暦 第6回 諸子百家 第7回 天の形状をめぐる論争 第8回 古代中国の算学 第9回 古代中国の医学 第10回 不老不死と本草の成立 第11回 韓国古代科学史と日本 第12回 律令国家に取り入れられた科学：日本の陰陽寮と典薬寮 第13回 キトラ古墳と七夕伝説 第14回 沈括と『夢溪筆談』 第15回 試験	<p>【後期】</p> 第1回 朱子の自然学 第2回 マルコ・ポーロと『東方見聞録』の成立 第3回 『東方見聞録』にみるもう一つの中国科学史 第4回 中国の理想都市「北京」 第5回 鄭和の大航海 第6回 宇宙誌としての『本草綱目』（1） 第7回 宇宙誌としての『本草綱目』（2） 第8回 『天工開物』にみる中国の伝統技術 第9回 イエズス会の東方布教 第10回 マテオ・リッチの業績 第11回 江戸時代の科学技術 第12回 ヨーロッパにおける中国イメージの変遷 第13回 アヘン戦争と中国の開国 第14回 入華プロテスタント宣教師の文化事業 第15回 試験	
進め方	プリントを配布し、それを利用しながら講義します。		
テキスト	教科書となる特定のテキストは用いません。	参考文献	藪内清『中国古代の科学』（講談社）、J. ニーダムほか『中国の科学と文明』（思案社）、R. テンプル『改訂新版／図説 中国の科学と文明』（河出書房
評価方法	出席:20% 4000字以上のレポート:30% 前期末・後期末試験:50%		

現代科学		通年 4 単位	1・2年
現代科学・技術を歴史的視点および具体的事例から検討し、その問題点やあり方について考える。		小林 学（こばやし まなぶ）	
ねらい	前期は、科学と技術を歴史的に検討することによって、現代科学・技術の特質を理解する。後期は、それに加えて、現代の具体的事例から現代科学・技術の諸問題について検討する。日本の技術発達の特徴についても検討する。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 科学の起源(1)—イオニア・イオニアの自然哲学者たち 第2回 科学の起源(2)—ヘレニズム期・ローマ時代の科学と技術 第3回 イスラームの科学・技術と12世紀ルネサンス 第4回 中国の技術 第5回 近代科学の誕生(1)—コペルニクス、ケプラー、ガリレオ 第6回 近代科学の誕生(2)—ガリレオの宗教裁判 第7回 近代科学の誕生(3)—デカルト、ニュートン 第8回 近代化学の展開 第9回 イギリス産業革命(1)—綿工業における技術革新 第10回 イギリス産業革命(2)—ワットによる蒸気機関の改良 第11回 イギリス産業革命(3)—産業革命の社会的帰結 第12回 鋼の時代—近代溶鋼法の成立 第13回 19世紀の技術発達—蒸気船、鉄道、電信など 第14回 アメリカの大量生産技術と大衆消費社会の誕生 第15回 試験	<p>【後期】</p> 第1回 帝国主義と技術 第2回 第一次・第二次世界大戦と技術発達 第3回 日本の原爆開発 第4回 スペースシャトル・チャレンジャー号の爆発事故 第5回 日本技術発達の諸問題(1)—水俣病 第6回 日本技術発達の諸問題(2)—歴史から見た水俣病 第7回 日本技術発達の諸問題(3)—イタイイタイ病 第8回 日本技術発達の諸問題(4)—現在のイタイイタイ病 第9回 企業の社会的責任—三菱自動車のリコール隠し 第10回 航空機の安全性—日航機123便の墜落事故 第11回 放射線による人体の影響、原子力開発の光と影 第12回 JCOの臨界事故 第13回 現代科学の盲点—論文捏造 第14回 技術が引き起こす事故の克服—ボイラーの検査態勢の確立 第15回 地球温暖化	
進め方	講義の最後5～10分ぐらいの時間をとって、講義の感想・意見などを書いて提出。これは講義改善のために使用するもので、成績とは関係がない。自由な感想・意見を希望する。単位の認定には、前期10回、後期10回以上の出席を要する。		
テキスト	特に指定しない	参考文献	その都度提示する
評価方法	試験:50% レポート:50%		

生態学		通年 4 単位	1・2年
生態系と人間のくらし		高坂 宏一（たかさか こういち）	
ねらい	わたしたち人間を含め、あらゆる生物とその環境が織り成すシステムである生態系の理解をもとに、さまざまな地域（インドネシアやボリビアなど）で多様な生活を営む人々の暮らしをみながら、さらにまた、ヒトの進化や適応あるいは人口の視点から、わたしたちの生存を支えている生態学的条件について考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 生態学序論 第2回 生態系とはどのようなものか 第3回 食物連鎖について考える 第4回 生態系におけるエネルギーの流れ 第5回 生物濃縮と健康問題 第6回 生態系と環境問題 第7回 生態系におけるヒトの特殊性 第8回 人類の起源をめぐって 第9回 ヒトとは 第10回 人類の進化：猿人から現生人類へ 第11回 人類の全地球への移動・拡散 第12回 適応するということ 第13回 ささまざまな環境への適応 第14回 採集狩猟という生業と生態系 第15回 農耕の開始とその生態学的な意味	<p>【後期】</p> 第1回 世界の農耕文化 第2回 農耕と文明の発達 第3回 事例：インドネシアの農村 第4回 事例：アンデス高地の環境・人・暮らし 第5回 事例：アンデス高地のジャガイモ栽培とその加工 第6回 文化的適応ということ：ジャガイモ加工をめぐって 第7回 文化的適応ということ：子育てをめぐって 第8回 個体群（人口）の生態学：増大する個体群 第9回 個体群（人口）の生態学：抑制される個体群 第10回 世界人口の推移：過去、現在、将来 第11回 人口増加のメカニズム 第12回 人口増加とその影響（人口問題—その1） 第13回 少子化と人口の高齢化（人口問題—その2） 第14回 地球環境問題 第15回 まとめ	
進め方	インドネシアやボリビアなどでの現地調査の映像などを利用し、学生の理解度を確認しながら進める。		
テキスト	大塚柳太郎他『人類生態学』（東京大学出版会）	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	試験:80% 平常点（小テスト等）:20%		

環境科学		通年 4 単位	1・2年
環境問題の科学的理解		廣田 道夫 (ひろた みちお)	
ねらい	人間と環境が調和した社会を構築するためには、種々の環境問題に広い視野を持って対応する必要があります。環境問題を科学的に的確に理解し、判断し、対応できるように柔軟な考え方を育て、健全な環境保全の意識を養うことを目的とします。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 講義内容の概略説明 第2回 環境とは何か、人口と食糧 第3回 資源・エネルギーと環境 第4回 自然の浄化作用と環境汚染物質 第5回 自然の浄化作用と環境汚染物質 第6回 我が国の環境の概要、大気環境 第7回 我が国の大気環境 第8回 我が国の水環境 第9回 我が国の水環境 第10回 我が国の土壌環境 第11回 化学物質の健康影響・安全管理 第12回 廃棄物とリサイクル 第13回 廃棄物とリサイクル 第14回 監視体制 第15回 試験	<p>【後期】</p> 第1回 地球環境問題の概要 第2回 地球温暖化・二酸化炭素問題 第3回 地球温暖化・二酸化炭素問題 第4回 オゾン層破壊 第5回 オゾン層破壊 第6回 酸性雨 第7回 酸性雨 第8回 森林の保護 第9回 砂漠化、生物多様性 第10回 放射能汚染 第11回 国際的な観測網 第12回 国際的な観測網 第13回 環境を守る生き方 第14回 環境と国際関係・国際協力 第15回 試験	
進め方	講義を中心に進めるが、テーマによっては受講生が調査し、発表、議論する時間を設ける。		
テキスト	適宜資料を配布する。	参考文献	日本化学会編「暮らしと環境科学」（東京化学同人）。その他適宜紹介する。
評価方法	出席:40% 試験:60%		

人文地理学		通年 4 単位	1・2年
人文地理学の視点と身近な世界		山本 理佳 (やまもと りか)	
ねらい	本講義では、人文地理学の視点を理解し、その視点から自身を取り巻く身近な世界をとらえ直し、考察することを目指します。特に多様な映像資料を通して、文化的現象や歴史的事象も含みこむ人文地理学の対象の幅広さを知ってもらい、自身の興味関心に引きつけて現実世界をとらえることを学んでもらいたいと思います。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 授業オリエンテーション 第2回 地図のいろいろ 第3回 地図からさぐる地域① 第4回 地図からさぐる地域② 第5回 地図からさぐる地域③ 第6回 メンタルマップー人間の空間認識と地図ー 第7回 景観からさぐる地域① 第8回 景観からさぐる地域② 第9回 景観と認識① 第10回 景観と認識② 第11回 地域と歴史変化① 第12回 地域と歴史変化② 第13回 地域を調べる① 第14回 地域を調べる② 第15回 前期授業のまとめ	<p>【後期】</p> 第1回 後期授業オリエンテーション 第2回 文化と地域性① 第3回 文化と地域性② 第4回 文化と地域性③ 第5回 文化と地域性④ 第6回 文化と地域性⑤ 第7回 レポート作成① (問題意識と筋立てについて) 第8回 レポート作成② (地図をさがす) 第9回 レポート作成③ (古い地図をさがす1) 第10回 レポート作成④ (古い地図をさがす2) 第11回 レポート作成⑤ (古い写真をさがす1) 第12回 レポート作成⑥ (古い写真をさがす2) 第13回 レポート作成⑦ (写真をとる) 第14回 レポート作成⑧ (まとめ) 第15回 1年間のまとめ	
進め方	前期は、地理学の主要分析ツールである地図と景観から、人文地理学の基本的な見方を紹介します。後期は、様々な「文化」（音楽、観光、文化財…）とその背後にある地域性の問題に目を向け、今日の諸現象から「地域」をとらえる視点を提示します。課題レポートでは授業で習得した視点を活かして、各々身近な地域の調査報告に取り組んで頂き		
テキスト	使用しません。	参考文献	授業中適宜指示します。
評価方法	前期レポート:35% 後期レポート:35% 出席(平常点):30%		

環境計画論		通年 4 単位	1・2年
市民主体の環境づくりを考える～身近な環境をより豊かにしていくために		狩野 三枝 (かりの みえ)	
ねらい	我々を取り巻く環境は、地球レベルの話から家族関係やゴミに至るまで、すべて切り離すことのできないつながりを持っています。誰もが自分らしく生きられる環境づくりは、市民一人一人が主体的に関わる事から始まります。ここでは、現実の事例から新しい考え方を学び、 身近な環境づくりに自らがどう関わっていくか を一年間通して考えます。		
授業計画	【前期】 第1回 環境計画論って何？ 第2回 さまざまな「環境」の意味を考えよう 第3回 コミュニケーション技術を学ぶ：グループ討論 第4回 持続可能な社会：根源からお金を問う 第5回 持続可能な社会：環境と農業 第6回 新しい公共の担い方：NPOの活動 第7回 課題1説明：東京農業を広める環境アクションを考えよう 第8回 グループテーマの検討 第9回 グループテーマの決定・調査方法の検討・仮説づくり 第10回 グループワーク 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 中間発表 第14回 グループワーク 第15回 まとめ作業	【後期】 第1回 まとめ作業 第2回 課題1～グループ発表と評価 第3回 課題1～グループ発表と評価 第4回 対話のレッスン 第5回 住環境：コレクティブハウジング概論、北欧事例 第6回 住環境：日本のコレクティブハウジングとコミュニティ 第7回 地域環境：市民参加のまちづくり 第8回 課題2説明：まちの暮らしやすさの秘密発見 第9回 グループテーマの検討 第10回 グループテーマの決定・調査方法の検討・仮説づくり 第11回 グループワーク 第12回 グループワーク 第13回 グループワーク 第14回 まとめ作業 第15回 課題2～グループ発表と評価	
進め方	まず、身近な環境について、既成概念にとらわれず柔軟な考えを持てるよう、ビデオなどで様々な情報を提供し、その後、数人単位のグループになり、テーマを決めて課題に取り組みます。前期、後期とも各一課題とし、より多くの知識やクリエイティブな発想・深い考察ができるように、グループ単位で調査・企画し、成果発表。成果は個人でも提		
テキスト	特に使わない。必要な資料は随時配付。課題のまとめに必要な記録用写真やコピー代、地図・交通費等の費用は随時個人負担。通年で三千元程度。	参考文献	僕たちの街づくり作戦/マイケル・ノートン著（都市文化社）、参加するまちづくり（OM出版）など。その他、授業時に随時紹介。
評価方法	課題1：30% 課題2：30% 平常点：40%		

環境デザイン論		通年 4 単位	1・2年
環境デザイン論		禅野 靖司 (ぜんの やすし)	
ねらい	都市や建築、身近なデザインの歴史や社会との関係を学びます。様々な文化や時代の都市や暮らし空間の様子、さらに現代の生活における環境問題と暮らし空間の関係、その解決の試みについて学ぶことで、自らの生活や仕事の環境を主体的に捉え直し、また他の異なる環境に生きる人々の環境を想像する力を養います。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 日本の都市と建築のデザインの歴史 古代 第3回 日本の都市と建築のデザインの歴史 古代 第4回 日本の都市と建築のデザインの歴史 中世 第5回 日本の都市と建築のデザインの歴史 中世 第6回 日本の都市と建築のデザインの歴史 近世・近代 第7回 日本の都市と建築のデザインの歴史 近世・近代 第8回 日本の都市と建築のデザインの歴史 現代 第9回 日本の都市と建築のデザインの歴史 現代 第10回 見学会 第11回 建築と都市の社会事情2 都市計画と環境 第12回 建築と都市の社会事情3 多様な人々 第13回 建築と都市の社会事情4 まちづくり運動 第14回 建築と都市の社会事情5 福祉と暮らし 第15回 中間テスト	【後期】 第1回 後半のガイダンスとグループ分け 第2回 世界の住宅デザインとその環境 アジア1 第3回 世界の住宅デザインとその環境 アジア2 第4回 世界の住宅デザインとその環境 アジア3 第5回 世界の住宅デザインとその環境 アメリカ1 第6回 世界の住宅デザインとその環境 アメリカ2 第7回 世界の住宅デザインとその環境 アメリカ3 第8回 世界の住宅デザインとその環境 ヨーロッパ1 第9回 世界の住宅デザインとその環境 ヨーロッパ2 第10回 世界の住宅デザインとその環境 ヨーロッパ3 第11回 世界の住宅デザインとその環境 その他の地域1 第12回 世界の住宅デザインとその環境 その他の地域2 第13回 発表 第14回 発表 第15回 最終テスト	
進め方	基礎的な知識や事例について文献と講義を通じて学びますが、なるべくビデオやパワーポイントなど視覚的な資料を用います。またシラバスにない見学会も、状況に応じ随時行なう予定です。評価に関しては、中間と最終の試験の他に、前期後期とも学期中に数回、授業の内容に関する抜き打ちの簡単なクイズをするので、毎回の出席は必須です。		
テキスト	特になし	参考文献	最初のガイダンスのときに指示します。
評価方法	授業への参加度：10% クイズ及びエッセイ：30% 中間テスト：30% 最終テスト：30%		

統計学		通年 4 単位	1・2年
前期：統計的方法の紹介、記述統計 後期：確率分布、標本分布、推測統計		本郷 茂（ほんごう しげる）	
ねらい	統計的情報を正しく把握するには、統計的手法について理解しておく必要がある。前期では、統計的手法を学ぶ上での初歩的な知識を身につけてもらうことを目標とする。後期では、統計学の数学的理論体系に深入りすることを避け、応用的な立場から、演習問題を各自解くことを通して、統計学の基本的な概念や手法を修得することを目的とす		
授業計画	【前期】 第1回 統計的方法について 第2回 データの分類、グラフによる表示 第3回 “ ” 第4回 データの平均、中央値、最頻値 第5回 “ ” 第6回 データの標準偏差、分散 第7回 “ ” 第8回 相関係数 第9回 “ ” 第10回 統計と確率 第11回 “ ” 第12回 正規分布 第13回 “ ” 第14回 前期のまとめと演習 第15回 前期試験	【後期】 第1回 確率と確率変数 第2回 “ ” 第3回 確率変数の期待値 第4回 “ ” 第5回 主要な確率分布 第6回 “ ” 第7回 標本抽出 第8回 “ ” 第9回 統計的推定 第10回 “ ” 第11回 統計的検定 第12回 “ ” 第13回 回帰分析 第14回 後期のまとめと演習 第15回 後期試験	
進め方	講義が中心となるが、毎回の講義内容の理解が重要となるため、各自の修得状況を確認する目的で授業中に数回小テストを行う。授業中に電卓（平方根（√）機能付き）を使用するため、毎回持参すること。毎回、授業中に計算課題など行うため、毎回の出席が重要である。期末試験を行うが、他に平常点（授業中の小テスト）、出席点を加味して評価す		
テキスト	第1回目の授業時に指示する。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	期末試験 約:60% 授業中の小テスト等（平常点）	約:25%	毎回の出席等（出席点） 約:15%

情報科学		通年 4 単位	1・2年
教養としての情報科学		小山 俊士（こやま しゅんし）	
ねらい	現代社会のあらゆる場面で使われるコンピュータと的確につきあっていくための、基礎教養を身につけることを目的とする。特にここでは、歴史的な発展を中心とした解説を行い、それを通じて情報科学の基本的な考え方の理解を目指す。同時に、他の自然科学や工学の分野との関係、思想や哲学、社会との関係も扱う予定である。		
授業計画	【前期】 第1回 情報科学とは何か、どのようにして生まれたか？ 第2回 コンピュータの動作原理：論理回路と二進法 第3回 第二次世界大戦とコンピュータ開発 第4回 情報の検索 第5回 コンピュータ以前の計算機 第6回 フォン・ノイマンとコンピュータの起源 第7回 商業用コンピュータとIBM 第8回 トランジスタの発明 第9回 集積回路とシリコンバレー 第10回 パーソナル・コンピュータ 第11回 プログラミング言語とオペレーティングシステム 第12回 ソフトウェア産業の拡大 第13回 ソフトウェアの危機とソフトウェア工学 第14回 GUIとゲーム開発 第15回 前半のまとめ	【後期】 第1回 シャノンの情報理論 第2回 サイバネティックスと人工知能 第3回 インターネット 第4回 コンピュータ上での日本語の利用 第5回 音楽のデジタル化、ネット配信と著作権 第6回 ネット社会の危険性 第7回 暗号とセキュリティ 第8回 携帯電話とコミュニケーション 第9回 検索とグーグル 第10回 書籍のデジタル化 第11回 Web上でのビジネス、Amazon 第12回 ウィキペディアとオープンソース 第13回 デジタル・デバイドと情報リテラシー 第14回 情報社会 第15回 後半のまとめ	
進め方	講義を中心とするが、その中で提示する資料を読み、関連する事項について自ら調べ、考えたことをレポートにすることができると望ましい。		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	毎回の講義の中で指示する。
評価方法	出席:20% 授業態度:20% レポート:60%		

人間工学		通年 4 単位	1・2年
身体・心理特性に合った製品と生活環境づくりなどについて学びます。		永田 久雄（ながた ひさお）	
ねらい	デザイナー、エンジニアのためでなく、生活する人々のための「人間工学」を目指します。生活者の安全を最優先とした上で、QOL（生活の質）の向上のための製品、生活環境づくりなどについて幅広く学んでゆきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 人間工学の講義を通して伝えたいこと 第2回 骨格・関節・筋肉の仕組み 第3回 見る仕組み 第4回 聞く仕組み 第5回 体温調節系の仕組み（小テスト） 第6回 姿勢・人体寸法と姿勢 第7回 脳の仕組みー感覚、知覚、認識そして感情 第8回 作業とボディメカニクス 第9回 Usabilityと製品・生活環境 第10回 Accessibilityと製品・生活環境（小テスト） 第11回 Mobilityと製品と生活環境 第12回 Human Errorと製品・生活環境 第13回 Human-Machine Interfaceのデザイン 第14回 ユニバーサルデザイン（アンケート・試験の説明） 第15回 前期試験</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 製品と生活環境づくりなどの進め方 第2回 歩行移動環境と転び 第3回 転び予防のための対策 第4回 履物を選ぶ 第5回 住宅・住処のデザイン（小テスト） 第6回 育児への応用 第7回 姿勢、体形、動きの変化の理解 第8回 介護・看護Careのデザイン 第9回 福祉機器のデザイン 第10回 みやすさとサインのデザイン（小テスト） 第11回 枕とベッドのデザイン 第12回 情報とUbiquitous社会 第13回 感情の理解と円滑なコミュニケーションの進め方 第14回 製品開発の実際（アンケート・試験の説明） 第15回 後期試験</p>	
進め方	配布テキストと、適宜、教科書を使用します。課題、小テスト、試験で評価します。また、理解度に応じて、シラパスの内容は修正、変更することがあります。		
テキスト	永田久雄『「転び」事故の予防科学』（労働調査会）、配布テキスト。	参考文献	特に無し
評価方法	小テスト:20% 課題:20% 試験:60%		

教養演習	前期 2 単位	1年
演習のコツを学ぶ		
<p>【担当教員】 秋富 創（あきとみ はじめ）、川下 新次郎（かわした しんじろう）、小林 瑞乃（こばやし みずの）、櫻井 成美（さくらい なるみ）、島崎 みどり（しまざき みどり）、西願 広望（せいがん こうぼう）、禪野 靖司（ぜんの やすし）、武田 美垂（たけだ みあ）、中井 章子（なかい あやこ）、中村 淳（なかむら じゅん）、信澤 久美子（のぶさわ くみこ）、人見 伸子（ひとみ のぶこ）、廣松 悟（ひろまつ さとる）、本多一ハワード 素子（ほんだ もとこ）、三浦 明子（みうら あきこ）、八耳 俊文（やつみみ としふみ）、輪島 達郎（わじま たつろう）、渡邊 良智（わたなべ よしと）</p> <p>【ねらい】 大学での新しい授業形態として演習があります。一方的な受け身の授業になりやすい「講義」にたいして、各人が積極的に参加し寄与することが求められるのが「演習」です。教養演習では、まず演習形式の授業に慣れること、そして演習への参加方法を身につけること、が期待されます。教養学科の1年後期から卒業までの1年半にわたる専門演習が、スムーズに行われるためには、参加者に一定の訓練が必要です。教養演習は、演習の「コツ」を習得することを目的としています。</p> <p>【授業内容】 教養演習では、テキストの読み方、レジュメ（要約）のつくり方、自分の意見の発表の仕方、そして議論の仕方だけでなく、時間に余裕があれば、文章のまとめ方・レポートの作成方法まで、学ぶことが期待されています。</p> <p>【授業計画】 第1回 教養演習の進め方の説明 第2回 発表・討議 第3回 発表・討議 第4回 発表・討議 第5回 発表・討議 第6回 発表・討議 第7回 発表・討議 第8回 発表・討議 第9回 発表・討議 第10回 教養演習全体会 第11回 発表・討議 第12回 発表・討議 第13回 発表・討議 第14回 まとめ 第15回 レポート</p> <p>【進め方】 1年生を18のグループに分けて、1グループ約10人の少人数の授業を行います。 取り上げるテキストを決め、それを参加者全員で分担して読み、そこに出てくるテーマについて議論するのが、標準的な進め方です。あらかじめ指定された、その日の発表者はもちろんですが、その他のメンバーもテキストを予習して、自分の意見や質問を述べるのが期待されます。他の人の意見を聞き、これに触発されてさらに意見や質問がでるような、ダイナミックな授業が、実現できるよう頑張りましょう。</p> <p>【テキスト】 演習ごとにテキストは異なると考えられます。しかしながら、それぞれの担当教員が取り上げるテキストは異なっても、将来どの専門演習を選ぶにせよ、教養学科の学生なら知っていてほしい、基礎的な教養に属するものです。</p> <p>【評価方法】 出席点・平常点 50% レポート50%</p> <p>【その他】 教養演習のグループ分けは、4月15日(木)午後1:00に学生ポータルにてお知らせします。毎回出席することに意味のある授業ですから、無断欠席は許されません。万一欠席する場合は、必ず担当教員が教養学科研究室の副手まで連絡して下さい。</p>		

日本史演習		後期 2 単位	1年
日本近現代史を学ぶ		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
ねらい	民権、社会主義、フェミニズムなど近代日本思想史の基礎的知識への理解を深めながら、世界と日本、アジアとの関係、国家と個人、戦争、貧困、差別、人権など、現代にまで続く様々な課題について考察する。史料を多角的に分析する作業の中で歴史学の方法を習得し、各自の問題意識を明確にすることを旨とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 テキスト・史料講読と討論 第3回 テキスト・史料講読と討論 第4回 テキスト・史料講読と討論 第5回 テキスト・史料講読と討論 第6回 テキスト・史料講読と討論 第7回 テキスト・史料講読と討論 第8回 テキスト・史料講読と討論 第9回 テキスト・史料講読と討論 第10回 テキスト・史料講読と討論 第11回 テキスト・史料講読と討論 第12回 テキスト・史料講読と討論 第13回 テキスト・史料講読と討論 第14回 テキスト・史料講読と討論 第15回 まとめ		
進め方	テキストや史料について分担報告したり、レポートの報告・提出などを予定しているが、テキストや具体的な授業の進め方などについては、第1回目の授業時に出席者との話し合いの上で決定したい。		
テキスト	鹿野政直『日本の近代思想』（岩波新書）を読む 予定。	参考文献	授業中に適宜指示する
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

日本史演習		通年 4 単位	2年
自分の中の「歴史」を知る		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
ねらい	各自が興味をもったテーマについてさらに問題の所在を探り、調査・研究する。研究報告を積み重ねることで歴史学の方法を習得し、オリジナリティのある卒業論文の完成を目指す。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 テキスト講読と討論 第3回 テキスト講読と討論 第4回 テキスト講読と討論 第5回 テキスト講読と討論 第6回 テキスト講読と討論 第7回 テキスト講読と討論 第8回 テキスト講読と討論 第9回 テキスト講読と討論 第10回 テキスト講読と討論 第11回 テキスト講読と討論 第12回 テキスト講読と討論 第13回 各自の研究テーマに関する報告 第14回 各自の研究テーマに関する報告 第15回 各自の研究テーマに関する報告	【後期】 第1回 卒業論文の研究報告 第2回 卒業論文の研究報告 第3回 卒業論文の研究報告 第4回 卒業論文の研究報告 第5回 卒業論文の研究報告 第6回 卒業論文の研究報告 第7回 卒業論文の研究報告 第8回 卒業論文の研究報告 第9回 卒業論文の研究報告 第10回 卒業論文の研究報告 第11回 卒業論文の研究報告 第12回 卒業論文の研究報告 第13回 卒業論文の研究報告 第14回 卒業論文の研究報告 第15回 卒業論文の提出	
進め方	前期はおもに分担してテキスト講読の発表を行いながら、史料読解や分析の方法等について学ぶ。後期は、各自の卒業論文の研究成果を報告し、参加者との活発な議論を通じて各自の研究テーマを深めていく。先行研究や史料読解、論文の書き方など、論文完成に向けて全般的な指導を行う。		
テキスト	第一回目の授業の際に話し合いの上で決定したい。	参考文献	授業中に随時紹介する
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

西洋史演習		後期 2 単位	1年
歴史学入門		西願 広望 (せいがん こうぼう)	
ねらい	歴史学の方法論を学ぶ。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 序論 第2回 歴史への問い 歴史からの問い 第3回 証拠としての史料・資料 第4回 歴史の舞台としての環境 第5回 時間の認識と時代区分 第6回 歴史の重層性と地域からの視線 第7回 グローバルな歴史の捉え方 第8回 身体と病と「生死観」 第9回 歴史人口学が拓いた地平 第10回 人と人とを結ぶもの 第11回 比較というまなざし 第12回 政治と文化の再考 第13回 歴史と記憶または歴史と現在 第14回 史料を使って歴史を書く (「私の学校の歴史」もしくは「私の祖父母の歴史」) 第15回 卒業論文のテーマの「だいたい」の設定		
進め方	演習方式。「ゼミに出席する」とは、ただ黙って座っていることでもなければ、「分かりません」を繰り返すことでもない。「出席」とは「参加」であり「発言」である。		
テキスト	福井憲彦『歴史学入門』(岩波書店, 2006年)。	参考文献	二宮宏之『歴史学再考』(日本エディタースクール出版部, 1994年)。E・H・カー『歴史とは何か』(岩波書店, 1962年)。
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

西洋史演習		通年 4 単位	2年		
歴史学を深める		西願 広望 (せいがん こうぼう)			
ねらい	卒業論文の作成をとおして、歴史学的なものの考え方を身につける。				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【前期】</p> 第1回 卒業論文のテーマを決める 第2回 卒業論文のテーマを決める 第3回 文献目録の作成 第4回 文献目録の作成 第5回 文献目録の作成 第6回 文献目録の作成 第7回 書評報告 第8回 書評報告 第9回 書評報告 第10回 書評報告 第11回 書評報告 第12回 読むべき欧文文献を決める 第13回 読むべき欧文文献を決める 第14回 読むべき欧文文献を決める 第15回 読むべき欧文文献を決める </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【後期】</p> 第1回 研究状況の報告 第2回 中間報告 第3回 中間報告 第4回 中間報告 第5回 中間報告 第6回 卒論作成の方法について 第7回 卒論草稿作成 第8回 卒論草稿作成 第9回 卒論草稿作成 第10回 卒論草稿作成 第11回 卒論草稿提出 第12回 卒論草稿返却 第13回 卒論作成 第14回 卒論作成 第15回 卒論提出 </td> </tr> </table>			<p>【前期】</p> 第1回 卒業論文のテーマを決める 第2回 卒業論文のテーマを決める 第3回 文献目録の作成 第4回 文献目録の作成 第5回 文献目録の作成 第6回 文献目録の作成 第7回 書評報告 第8回 書評報告 第9回 書評報告 第10回 書評報告 第11回 書評報告 第12回 読むべき欧文文献を決める 第13回 読むべき欧文文献を決める 第14回 読むべき欧文文献を決める 第15回 読むべき欧文文献を決める	<p>【後期】</p> 第1回 研究状況の報告 第2回 中間報告 第3回 中間報告 第4回 中間報告 第5回 中間報告 第6回 卒論作成の方法について 第7回 卒論草稿作成 第8回 卒論草稿作成 第9回 卒論草稿作成 第10回 卒論草稿作成 第11回 卒論草稿提出 第12回 卒論草稿返却 第13回 卒論作成 第14回 卒論作成 第15回 卒論提出
<p>【前期】</p> 第1回 卒業論文のテーマを決める 第2回 卒業論文のテーマを決める 第3回 文献目録の作成 第4回 文献目録の作成 第5回 文献目録の作成 第6回 文献目録の作成 第7回 書評報告 第8回 書評報告 第9回 書評報告 第10回 書評報告 第11回 書評報告 第12回 読むべき欧文文献を決める 第13回 読むべき欧文文献を決める 第14回 読むべき欧文文献を決める 第15回 読むべき欧文文献を決める	<p>【後期】</p> 第1回 研究状況の報告 第2回 中間報告 第3回 中間報告 第4回 中間報告 第5回 中間報告 第6回 卒論作成の方法について 第7回 卒論草稿作成 第8回 卒論草稿作成 第9回 卒論草稿作成 第10回 卒論草稿作成 第11回 卒論草稿提出 第12回 卒論草稿返却 第13回 卒論作成 第14回 卒論作成 第15回 卒論提出				
進め方	卒業論文の作成を中心に、進める。				
テキスト	適宜指示する。	参考文献	適宜指示する。		
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%				

芸術文化演習		後期 2 単位	1年
西洋美術史事始め		人見 伸子 (ひとみ のぶこ)	
ねらい	西洋美術の流れを各ジャンルごとに概観したテキストを用いて、美術史の基礎を学びます。各自の発表やディスカッションを通して、次年度の卒業論文執筆の手がかりをつかんでください。最終日には2年生の卒論発表会に参加する予定です。		
授業計画	【後期】 第1回 授業の概要 第2回 キリスト教美術の機能とタイプ 第3回 アダムとエヴァ / 受胎告知 第4回 降誕 / キリストの洗礼 第5回 最後の晩餐 / 磔刑 第6回 復活 / 最後の審判 第7回 聖母の美術 第8回 歴史画 第9回 肖像画 第10回 風俗画 第11回 風景画 第12回 静物画 第13回 遠近法 第14回 授業のまとめ 第15回 卒論発表会に参加		
進め方	各章毎にあらかじめ担当者を決め、内容について発表してもらいます。スライドを用いた教員の補足説明の後で、毎回テーマを決めてディスカッションを行う予定です。		
テキスト	高橋裕子著『西洋美術のこぼれ』小学館、2008年	参考文献	授業中に随時、紹介します。
評価方法	出席:20% 発表点:30% レポート:50%		

芸術文化演習		通年 4 単位	2年																																
卒業論文執筆に向けて		人見 伸子 (ひとみ のぶこ)																																	
ねらい	【前期】 1年で学んだ知識や方法をさらに深めるとともに、卒業論文のテーマを絞り込みましょう。前期の共通テーマは「表現者としての女性たち」です。 【後期】 各自の進行状況に応じて、卒業論文のテーマについて発表を行います。お互いに論評しあうことで、よりよい成果が得られることを期待します。なお各学期に一度、美術館見学を行う予定です																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>第1回 授業の概要</td> <td>第1回 後期の授業概要</td> </tr> <tr> <td>第2回 美術館見学 (予定)</td> <td>第2回 卒業論文執筆の基礎</td> </tr> <tr> <td>第3回 表現者としての女性たち (1)</td> <td>第3回 美術館見学 (予定)</td> </tr> <tr> <td>第4回 " (2)</td> <td>第4回 卒業論文の報告と論評 (1)</td> </tr> <tr> <td>第5回 テーマに沿った発表 (1)</td> <td>第5回 " (2)</td> </tr> <tr> <td>第6回 " (2)</td> <td>第6回 " (3)</td> </tr> <tr> <td>第7回 " (3)</td> <td>第7回 " (4)</td> </tr> <tr> <td>第8回 " (4)</td> <td>第8回 " (5)</td> </tr> <tr> <td>第9回 " (5)</td> <td>第9回 " (6)</td> </tr> <tr> <td>第10回 " (6)</td> <td>第10回 " (7)</td> </tr> <tr> <td>第11回 " (7)</td> <td>第11回 " (8)</td> </tr> <tr> <td>第12回 " (8)</td> <td>第12回 " (9)</td> </tr> <tr> <td>第13回 " (9)</td> <td>第13回 " (10)</td> </tr> <tr> <td>第14回 " (10)</td> <td>第14回 卒業論文提出 / 発表会準備</td> </tr> <tr> <td>第15回 卒業論文のテーマ決定と報告</td> <td>第15回 卒業論文発表会</td> </tr> </table>			【前期】	【後期】	第1回 授業の概要	第1回 後期の授業概要	第2回 美術館見学 (予定)	第2回 卒業論文執筆の基礎	第3回 表現者としての女性たち (1)	第3回 美術館見学 (予定)	第4回 " (2)	第4回 卒業論文の報告と論評 (1)	第5回 テーマに沿った発表 (1)	第5回 " (2)	第6回 " (2)	第6回 " (3)	第7回 " (3)	第7回 " (4)	第8回 " (4)	第8回 " (5)	第9回 " (5)	第9回 " (6)	第10回 " (6)	第10回 " (7)	第11回 " (7)	第11回 " (8)	第12回 " (8)	第12回 " (9)	第13回 " (9)	第13回 " (10)	第14回 " (10)	第14回 卒業論文提出 / 発表会準備	第15回 卒業論文のテーマ決定と報告	第15回 卒業論文発表会
【前期】	【後期】																																		
第1回 授業の概要	第1回 後期の授業概要																																		
第2回 美術館見学 (予定)	第2回 卒業論文執筆の基礎																																		
第3回 表現者としての女性たち (1)	第3回 美術館見学 (予定)																																		
第4回 " (2)	第4回 卒業論文の報告と論評 (1)																																		
第5回 テーマに沿った発表 (1)	第5回 " (2)																																		
第6回 " (2)	第6回 " (3)																																		
第7回 " (3)	第7回 " (4)																																		
第8回 " (4)	第8回 " (5)																																		
第9回 " (5)	第9回 " (6)																																		
第10回 " (6)	第10回 " (7)																																		
第11回 " (7)	第11回 " (8)																																		
第12回 " (8)	第12回 " (9)																																		
第13回 " (9)	第13回 " (10)																																		
第14回 " (10)	第14回 卒業論文提出 / 発表会準備																																		
第15回 卒業論文のテーマ決定と報告	第15回 卒業論文発表会																																		
進め方	【前期】 前半は講義形式で女性画家や写真家を取上げ、作品や独自の視点を提示します。次に各自が関心をもつ芸術家を選び、順次発表。6月末には卒業論文のテーマを決定し、報告の機会を設ける予定です。 【後期】 論文執筆の基礎を学び、アドバイスを受けながら執筆に取組みます。発表とディスカッションを経て1月の論文提出と発表会に臨みます																																		
テキスト	若桑みどり著『女性画家列伝』岩波新書	参考文献	授業時に提示します。																																
評価方法	出席点:20% 発表点:30% 卒業論文:50%																																		

比較文化論演習		後期 2 単位	1年
日本を訪れたヨーロッパ人の旅行記をととして、文化交流について考える		中井 章子（なかい あやこ）	
ねらい	1. 南蛮時代から江戸時代、明治はじめまでに来日したヨーロッパ人の旅行記をととして、日本文化とヨーロッパ文化について考える。 2. 異文化の出会いについて考える。		
授業計画	【後期】 第1回 世界の中の日本についてのブレインストーミング 第2回 演習の進め方について話し合う 第3回 南蛮文化の時代の日欧文化交流 第4回 来日イエズス会士の日本文化論（1） 第5回 来日イエズス会士の日本文化論（2） 第6回 来日イエズス会士の日本文化論（3） 第7回 来日イエズス会士の日本文化論（4） 第8回 江戸時代に来日したヨーロッパ人の日本旅行記（1） 第9回 江戸時代に来日したヨーロッパ人の日本旅行記（2） 第10回 江戸時代に来日したヨーロッパ人の日本旅行記（3） 第11回 江戸時代に来日したヨーロッパ人の日本旅行記（4） 第12回 文化交流について 第13回 来日ヨーロッパ人の眼に映った日本人と日本文化 第14回 レポート 第15回 卒業論文について		
進め方	1. 共通のテキストを決め、レポーターが要約する。全員読んできて、議論する。 2. テーマを決めて文章を書き、文章力、表現力を身につける。 3. ときには、DVDなどの映像を見る予定。		
テキスト	フロイス『ヨーロッパ文化と日本文化』、ケンペル『江戸参府旅行日記』など	参考文献	渡辺京二『逝きし世の面影』など
評価方法	平常点:60% 報告、レポート:40%		

比較文化論演習		通年 4 単位	2年
食文化をととしての比較文化論		中井 章子（なかい あやこ）	
ねらい	1. 食文化というテーマのもとに調査、研究、発表の仕方を身につける。 2. 1年前期に提出したレポートに基づく発表と議論をつづける。 3. 食文化論を通して文化の普遍性、多様性、文化交流について考える。		
授業計画	【前期】 第1回 食文化に関する発表（1） 第2回 食文化に関する発表（2） 第3回 食文化に関する発表（3） 第4回 食文化に関する映像を見る（1） 第5回 食文化に関する発表（4） 第6回 食文化に関する発表（5） 第7回 食文化に関する発表（6） 第8回 食文化に関する発表（7） 第9回 卒業論文について（1） 第10回 食文化に関する映像を見る（2） 第11回 文学と食文化（1） 第12回 文学と食文化（2） 第13回 卒業論文について（1） 第14回 卒業論文について（2） 第15回 レポート	【後期】 第1回 卒業論文についての中間報告（1） 第2回 卒業論文の書き方、註や文献リストの作り方 第3回 食についての思想（1） 第4回 食についての思想（2） 第5回 食についての思想（3） 第6回 食についての思想（4） 第7回 卒業論文に関する中間報告（2） 第8回 何を食べるか 第9回 いかに食べるか 第10回 なんのために食べるか 第11回 卒業論文、第一回提出 第12回 卒業論文の改訂 第13回 卒業論文提出 第14回 レポートについて 第15回 卒業論文、口頭試問	
進め方	演習は、皆で作りに上げていくので、参加して、議論に寄与することが重要。 卒業論文については、個人指導と発表などを組み合わせる。 卒業論文のテーマについて良く考え、相談の上、決定する。		
テキスト	文庫本を購入したり、テキストを配布したりする。	参考文献	演習の中で紹介する。
評価方法	平常点:50% 論文、レポート:50%		

文化人類学演習		後期 2 単位	1年
文化人類学的な視点から文化・社会をみる		中村 淳 (なかむら じゅん)	
ねらい	各自が関心を持つテーマについて、文化人類学的にどのようにアプローチが可能であるのか（あるいはそれが難しいのか）、各自の発表を通じて検討していきます。親和性の高いテーマとしては、ひとひとの暮らしとその変化、家族・親族・社会、ジェンダー、アイデンティティと集団・地域、国民国家と植民地、民族問題、などが挙げられます。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODククション 第2回 関連文献をさがしてみよう (第1回) 第3回 関連文献をさがしてみよう (第2回) 第4回 関連文献をさがしてみよう (第3回) 第5回 文化人類学の基礎を学んでみよう (第1回) 第6回 文化人類学の基礎を学んでみよう (第2回) 第7回 文化人類学の基礎を学んでみよう (第3回) 第8回 自分の関心と文化人類学をつなげてみよう (第1回) 第9回 自分の関心と文化人類学をつなげてみよう (第2回) 第10回 自分の関心と文化人類学をつなげてみよう (第3回) 第11回 与えられたテーマについて発表してみよう (第1回) 第12回 与えられたテーマについて発表してみよう (第2回) 第13回 与えられたテーマについて発表してみよう (第3回) 第14回 総合討論 (第1回) 第15回 総合討論 (第2回)		
進め方	基本的に、発表と討論で進めます。発表担当者がレジュメを元に口頭発表したのち、参加者全員のコメント・質疑応答を行ないます。自分のテーマだけではなく、同じゼミの仲間が関心を持っているテーマについての知識も深めていくことで、「文化人類学的なアプローチ」について理解してゆきます。		
テキスト	綾部恒雄・桑山敬己(編)『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 (2006年)	参考文献	ゼミ用ホームページ http://www.aoyama-nakamura.juntak.net/2011/index.html で指示します。
評価方法	平常点:80% 期末レポート:20%		

文化人類学演習		通年 4 単位	2年
卒業論文の作成		中村 淳 (なかむら じゅん)	
ねらい	文化人類学の卒業論文を作成します。1年次の専門演習の成果を踏まえて、あらためて自分の研究テーマを定めて調べ、書き進めてゆくとともに、同じゼミの仲間が与えてくれる刺激も糧にして、よりよい卒業論文を仕上げることをめざします。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODククション 第2回 1年次の期末レポート・春休みの課題発表 (第1回) 第3回 1年次の期末レポート・春休みの課題発表 (第2回) 第4回 テーマ設定に関する個別発表と討論 (第1回) 第5回 テーマ設定に関する個別発表と討論 (第2回) 第6回 テーマ設定に関する個別発表と討論 (第3回) 第7回 テーマ設定に関する個別発表と討論 (第4回) 第8回 研究計画の作成に関する指導 第9回 研究計画書の発表と討論 (第1回) 第10回 研究計画書の発表と討論 (第2回) 第11回 研究計画書の発表と討論 (第3回) 第12回 研究計画書の発表と討論 (第4回) 第13回 資料収集と論文執筆に関する指導 (第1回) 第14回 資料収集と論文執筆に関する指導 (第2回) 第15回 資料収集と論文執筆に関する指導 (第3回) 【後期】 第1回 インTRODククション 第2回 論文執筆に関する指導 第3回 各章の発表と討論 (第1回) 第4回 各章の発表と討論 (第2回) 第5回 各章の発表と討論 (第3回) 第6回 各章の発表と討論 (第4回) 第7回 各章の発表と討論 (第5回) 第8回 各章の発表と討論 (第6回) 第9回 各章の発表と討論 (第7回) 第10回 各章の発表と討論 (第8回) 第11回 各章の発表と討論 (第9回) 第12回 各章の発表と討論 (第10回) 第13回 各章の発表と討論 (第11回) 第14回 各章の発表と討論 (第12回) 第15回 最終発表会		
進め方	各自が個別に作業し、その結果を提出するとともに、ゼミでも発表し、他の参加者との質疑応答や討論をします。前期はテーマ設定と研究計画書の作成をし、夏休み以降、実際の執筆に入ります。後期は、各章を順次提出してもらい、その発表と個別指導を中心に進めます。		
テキスト	論文の進行に合わせて、執筆に関する注意事項などをまとめたプリントを配布します。	参考文献	ゼミ用ホームページ http://www.aoyama-nakamura.juntak.net/2010/index.html で指示します。
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

社会思想史演習		後期 2 単位	1年
社会思想史入門		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
ねらい	社会と人間をめぐる思想を研究します。現代に生きる私たちがよりよい社会とよりよい生き方を構想していくための視点となります。一方で現代の具体的な社会問題を学習しながら、他方で古典的で抽象的なテキストと格闘し、大きな視点で現代の問題を考えることができる力を養います。		
授業計画	【後期】 第1回 オリエンテーション 第2回 テキストの講読と話し合い 第3回 テキストの講読と話し合い 第4回 テキストの講読と話し合い 第5回 テキストの講読と話し合い 第6回 テキストの講読と話し合い 第7回 テキストの講読と話し合い 第8回 テキストの講読と話し合い 第9回 テキストの講読と話し合い 第10回 テキストの講読と話し合い 第11回 テキストの講読と話し合い 第12回 テキストの講読と話し合い 第13回 テキストの講読と話し合い 第14回 テキストの講読と話し合い 第15回 テキストの講読と話し合い		
進め方	毎回担当者を決めて、テキストの担当部分について報告してもらい、講義をまじえて討論します。テキストを予習し、理解できない部分を各自ピックアップしておいてもらいます。最初は難しいとも思っても、かならず力がついてきますし、問題の解決方法もわかってきます。春休みの終わりに1泊合宿を行います。		
テキスト	未定。履修者の関心に応じて決定します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	平常点:70% レポート:30%		

社会思想史演習		通年 4 単位	2年
社会思想史の学問的探求と卒業論文作成		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
ねらい	1年次に引き続いて、テキストを輪読しながら社会と人間についての認識を深めていきます。同時に、各自の研究課題を設定し、文献を探索して先行研究をふまえた上でオリジナルな議論を構築する方法を学び、卒業論文を作成します。		
授業計画	【前期】 第1回 テキストの講読と話し合い 第2回 テキストの講読と話し合い 第3回 テキストの講読と話し合い 第4回 テキストの講読と話し合い 第5回 テキストの講読と話し合い 第6回 テキストの講読と話し合い 第7回 テキストの講読と話し合い 第8回 テキストの講読と話し合い 第9回 テキストの講読と話し合い 第10回 テキストの講読と話し合い 第11回 テキストの講読と話し合い 第12回 テキストの講読と話し合い 第13回 テキストの講読と話し合い 第14回 テキストの講読と話し合い 第15回 テキストの講読と話し合い	【後期】 第1回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第2回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第3回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第4回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第5回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第6回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第7回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第8回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第9回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第10回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第11回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第12回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第13回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第14回 各自の研究発表と卒業論文作成指導 第15回 各自の研究発表と卒業論文作成指導	
進め方	前期はテキストの輪読、後期は各自の研究発表が中心になります。文献資料の探索方法や、論文の作成技術も学びます。夏休みの終わりに合宿を行います。		
テキスト	未定。履修者と話し合いの上決定します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	平常点:50% 卒業論文:50%		

法律学演習		後期 2 単位	1年
1年生のための法律学演習		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
ねらい	社会にはたくさんの紛争があり、それに対してたくさんの法律があります。日頃、ニュースなどをみて、人事のように考えている事件や出来事も、じっくりと掘り下げて考えてみると、たくさんのことが見えてきます。レポーターをすることで報告の仕方を学び、みなで討論することで、社会のありかたがみえてきます。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODakション 1 第2回 インTRODakション 2 資料の調べ方・報告の仕方等 第3回 レポーターによる報告と討論 1 第4回 レポーターによる報告と討論 2 第5回 レポーターによる報告と討論 3 第6回 レポーターによる報告と討論 4 第7回 レポーターによる報告と討論 5 第8回 レポーターによる報告と討論 6 第9回 レポーターによる報告と討論 7 第10回 レポーターによる報告と討論 8 第11回 レポーターによる報告と討論 9 第12回 レポーターによる報告と討論 10 第13回 レポーターによる報告と討論 11 第14回 レポーターによる報告と討論 12 第15回 総括		
進め方	毎回、レポーターを指定して法律学に関するテーマを選んで、発表してもらいます。レポーターに当たった人は欠席しないで下さい。欠席するときは、あらかじめ、順番を他の人と代わってもらっておいでください。テーマをめぐって、みなで討論します。積極的に、参加して下さい。		
テキスト	特に指定しません。	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	出席:20% 演習での報告内容:50% 演習への積極的参加:30%		

法律学演習		通年 4 単位	2年
2年生のための法律学演習		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
ねらい	卒業論文製作へ向けて、各自、問題意識を高めて下さい。図書館やインターネットを使って、社会問題に取り組んで下さい。どのような問題が生じており、どのように解決されてきたでしょうか？ その解決方法で足りない点はなんでしょうか？ 自分の問題意識を研ぎ澄まし、それを討論して下さい。いろんなことが見えてきます。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODakション 1 法律学資料検索等 第2回 インTRODakション 2 論文作成技術等 第3回 レポーターによる報告と討論 1 第4回 レポーターによる報告と討論 2 第5回 レポーターによる報告と討論 3 第6回 レポーターによる報告と討論 4 第7回 レポーターによる報告と討論 5 第8回 レポーターによる報告と討論 6 第9回 レポーターによる報告と討論 7 第10回 裁判所見学 第11回 レポーターによる報告と討論 8 第12回 レポーターによる報告と討論 9 第13回 レポーターによる報告と討論 10 第14回 レポーターによる報告と討論 11 第15回 総括 【後期】 第1回 卒業論文テーマ報告 第2回 レポーターによる報告と討論 12 第3回 レポーターによる報告と討論 13 第4回 レポーターによる報告と討論 14 第5回 レポーターによる報告と討論 15 第6回 レポーターによる報告と討論 16 第7回 レポーターによる報告と討論 17 第8回 レポーターによる報告と討論 18 第9回 レポーターによる報告と討論 19 第10回 レポーターによる報告と討論 20 第11回 レポーターによる報告と討論 21 第12回 レポーターによる報告と討論 22 第13回 レポーターによる報告と討論 23 第14回 レポーターによる報告と討論 24 第15回 卒業論文製作		
進め方	基本的に、レポーターに報告していただき、それについて討論をします。就職活動と重なることも多いと思いますが、レポーターは休まないで下さい。急に休む場合に備えて、次の順番のレポーターも発表可能なように準備しておいて下さい。卒業論文集を作ります。最初は不安でも、良い論文集が毎年できあがります。		
テキスト	使用しません。必要に応じて資料のコピーを配布します。	参考文献	六法があると便利ですが、必要な条文はインターネットでダウンロードできます。
評価方法	出席:20% レポーター報告:15% 討論参加:15% 論文作成:50%		

経済学演習		後期 2 単位	1年
経済学演習		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	経済学に関する文献を購読することによって、経済学に関する理解を深め、経済学的な思考方法に習熟する。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 演習（輪読・発表・討論） 第3回 演習（輪読・発表・討論） 第4回 演習（輪読・発表・討論） 第5回 演習（輪読・発表・討論） 第6回 演習（輪読・発表・討論） 第7回 演習（輪読・発表・討論） 第8回 演習（輪読・発表・討論） 第9回 演習（輪読・発表・討論） 第10回 演習（輪読・発表・討論） 第11回 演習（輪読・発表・討論） 第12回 演習（輪読・発表・討論） 第13回 演習（輪読・発表・討論） 第14回 演習（輪読・発表・討論） 第15回 演習（輪読・発表・討論）		
進め方	経済学に関する文献を出席者の間で輪読することが基本となるが、卒業論文のテーマが決まっている者は発表に充てても良いし、必要ならば資料収集や論文執筆の手ほどきなども行う。		
テキスト	現状と歴史を扱った複数の文献を講読するつもりであるが、詳細については出席者と相談の上決定する。	参考文献	授業中に言及する。
評価方法	出席:50% 授業への参加度:50%		

経済学演習		通年 4 単位	2年
経済学演習		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	経済学に関する文献を講読することによって、経済学に関する理解を深め、経済学的な思考方法に習熟する。さらに、経済学に関する学習の総仕上げとして卒業論文を執筆する。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 演習（輪読・発表・討論） 第3回 演習（輪読・発表・討論） 第4回 演習（輪読・発表・討論） 第5回 演習（輪読・発表・討論） 第6回 演習（輪読・発表・討論） 第7回 演習（輪読・発表・討論） 第8回 演習（輪読・発表・討論） 第9回 演習（輪読・発表・討論） 第10回 演習（輪読・発表・討論） 第11回 演習（輪読・発表・討論） 第12回 演習（輪読・発表・討論） 第13回 演習（輪読・発表・討論） 第14回 演習（輪読・発表・討論） 第15回 演習（輪読・発表・討論）	【後期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 卒論中間報告 第3回 卒論中間報告 第4回 卒論中間報告 第5回 卒論中間報告 第6回 卒論中間報告 第7回 卒論中間報告 第8回 卒論中間報告 第9回 卒論中間報告 第10回 卒論中間報告 第11回 卒論中間報告 第12回 卒論中間報告 第13回 卒論中間報告 第14回 卒論中間報告 第15回 卒論中間報告	
進め方	前期は経済学に関する文献を出席者の間で輪読し、後期は出席者の卒論中間報告に充てることを基本とするが、各人の進行状況に即して臨機応変に対応する。時間が許すならば、実体経済を直接肌で感じてもらうために、社会科見学を行う予定である。		
テキスト	現状と歴史を扱った複数の文献を講読するつもりであるが、詳細については出席者と相談の上決定する。	参考文献	授業中に言及する。
評価方法	出席:30% 授業への参加度:20% 卒業論文:50%		

教育学演習		後期 2 単位	1年
「教育」とはなにか		川下 新次郎 (かわした しんじろう)	
ねらい	「教育」は日常的な営みだが、改めてその意味を問うところから始めたいと思う。まず、人間の成長・発達と「教育」、人間社会の発展と「教育」といった広い視野の中にそれを置いて考察する。その上で、こうした“本来の教育”が現代社会の中でどのように変化しているのか、そのためにどのような問題が生じているのかについて考えてみたい。		
授業計画	【後期】 第1回 演習の意義、使用テキスト、進め方について 第2回 テキストの検討と自由課題発表 第3回 テキストの検討と自由課題発表 第4回 テキストの検討と自由課題発表 第5回 テキストの検討と自由課題発表 第6回 テキストの検討と自由課題発表 第7回 テキストの検討と自由課題発表 第8回 テキストの検討と自由課題発表 第9回 テキストの検討と自由課題発表 第10回 テキストの検討と自由課題発表 第11回 テキストの検討と自由課題発表 第12回 テキストの検討と自由課題発表 第13回 テキストの検討と自由課題発表 第14回 テキストの検討と自由課題発表 第15回 まとめ		
進め方	ねらいの前半の課題は共通の文献（テキスト）を会読する形で、後半の課題は演習参加者各自の現代教育に対する興味・関心と結びつけて報告してもらおう形（自由課題発表）で、それぞれ進めて行きたい。		
テキスト	大田 堯『教育とは何か』岩波新書他。	参考文献	授業時に適宜指示する。
評価方法	出席:30% 発表:30% レポート:40%		

教育学演習		通年 4 単位	2年
「教育」とはなにか		川下 新次郎 (かわした しんじろう)	
ねらい	一年次後期の教育学演習を受けて、本演習では卒業論文作成に向けて、参加者各自の焦点化された研究課題を、さまざまな角度、たとえば歴史的あるいは比較教育的視点から考察することで、さらに深めて行きたい。		
授業計画	【前期】 第1回 演習の進め方について 第2回 卒論のテーマについての発表とその検討 第3回 卒論のテーマについての発表とその検討 第4回 卒論のテーマについての発表とその検討 第5回 卒論のテーマについての発表とその検討 第6回 卒論のテーマについての発表とその検討 第7回 卒論のテーマについての発表とその検討 第8回 卒論のテーマについての発表とその検討 第9回 卒論のテーマについての発表とその検討 第10回 卒論のテーマについての発表とその検討 第11回 卒論のテーマについての発表とその検討 第12回 卒論のテーマについての発表とその検討 第13回 夏季休暇中の課題について 第14回 個別検討会 第15回 個別検討会	【後期】 第1回 夏季休暇中の課題の報告と検討 第2回 卒論のテーマについての発表とその検討 第3回 卒論のテーマについての発表とその検討 第4回 卒論のテーマについての発表とその検討 第5回 卒論のテーマについての発表とその検討 第6回 卒論のテーマについての発表とその検討 第7回 卒論のテーマについての発表とその検討 第8回 卒論のテーマについての発表とその検討 第9回 卒論のテーマについての発表とその検討 第10回 卒論のテーマについての発表とその検討 第11回 卒論のテーマについての発表とその検討 第12回 卒論個別検討会 第13回 卒論個別検討会 第14回 卒論個別検討会 第15回 全体反省会	
進め方	参加者各自に、卒論テーマにかかわる報告をしてもらい、その内容について質疑応答を行なう。		
テキスト	特に使用しない。	参考文献	授業時に適宜指示する。
評価方法	出席:30% 発表:30% レポート:40%		

心理学演習		後期 2 単位	1年
臨床心理学を学ぶ		櫻井 成美 (さくらい なるみ)	
ねらい	臨床心理学とはどのような学問かについて理解を深める。人間の心を理解するための理論、成長・発達のプロセスで生じてくる心の病や障害とそれに対する援助や支援の方法等について、文献講読や体験学習を通して学ぶ中で、各自の研究テーマの選択へと結びつけていく。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス・発表担当の決定 第2回 臨床心理学とは何か 第3回 パーソナリティと心の健康 第4回 心の発達と障害 第5回 心の病 第6回 パーソナリティの査定1 第7回 パーソナリティの査定2：心理検査の体験学習 第8回 支援の方法：心理療法概説 第9回 支援の実際：カウンセリングの体験学習 第10回 援助の対象と領域1：子どものメンタルヘルス 第11回 援助の対象と領域2：家族のメンタルヘルス 第12回 援助の対象と領域3：学校のメンタルヘルス 第13回 援助の対象と領域4：職場のメンタルヘルス 第14回 現代社会と心の健康：ストレスとストレスマネジメント 第15回 まとめ		
進め方	担当者による発表と全員によるディスカッションを中心に行う。参加者にはディスカッションへの積極的参加を期待する。また随時、ロールプレイや心理検査等の体験学習を行う。		
テキスト	馬場謙一『スタートライン臨床心理学』 弘文堂	参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	発表:30% 出席:30% 授業態度:20% レポート:20%		

心理学演習		通年 4 単位	2年
臨床心理学における研究方法の学習と卒業論文作成		櫻井 成美 (さくらい なるみ)	
ねらい	各自が関心をもつ臨床心理学に関するテーマについて研究を行い、卒業論文を作成する。前期は臨床心理学において用いられる研究方法について学び、卒業論文のテーマを決定し、研究計画を実行する。後期は研究結果のまとめと、卒業論文執筆のための指導を行う。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス 第2回 春休みの課題の発表1 第3回 春休みの課題の発表2 第4回 臨床心理学の研究手法1 第5回 臨床心理学の研究手法2 第6回 臨床心理学の研究手法3 第7回 卒業論文のテーマ発表会 第8回 計画書の作成 第9回 研究計画の実施1 第10回 研究計画の実施2 第11回 研究計画の実施3 第12回 心理統計の基礎と統計ソフトウェアの使い方1 第13回 心理統計の基礎と統計ソフトウェアの使い方2 第14回 研究計画の実施4 第15回 まとめと夏休みの課題について	<p>【後期】</p> 第1回 ガイダンス、卒論中間報告と討論1 第2回 卒論中間報告と討論2 第3回 中間報告会の振り返り（問題点、課題の整理） 第4回 卒業論文執筆のための指導1 第5回 卒業論文執筆のための指導2 第6回 卒業論文執筆のための指導3 第7回 卒業論文執筆のための指導4 第8回 卒業論文執筆のための指導5 第9回 卒業論文執筆のための指導6 第10回 卒業論文執筆のための指導7 第11回 論文執筆 第12回 論文執筆 第13回 論文執筆 第14回 論文執筆と発表会に向けた指導 第15回 論文提出と発表会	
進め方	前期は臨床心理学において用いられる基本的な研究方法や心理学論文の構成や書き方について学び、各自の卒業論文のテーマを決定し、研究計画を実施する。後期は論文執筆の方法について学び、論文を完成させる。論文作成への取り組みの他、適宜進捗状況等について報告や発表・討論を行うため、参加者には発表・討論への積極的姿勢を期待する。		
テキスト	松井豊『心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』 河出書房新社	参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	平常点:30% 卒業論文:70%		

心理学演習		後期 2 単位	1年
日常生活から見る社会心理学		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	日常生活に見られる現象に関連する社会心理学の知見について理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクッションと発表担当者決め 第2回 発表とディスカッション1 第3回 発表とディスカッション2 第4回 発表とディスカッション3 第5回 発表とディスカッション4 第6回 社会心理学実験実習1：人間のこころをデータで捉える 第7回 社会心理学実験実習2：データから科学的にものを言う 第8回 発表とディスカッション6 第9回 発表とディスカッション7 第10回 発表とディスカッション8 第11回 発表とディスカッション9 第12回 発表とディスカッション10 第13回 発表とディスカッション11 第14回 発表とディスカッション12 第15回 全体のまとめ：卒論に向けて		
進め方	テキストを章などの区切りで分け、担当を決めて発表してもらう。担当箇所に限らず本文は全員読んでおくこと。本文発表後、参加者全員で議論を行なう。また、卒論に向けた練習として、実験の実施、分析、レポート作成や、文献検索などの実習を行う。		
テキスト	山田一成ら (2007) 『よくわかる社会心理学 (やわらかアカデミズム・“わかる”シリーズ)』 ミネルヴァ書房 / もう1冊は履修者と相談の上で決定す	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	発表内容:50% 出席:15% 授業への参加:15% レポート:20%		

心理学演習		通年 4 単位	2年
社会心理学演習		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	社会心理学のテーマの中から関心のあるものを選び、自分たちで先行研究を調べ、仮説を立てて実験や調査を行う。仮説が支持されたかどうか統計的な分析も行い、卒業論文をまとめる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 春休みの課題の発表 第2回 卒論テーマ決め1 第3回 卒論テーマ決め2 第4回 班分け・班ごとの話し合い1 第5回 班分け・班ごとの話し合い2 第6回 先行研究発表1 第7回 先行研究発表2 第8回 先行研究発表3 第9回 研究計画と仮説の吟味1 第10回 研究計画と仮説の吟味2 第11回 研究計画と仮説の吟味3 第12回 心理統計の基礎1 第13回 心理統計の基礎2 第14回 班別作業 (実験・調査の準備) 1 第15回 班別作業 (実験・調査の準備) 2・夏の課題の確認 <p>【後期】</p> 第1回 進度の確認・班別作業 (実験・調査・実施の準備) 3 第2回 班別作業 (実験・調査・実施の準備) 4 第3回 実験・調査の実施1 第4回 実験・調査の実施2 第5回 実験・調査の実施3 第6回 データ入力・分析1 第7回 データ入力・分析2 第8回 データ入力・分析3 第9回 論文作成指導1 第10回 論文作成指導2 第11回 論文作成指導3 第12回 論文作成指導4 第13回 論文作成指導5 第14回 論文作成指導6 第15回 論文作成指導7		
進め方	グループに分かれて、先行研究を調べながら実験または調査の研究計画を立て、準備、実施、ExcelやSPSSなどの統計ソフトを用いた分析も必要に応じて行う。論文は各自で執筆する。授業外の時間にも自主的に作業を進めることが求められる。		
テキスト	特に指定しない。	参考文献	『社会心理学研究法』 (福村出版) 『心理学実験・研究レポートの書き方』 (河出書房) 他にも適宜紹介する。
評価方法	卒業論文:70% 平常点:30%		

心理学演習		後期 2 単位	1年
コミュニケーション心理学		本多一ハワード 素子 (ほんだ もとこ)	
ねらい	ステレオタイプ・偏見・差別をテーマにします。ステレオタイプ・偏見・差別をなくすためのコミュニケーションとはどのようなものなのでしょうか。テキストや映像資料から、ディスカッションを行います。スケジュールにより、シミュレーションゲームへも参加してもらいます。		
授業計画	【後期】 第1回 インTRODククシヨクン 第2回 テキストのまとめ方、発表の仕方について学ぶ 第3回 「差別を知る」 第4回 担当章の発表① 第5回 担当章の発表② 第6回 担当章の発表③ 第7回 担当章の発表④ 第8回 担当章の発表⑤ 第9回 日本の現状を考える① 第10回 日本の現状を考える② 第11回 将来にむけたコミュニケーション① 第12回 将来にむけたコミュニケーション② 第13回 文献検索を学ぶ 第14回 予備 第15回 まとめ		
進め方	最初の回はテキストをもとに、全員で討論を進めます。その後は分担して、発表者を中心に議論を進めます。発表者以外にも疑問や意見をレスポンスシートにまとめて提出してもらいます。それがディスカッションの基になります。		
テキスト	上瀬由美子 (2002) . ステレオタイプの心理学. サイエンス社	参考文献	授業時に紹介します。
評価方法	出席:40% 発表と参加:30% 学期末レポート:30%		

心理学演習		通年 4 単位	2年
卒業論文の作成		本多一ハワード 素子 (ほんだ もとこ)	
ねらい	心理学的な研究のプロセスを学ぶ。問題を具体化・明確化からはじまり、検証の研究手法、結果の分析手法を身につける。結果の考察を行い論文をまとめる。テーマは各自の興味に沿った問題とし、実証的・探索的研究(実験、調査、インタビュー等)を行う。必要に応じてソフトウェアの使い方(Excel、SPSS)も学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 INTRODUCTION、文献検索の方法、論文のまとめ方 第2回 テキスト担当章まとめと発表① 第3回 テキスト担当章まとめと発表② 第4回 テキスト担当章まとめと発表③ 第5回 テーマの検討① 第6回 テーマの検討② 第7回 テーマの検討③ 第8回 質問紙の作り方、データの分析を学ぶ ①記述統計 第9回 データの分析を学ぶ ②相関係数、T検定グラフの作り方 第10回 卒論テーマの検討、発表① 第11回 卒論テーマの検討、発表② 第12回 卒論テーマの検討、発表③ 第13回 卒論テーマの検討、発表④ 第14回 まとめ 第15回 予備 【後期】 第1回 研究の実施および卒論作成 第2回 研究の実施および卒論作成 第3回 研究の実施および卒論作成 第4回 研究の実施および卒論作成 第5回 研究の実施および卒論作成 第6回 研究の実施および卒論作成 第7回 研究の実施および卒論作成 第8回 研究の実施および卒論作成 第9回 研究のまとめおよび卒論作成 第10回 研究のまとめおよび卒論作成 第11回 研究のまとめおよび卒論作成 第12回 研究のまとめおよび卒論作成 第13回 卒論提出 第14回 修正および再提出 第15回 まとめ		
進め方	前期は、問題を決め、作業を洗い出し、研究を実施する。同時に自分のテーマに関連する文献を読み、先行研究を学ぶ。進行状況あるいは計画をクラスで発表し、意見とアドバイスを求める。後期は、個別に卒論研究を行い論文をまとめる。個別にアドバイスをしながら進めていく。		
テキスト	加藤司・谷口弘一 (2008) 「対人関係のダークサイド」北大路書房	参考文献	各自が卒論のテーマに沿って選ぶ。研究法や論文のまとめ方に関する文献はリストを配布する。文献についてのアドバイスは個別に随時行う。授業でも紹
評価方法	授業への参加:20% 研究実施:30% 卒論:30% 出席:20%		

社会学演習		後期 2 単位	1年
危機的状況における人間の行動		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
ねらい	災害、パニック、流言、デマ、援助行動、ボランティア、心的外傷といったテーマを中心として、危機的状況における人間の行動について学ぶ。		
授業計画	【後期】 第1回 パニックの定義 第2回 パニックの事例研究 (1) 第3回 パニックの事例研究 (2) 第4回 パニックの事例研究 (3) 第5回 パニックの事例研究 (4) 第6回 パニックの事例研究 (5) 第7回 パニックの事例研究 (6) 第8回 パニックの事例研究 (7) 第9回 流言・デマの事例研究 (1) 第10回 流言・デマの事例研究 (2) 第11回 流言・デマの事例研究 (3) 第12回 流言・デマの事例研究 (4) 第13回 流言・デマの事例研究 (5) 第14回 流言・デマの事例研究 (6) 第15回 まとめ		
進め方	各自の選択したパニックや流言・デマの事例の報告とそれに基づいた討論をおこなう。		
テキスト	特にない。	参考文献	高橋郁男著『パニック人間学』（朝日文庫）各事例のドキュメントは適宜紹介する。
評価方法	出席:60% 平常点:40%		

社会学演習		通年 4 単位	2年
危機的状況における人間の行動		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
ねらい	前期は災害、パニック、援助行動、ボランティア、心的外傷といったテーマを中心として危機的状況における人間の行動について検討する。危機的状況では利己的な行動ばかりでなく、援助、自己犠牲といった行動もみられる。後期は流言・デマ・都市伝説の事例研究を行う。そして、最終的には、卒業論文の作成をめざす。		
授業計画	【前期】 第1回 パニックの事例研究 (1) 第2回 パニックの事例研究 (2) 第3回 パニックの事例研究 (3) 第4回 パニックの事例研究 (4) 第5回 パニックの事例研究 (5) 第6回 パニックの事例研究 (6) 第7回 パニックの事例研究 (7) 第8回 パニックの事例研究 (8) 第9回 パニックの事例研究 (9) 第10回 パニックの事例研究 (10) 第11回 卒業論文の構想 (1) 第12回 卒業論文の構想 (2) 第13回 卒業論文の構想 (3) 第14回 卒業論文の構想 (4) 第15回 前期のまとめ		
進め方	パニックや流言・デマの事例を、各自に報告してもらい、それに基づいた討論を行う。また、各自の選んだテーマで卒業論文を作成してもらおうが、卒業論文の構想および進行状況について発表する機会も、あわせて設ける。		
テキスト	特にない。	参考文献	高橋郁男著『パニック人間学』（朝日文庫）その他適宜紹介する。
評価方法	出席:20% 平常点:20% 卒業論文の評価:60%		

国際関係論演習		後期 2 単位	1年
国際関係の基本的概念 1		三浦 明子 (みうら あきこ)	
ねらい	冷戦後の世界の構造変化について、安全保障、大国と小国との関係、民族問題、テロリズム、地域協力、日本外交など現代の国際関係の重要な論点を中心に、基礎的な知識の習得を目指す。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 オリエンテーション1 演習の進め方 第2回 オリエンテーション2 個人報告テーマの決定 第3回 オリエンテーション3 基礎的な文献を読む 第4回 オリエンテーション4 海外ドキュメンタリー・議論 第5回 冷戦後の世界とは 第6回 アフガニスタン—ソ連撤退から9. 1 1 第7回 9. 1 1の衝撃 第8回 米国の動き 第9回 日本の対応 第10回 主要国の動き 1 第11回 主要国の動き 2 第12回 周辺諸国の動き1 第13回 周辺諸国の動き 2 第14回 新たな脅威 第15回 重要な論点のまとめ		
進め方	テーマの報告とそれに基づいた議論を中心に進めていく。報告では国際関係の最も重要なアクターである国家に注目し、基本的な事実関係の整理とそれを元にした分析が中心となる。なお指定の文献以外に適宜DVDなどを視聴して、理解を助ける。		
テキスト	授業で配布する。	参考文献	各テーマに関連した参考文献を適宜、授業で指示する。
評価方法	平常点:40% 報告・レポート:60%		

国際関係論演習		通年 4 単位	2年
国際関係の基本的概念 2		三浦 明子 (みうら あきこ)	
ねらい	前期は国際関係の基本的な考え方を学び、冷戦後の世界の構造変化についてより深く考察する。後期は卒論作成が中心となる。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 オリエンテーション (演習の進め方) 第2回 国民国家 1 第3回 国民国家 2 第4回 国際紛争 第5回 冷戦 1 (冷戦とは) 第6回 冷戦 2 (アジアの冷戦) 第7回 卒論に関連した文献の検討 1 第8回 卒論に関連した文献の検討 2 第9回 冷戦後の世界 1 (新しい秩序?) 第10回 冷戦後の世界 2 (新しい脅威) 第11回 冷戦後の世界 3 (リアリズムとリベラリズム) 第12回 日本外交 1 第13回 日本外交 2 第14回 重要な論点のまとめ 1 第15回 重要な論点のまとめ 2		
進め方	前期の演習では指定された論文を読み、基礎的な知識の習得を発展させ、考察を深める。後期は卒論作成が中心となるが卒論を書く際の手本となるような若手研究者の優れた学術論文も紹介するので、論文の作成法や論旨のまとめ方についても参考にしてほしい。また海外で制作されたドキュメンタリーなどを視聴して、理解を深める。		
テキスト	授業で配布する。	参考文献	佐古丞『変容する国際政治』(晃洋書房)、岡部達味『国際政治の分析枠組み』(東京大学出版会)、ジョセフ・ナイ『国際紛争』(有斐閣)など。
評価方法	平常点:40% 卒業論文:50% レポート:10%		

科学文化史演習		後期 2 単位	1年
現代社会における病と医学		八耳 俊文 (やつみみ としふみ)	
ねらい	本演習は、卒業論文（科学文化史演習では400字詰め原稿用紙50枚以上。2年次の最後、2012年1月に提出）作成に至る1年半の演習の第1期にあたります。まずは「科学文化史」に関する大きいテーマを選び、それを多面的に考察し、科学に関するトピックを自らのテーマとして考える練習をします。		
授業計画	【後期】 第1回 科学文化史演習のガイダンス 第2回 人間が生きてるとは 第3回 医療人類学からのアプローチ（1） 第4回 医療人類学からのアプローチ（2） 第5回 人間の可能性を示したビデオの視聴 第6回 キュアとケア 第7回 ケア学（1） 第8回 ケア学（2） 第9回 医療と病院の改革（1） 第10回 医療と病院の改革（2） 第11回 生と死をめぐる論議（1） 第12回 生と死をめぐる論議（2） 第13回 生と死をめぐる論議（3） 第14回 生と死をめぐる論議（4） 第15回 生と死をめぐる論議（5）		
進め方	演習参加者の関心をもとにテーマを決めます。この方法で決め難い場合は、今年度のテーマは「現代社会における病と医学」とします。テーマが決まると、こちらでそのテーマを考えるのに適切な文献をあげますので、およそ一人一トピックを担当して、調査研究事項を発表するようにして下さい。		
テキスト	開講後、テーマにそった文献や資料を指示します。	参考文献	あわせて紹介します。
評価方法	出席:20% 発表:80%		

科学文化史演習		通年 4 単位	2年
よりよい卒業論文の完成に向けて		八耳 俊文 (やつみみ としふみ)	
ねらい	卒業論文作成は教養学科の重要なプログラムです。自分にとって書きたいテーマを選び、書きながら思考を深め、どのように書けば他人にわかってもらえるかを悩む、これらの一連の作業を経て、よりよい卒業論文ができるのです。2011年1月に提出される卒業論文を、準備から執筆まで、できるだけ高い水準でおこなえるよう指導します。		
授業計画	【前期】 第1回 卒業論文のガイダンス（1） 第2回 『生命倫理学入門』（1） 第3回 『生命倫理学入門』（2） 第4回 『生命倫理学入門』（3） 第5回 『生命倫理学入門』（4） 第6回 『生命倫理学入門』（5） 第7回 医学の進歩と病人の誕生（1） 第8回 医学の進歩と病人の誕生（2） 第9回 医学の進歩と病人の誕生（3） 第10回 人間の生命に関わる文化誌（1） 第11回 人間の生命に関わる文化誌（2） 第12回 人間の生命に関わる文化誌（3） 第13回 まとめ。卒業論文のガイダンス（2） 第14回 卒業論文に関する発表（1A） 第15回 卒業論文に関する発表（1B）		
	【後期】 第1回 後期演習の進め方の説明 第2回 卒業論文に関する発表（2A） 第3回 卒業論文に関する発表（2B） 第4回 卒業論文に関する発表（3A） 第5回 卒業論文に関する発表（3B） 第6回 卒業論文に関する発表（4A） 第7回 卒業論文に関する発表（4B） 第8回 卒業論文に関する発表（5A） 第9回 卒業論文に関する発表（5B） 第10回 卒業論文に関する発表（6A） 第11回 卒業論文に関する発表（6B） 第12回 卒業論文の文章指導（1） 第13回 卒業論文の文章指導（2） 第14回 卒業論文の文章指導（3） 第15回 卒業論文の口頭発表		
進め方	前期は共通テキストを読み、医療・福祉の現場で、どのような見方が生まれているのか知るとともに、論文の作成についての知識・方法を習得する。後期は実際に自分で選んだテーマに即しての発表を重ね、卒業論文の完成へと至る。		
テキスト	今井道夫『生命倫理学入門』第2版（産業図書、2005年）	参考文献	
評価方法	出席:10% 発表:20% 卒業論文:70%		

人文地理学演習		後期 2 単位	1年
人文地理学演習		廣松 悟 (ひろまつ さとる)	
ねらい	人文地理学は地理学という枠組みのなかで、文系的な範囲を扱っています。例えば地形や気候といったテーマは理系的な自然地理学となり、人文地理学では広く地域や都市に関わる経済・社会問題や文化現象などが対象となります。この演習ではカナダやアメリカ合衆国、メキシコなどの北米地域を主な対象としながら、こうした対象について取り組みま		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 人文地理学、とは？ 第3回 都市と地域の問題、とは？ 第4回 北米という地域について1 第5回 北米という地域について2 第6回 北米という地域について3 第7回 地理学と地図学について (含演習) 第8回 ペンギン・アトラスを参照しながら1 第9回 ペンギン・アトラスを参照しながら2 第10回 ペンギン・アトラスを参照しながら3 (含演習) 第11回 ペンギン・アトラスを参照しながら4 第12回 ペンギン・アトラスを参照しながら5 第13回 ペンギン・アトラスを参照しながら6 (含演習) 第14回 春休みに向けて1 第15回 春休みに向けて2		
進め方	まず「人文地理学」とはどのような分野か、について学習します。現代世界には数多くの都市と地域に関わる問題が発生しており、これらの課題に対して地理学の方針からどのようなアプローチが可能なのか、紹介します。また都市と地域を中心とした人文地理学の研究方法について北米地域を主に参照し演習も適宜含めながら簡単に説明します。		
テキスト	特にありませんが、適宜必要な文献について指示します。	参考文献	Historical Atlas of North America (Penguin)
評価方法	演習の成果:50% 参加度:50%		

人文地理学演習		通年 4 単位	2年
人文地理学演習		廣松 悟 (ひろまつ さとる)	
ねらい	分析の単位として「都市」や「地域」を取り上げることの意義について、様々な角度から検討することを通じて理解を深める。また、都市や地域を明示的な分析単位としたアプローチの実際について、毎回、導入的な講義に引き続いて参加者各自に演習課題に積極的に取り組んでもらい、卒業論文の作成にも寄与できるものとする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 「都市」と「地域」のダイナミズムについて 第3回 方法としての都市／「都市問題」論の歴史的位相 第4回 社会問題と「地域」／集積・集中論 第5回 グローバリゼーションと「地域」 第6回 都市―農村関係における「地域」の位相 第7回 中心と周辺（周縁）1／地域開発論 第8回 中心と周辺（周縁）2／地域運動論 第9回 地域統計の実際／地域データの特徴とその限界 (含演習) 第10回 地域特化指数の実際／立地係数と地域集積、等 (含演習) 第11回 地域と空間変数<1>/GIS ソフトの導入1 (含演習) 第12回 地域と空間変数<1>/GIS ソフトの導入2 (含演習) 第13回 地域と空間変数<1>/GIS ソフトの導入3 (含演習) 第14回 地域と空間変数<1>/GIS ソフトの導入4 (含演習) 第15回 前期のまとめ 【後期】 第1回 再ガイダンス 第2回 地域と空間変数<2>/多変量解析法の導入1 (含演習) 第3回 地域と空間変数<2>/多変量解析法の導入2 (含演習) 第4回 地域と空間変数<2>/多変量解析法の導入3 (含演習) 第5回 地域と空間変数<2>/多変量解析法の導入4 (含演習) 第6回 地域と空間変数<2>/多変量解析法の導入5 (含演習) 第7回 卒業論文中間発表表と関連する分析手法の解説 第8回 地域と空間変数<2>/多変量解析法の導入6 (含演習) 第9回 都市・地域分析の実際1 第10回 都市・地域分析の実際2 第11回 都市・地域分析の実際3 第12回 都市・地域分析の実際4 第13回 プレゼンテーションと地図化に関する諸問題1 第14回 プレゼンテーションと地図化に関する諸問題2 第15回 卒業論文最終発表表と関連するプレゼンテーション問題		
進め方	生活の場としての都市や地域に関する様々なトピックについて、何らかの「具体的関心」を抱いていることをこの科目履修のための必要条件としたい。なお、演習では主として MS エクセル等パソコンの表計算ソフトを使用するので、基本操作については既知であることが望まれるが、データ入力や計算式の利用等の基礎的な解説もする予定である。		
テキスト	特に指定しないが、適宜参考文献を指示する。	参考文献	初回を含め数回に分けて文献リストを配布する。
評価方法	卒業論文の内容と準備:70% 演習参加度:30%		

環境デザイン論演習		後期 2 単位	1年
都市環境へのさまざまなアプローチ		禪野 靖司（ぜんの やすし）	
ねらい	一人一人の経験主体にとって「都市環境」とは何か？この問について、さまざまな視点から考えるため、西荻窪や吉祥寺、下北沢などを例に取りながら、適切なテキストを読み、討議と実際の街歩きを通して理解を深める。		
授業計画	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回 さまざまな研究トピククノケイゴ 第3回 テキスト講読と討議（都市の構造を読み解く） 第4回 テキスト講読と討議（都市の構造を読み解く） 第5回 テキスト講読と討議（都市の構造を読み解く） 第6回 テキスト講読と討議（都市におけるさまざまな環境要素の混在） 第7回 テキスト講読と討議（都市におけるさまざまな環境要素の混在） 第8回 テキスト講読と討議（都市におけるさまざまな環境要素の混在） 第9回 テキスト講読と討議（都市の歴史環境） 第10回 テキスト講読と討議（都市の歴史環境） 第11回 テキスト講読と討議（イメージとしての都市） 第12回 テキスト講読と討議（イメージとしての都市） 第13回 学生の口頭発表 第14回 学生の口頭発表 第15回 まとめ		
進め方	リーディング及びディスカッションを主に進め、適宜、屋外での調査や見学を織り交ぜて、各自の問題意識を高めていく。		
テキスト	特に定めず、随時配布する資料を活用。	参考文献	『吉祥寺スタイル—楽しい街の50の秘密』、『渋谷遺産』
評価方法	出席:20% 討議への参加度:30% 文章と口頭のレポート:50%		

環境デザイン論演習		通年 4 単位	2年
一人一人にとっての都市環境		禪野 靖司（ぜんの やすし）	
ねらい	普段は何気なく通過したり滞りしているだけの東京のさまざまな街。しかしそうした街も、空間の「文法」を単語、文法、意味等の面から読み解く方法を身に付けることで、これまでとは全く違うものとして見えてくる。またそれを通して、環境としての「都市」と自分の関係をより鋭敏に意識化し、そこから見えてくる社会についても考察を深めます。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 インTRODクダクシヨウ 第2回 テキスト講読と討議 第3回 テキスト講読と討議 第4回 テキスト講読と討議 第5回 屋外調査（吉祥寺） 第6回 テキスト講読と討議 第7回 屋外調査（下北沢） 第8回 テキスト講読と討議 第9回 屋外調査（場所未定） 第10回 テキスト講読と討議 第11回 屋外調査（場所未定） 第12回 調査地に関する比較討議 第13回 学生の調査結果発表 第14回 学生の調査結果発表 第15回 まとめ	<p>【後期】</p> 第1回 インTRODクダクシヨウ（後期の進め方について） 第2回 卒論テーマに関連する討議（第1ステージ） 第3回 卒論テーマに関連する発表（第1ステージ） 第4回 テキスト講読と討議 第5回 テキスト講読と討議 第6回 テキスト講読と討議 第7回 テキスト講読と討議 第8回 テキスト講読と討議 第9回 テキスト講読と討議 第10回 テキスト講読と討議 第11回 卒論テーマに関連する発表と討議（第2ステージ） 第12回 卒論テーマに関連する発表と討議（第2ステージ） 第13回 卒論テーマに関連する発表と討議（第2ステージ） 第14回 まとめ（1） 第15回 まとめ（2）	
進め方	前期はテキスト講読と屋外調査を組み合わせ、それに基づいた研究発表を行なうことで、後期の卒論完成に向けての都市環境に対する主体的な意識を高め、また表現の技術を高める。		
テキスト		参考文献	『吉祥寺スタイル—楽しい街の50の秘密』、『渋谷遺産』
評価方法	出席:30% 討議等への参加貢献度:20% プロジェクト、課題の達成度:50%		

情報科学演習		後期 2 単位	1年
Webサイトやソフトウェアの「使いやすさ」		白銀 純子 (しろがね じゅんこ)	
ねらい	主に、Webサイトとソフトウェアについての使いやすさ(ユーザビリティ)やアクセシビリティに関する記事などを読み、その内容の発表を行います。また、実際に自分でWebサイトを作成し、その上で、使いやすいものを作成するためには、また使いにくいものを作成しないためにはどうすればいいかを考え、議論していきます。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス(資料作成・発表方法)、ユーザビリティの基本 第2回 発表テーマ決定、Webの仕組みと概要 第3回 テーマ発表(1)、HTML基礎(1) 第4回 テーマ発表(2)、HTML基礎(2) 第5回 テーマ発表(3)、HTML基礎(3) 第6回 テーマ発表(4)、HTML基礎(4) 第7回 テーマ発表(5)、HTML基礎(5) 第8回 テーマ発表(6)、HTML基礎(6) 第9回 テーマ発表(7)、HTML基礎(7) 第10回 テーマ発表(8)、アクセシビリティの基本 第11回 テーマ発表(9)、課題作成作業 第12回 課題発表(1) 第13回 課題発表(2) 第14回 課題発表(3) 第15回 課題発表(4)		
進め方	テーマ発表として、毎回担当者を決め、指定した記事の内容をまとめて発表してもらい、その内容について議論をします。また、Webページ作成の基本を学び、ユーザビリティやアクセシビリティに注意してWebサイトを作成してもらいます。そして、作成したWebサイトについて互いに議論をします。		
テキスト	適宜指示をします	参考文献	適宜指示をします
評価方法	出席:40% Web制作・プレゼンテーション:40% 資料発表:20%		

情報科学演習		通年 4 単位	2年
コンピュータによる説得		島崎 みどり (しまざき みどり)	
ねらい	情報科学演習では、コンピュータによる説得(Captology)というテーマで、Webシステムの制作を行います。ねらいは(1)制作を通じ、ある一つの概念を実現するための思考や技術を身につけること、また(2)制作物を公開し、フィードバックを受けることで様々な立場でメリットやデメリットを分析する力を養います。		
授業計画	【前期】 第1回 演習課題説明 第2回 演習課題企画・計画 第3回 演習課題企画・計画 第4回 演習課題発表・分担 第5回 演習課題制作 第6回 演習課題制作 第7回 演習課題制作 第8回 演習課題制作 第9回 演習課題議論・制作 第10回 演習課題議論・制作 第11回 演習課題議論・制作 第12回 演習課題分析・評価 第13回 演習課題分析・評価 第14回 演習課題分析・評価 第15回 演習課題提出	【後期】 第1回 卒論の説明 第2回 卒論演習 第3回 卒論演習 第4回 卒論演習 第5回 卒論演習 第6回 卒論演習 第7回 卒論演習 第8回 卒論中間報告 第9回 卒論中間報告 第10回 卒論演習 第11回 卒論演習 第12回 卒論演習 第13回 卒論提出 第14回 卒論発表会 第15回 卒論発表会	
進め方	説得(Captology)というテーマで、社会に貢献するためのWebサービスの制作を行います。HTMLやJavaScript等のプログラミング言語を利用して課題に取り組むことで、技術とアイデアによる社会生活の向上を考えます。また制作物を公開し、フィードバックの分析や人に伝える表現力といった技術を学びます。		
テキスト	演習中に随時指示します。	参考文献	B. J. フォッグ, 人を動かすテクノロジー, 日経BP社
評価方法	授業出席・議論への参加:30% 企画・制作:30% 卒業論文:40%		

英語演習 I	通年 2 単位	1年
English Practice 1		
【担当教員】		
カリガン (CULLIGAN, B. A.)、サノ (SANO, K. M.)、シミズ (SHIMIZU, M. M.)、ハンドイエヴァウエラー (HANDJEVA-WELLER,)、ペンゴスロ (PENGOSRO, E. K.)、マーフィー (MURPHY, D. F.)		
ねらい		
This course aims to improve the students' listening and speaking skills, build up confidence in speaking English and vocabulary expansion.		
授業計画		
First Semester		
Week 1	Course Introduction	
Week 2	SLEP Test - Listening	
Week 3	SLEP Test - Reading	
Week 4	Unit 1 Introducing yourself	
Week 5	Quiz on Unit 1; Unit 2 You must be excited	
Week 6	Unit 2 You must be excited	
Week 7	Quiz on Unit 1; Presentation 1: Self-introduction	
Week 8	Test 1: Vocabulary and Speaking Test based on Units 1 & 2	
Week 9	Unit 3 - Going places	
Week 10	Unit 3 - Going places	
Week 11	Presentation #2: Introduce your Hometown	
Week 12	Quiz on Unit 3	
Week 13	Test 2: Vocabulary, Listening and Speaking from Units 1 - 3	
Second Semester		
Week 14	2-Minute Talk about Summer Vacation; Unit 4: I love that	
Week 15	Unit 4: I love that; 3-Minute Conversation Task	
Week 16	Unit 4: I love that	
Week 17	Quiz on Unit 4; Unit 5 - Why?	
Week 18	Unit 5 - Why?	
Week 19	Quiz on Unit 5; Presentation #3: Talking about your interests	
Week 20	TEST 3 - Vocabulary, Listening, Speaking from Units 4 & 5	
Week 21	Discussion: Giving your opinion	
Week 22	Unit 6 - What' s it like there?	
Week 23	Unit 6 - What' s it like there?	
Week 24	10-minute Interview	
Week 25	Quiz on Unit 6	
Week 26	Presentation #4: Talking about your interests	
Week 27	Test 4 - Vocabulary and Speaking Test: Units 1-6	
進め方		
Class work will be based on listening and reading exercises completed as homework. These homework activities will be expanded and extended in class, and students will have the opportunity to express themselves in small groups and in front of the class. The teacher will provide feedback and advice, however, this will be a student centered class in which the students will be given the chance to communicate their ideas in spoken English, thereby improving their overall fluency.		
テキスト		
English Firsthand 2: New Gold Edition		
Firsthand Stories 2		
評価方法		
Tests 50% テストの点数は、4回のテスト結果を高得点順にして、その上位3つの平均点になります。		
Participation and Homework 20%		
Quizzes 15%		
Presentations 15%		
授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。		

英語演習Ⅱ	通年 2 単位	2年
English Practice 2		
<p>【担当教員】 オクマ (OKUMA, G. S.)、ピンター (PINTER, B.)、ペンゴスロ (PENGOSRO, E. K.)、ホワイト (WHYTE, D. W.)、マーフィー (MURPHY, D. F.)、リムスコグ (RIMSKOG, Christa) ねらい In this course, you will have a chance to continue developing your English language skills. While we plan to develop all four skills (listening, speaking, reading and writing), you will spend most of your class time speaking and listening. The material for this course is more challenging than that for English Practice I and builds upon what you have learned.</p> <p>授業計画 First Semester Week 1 Teacher and Course Introduction Week 2 Relating past events/memories. Week 3 Reading about and discussing an autobiography. Week 4 Researching and presenting a historic event/famous person. Week 5 Talking about plans for the future. Week 6 Reading about and discussing travel plans Week 7 Researching and presenting information on a country. Week 8 Test 1 Week 9 Giving advice Week 10 Discussing a radio advice program. Week 11 Presenting advice and suggestions on a given topic. Week 12 Review of all previous grammar/listening/discussion points Week 13 Test 2</p> <p>Second Semester Week 14 Vacation homework relating experiences. Week 15 Relating personal events Week 16 Discussing events in different countries. Week 17 Presenting a story. Week 18 Giving opinions on a range of topics Week 19 Examining other peoples opinions. Week 20 Presenting an opinion on a controversial topic. Week 21 Test 3 Week 22 Discussing ambitions/dreams/hopes. Week 23 Reading about and discussing successful lives. Week 24 Presentation about the future/predictions. Week 25 SLEP TEST LISTENING. Week 26 SLEP TEST READING. Week 27 Test 4</p> <p>進め方 Classes will consist of practice of all four English language skills: listening, speaking, reading and writing, however, the emphasis in class will be upon listening and speaking in small groups or with a partner.</p> <p>テキスト English Firsthand 2: Gold Edition Firsthand Stories 2</p> <p>評価方法 Your grade will be based on the following: Tests 50% テストの点数は、4回のテスト結果を高得点順にして、その上位3つの平均点になります。 Presentations 25% Quizzes 12.5% Homework 12.5%</p> <p>授業には出席しなければなりません。欠席すると成績は下がります。授業に20分以上遅刻すると「欠席」の扱いになります。20分未満の遅れは「遅刻」になります。「遅刻」を3回すると1回の「欠席」の扱いになります。出席が全授業回数の3分の2に満たない場合はこの授業の成績は「不合格」となります。</p>		

英書講読		通年 2 単位	2年
英書講読		秋富 創（あきとみ はじめ）	
ねらい	経済学に関する初歩的な英語文献を講読することによって、経済学への理解を深める。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 インTRODakション 第2回 英書講読 第3回 英書講読 第4回 英書講読 第5回 英書講読 第6回 英書講読 第7回 英書講読 第8回 英書講読 第9回 英書講読 第10回 英書講読 第11回 英書講読 第12回 英書講読 第13回 英書講読 第14回 英書講読 第15回 英書講読	第1回 インTRODakション 第2回 英書講読 第3回 英書講読 第4回 英書講読 第5回 英書講読 第6回 英書講読 第7回 英書講読 第8回 英書講読 第9回 英書講読 第10回 英書講読 第11回 英書講読 第12回 英書講読 第13回 英書講読 第14回 英書講読 第15回 英書講読	
進め方	英語文献を出席者の間で輪読し、その内容について討論する。		
テキスト	出席者と相談の上決定する。	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	出席:50% 授業への参加度:50%		

英書講読		通年 2 単位	2年
日本の教育の特色と課題		川下 新次郎（かわした しんじろう）	
ねらい	日本の教育について書かれた英文資料を講読することで、現在のわが国の教育の特色と今後の課題について、参加者各自の教育経験をふまえながら、考えてみたい。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 授業英文テキストの紹介と授業の進め方について 第2回 担当者の発表とその内容の検討 第3回 担当者の発表とその内容の検討 第4回 担当者の発表とその内容の検討 第5回 担当者の発表とその内容の検討 第6回 担当者の発表とその内容の検討 第7回 担当者の発表とその内容の検討 第8回 担当者の発表とその内容の検討 第9回 担当者の発表とその内容の検討 第10回 担当者の発表とその内容の検討 第11回 担当者の発表とその内容の検討 第12回 担当者の発表とその内容の検討 第13回 担当者の発表とその内容の検討 第14回 担当者の発表とその内容の検討 第15回 前期のまとめ	第1回 授業英文テキストの紹介と授業の進め方について 第2回 担当者の発表とその内容の検討 第3回 担当者の発表とその内容の検討 第4回 担当者の発表とその内容の検討 第5回 担当者の発表とその内容の検討 第6回 担当者の発表とその内容の検討 第7回 担当者の発表とその内容の検討 第8回 担当者の発表とその内容の検討 第9回 担当者の発表とその内容の検討 第10回 担当者の発表とその内容の検討 第11回 担当者の発表とその内容の検討 第12回 担当者の発表とその内容の検討 第13回 担当者の発表とその内容の検討 第14回 担当者の発表とその内容の検討 第15回 全体のまとめ	
進め方	あらかじめ訳読担当部分を決めて、翻訳された内容に対する担当者の意見を検討する。		
テキスト	資料コピーを配布する。	参考文献	授業時に、適宜指示する。
評価方法	出席:30% 発表:30% レポート:40%		

英書講読		通年 2 単位	2年
「日本」再考		小林 瑞乃 (こばやし みずの)	
ねらい	この授業では「日本」を再考するという観点から、日本に関するものだけではなくアメリカ大統領の演説など様々な文献等を読み解き、国家やナショナリズムについて考察する。同時に、新しい視点で日本史を考えるきっかけをつかみたい。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 テキスト講読 第3回 テキスト講読 第4回 テキスト講読 第5回 テキスト講読 第6回 テキスト講読 第7回 テキスト講読 第8回 テキスト講読 第9回 テキスト講読 第10回 テキスト講読 第11回 テキスト講読 第12回 テキスト講読 第13回 テキスト講読 第14回 テキスト講読 第15回 前期のまとめ (レポートの提出)	【後期】 第1回 テキスト講読 第2回 テキスト講読 第3回 テキスト講読 第4回 テキスト講読 第5回 テキスト講読 第6回 テキスト講読 第7回 テキスト講読 第8回 テキスト講読 第9回 テキスト講読 第10回 テキスト講読 第11回 テキスト講読 第12回 テキスト講読 第13回 テキスト講読 第14回 テキスト講読 第15回 総まとめ (レポートの提出)	
進め方	それぞれの担当箇所を決め、担当者が講読箇所の内容等について報告し、全員で討論する。基礎的知識や研究動向など内容を理解する前提となる事柄などについては、随時詳しく説明する。担当でなくても、毎回テキストについて十分な予習・復習を行うことが望ましい。		
テキスト	毎回テーマを決め、様々なテキストを講読する予定。	参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	平常点:60% レポート:40%		

英書講読		通年 2 単位	2年
英書講読を通して臨床心理学への理解を深める		櫻井 成美 (さくらい なるみ)	
ねらい	臨床心理学に関する英語文献を読むことを通して、臨床心理学への理解を深めると共に、卒業論文作成に向けて英文の先行研究を読みこなすために、臨床心理学の専門用語に慣れることを目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 テキスト輪読と討論 第3回 テキスト輪読と討論 第4回 テキスト輪読と討論 第5回 テキスト輪読と討論 第6回 テキスト輪読と討論 第7回 テキスト輪読と討論 第8回 テキスト輪読と討論 第9回 テキスト輪読と討論 第10回 テキスト輪読と討論 第11回 テキスト輪読と討論 第12回 テキスト輪読と討論 第13回 テキスト輪読と討論 第14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第3回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第4回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第5回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第6回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第7回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第8回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第9回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第10回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第11回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第12回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第13回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第14回 卒業論文に関連した英語論文の発表と討論 第15回 まとめ	
進め方	前期は臨床心理学に関する基礎的な英語文献について、輪読と討論を行う。後期は各自が卒業論文に関連した英語論文を紹介し、討論を行う。		
テキスト	前期: 「Atkinson & Hilgard' s INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY 14TH EDITION」 (コピーを配布する) 後期: 各自が紹介する、卒業論文に関連した英語論文	参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席:50% 発表:30% 討論:20%		

英書講読		通年 2 単位	2年
コンピュータによる説得（英語文献）		島崎 みどり（しまざき みどり）	
ねらい	コンピュータによる説得(Captology)というテーマの中で特に自分が興味をもったテーマを設定し、そのテーマについての英語文献を購読します。		
授業計画	【前期】 第1回 課題説明 第2回 英語講読（文献の読み方） 第3回 英語購読発表・議論 第4回 英語購読発表・議論 第5回 英語購読発表・議論 第6回 英語購読発表・議論 第7回 英語購読発表・議論 第8回 英語購読発表・議論 第9回 英語購読発表・議論 第10回 英語購読発表・議論 第11回 英語購読発表・議論 第12回 英語購読発表・議論 第13回 英語購読発表・議論 第14回 英語購読発表・議論 第15回 英語購読課題提出	【後期】 第1回 課題説明 第2回 英語購読発表・議論 第3回 英語購読発表・議論 第4回 英語購読発表・議論 第5回 英語購読発表・議論 第6回 英語購読発表・議論 第7回 英語購読発表・議論 第8回 英語購読発表・議論 第9回 英語購読発表・議論 第10回 英語購読発表・議論 第11回 英語購読発表・議論 第12回 英語購読発表・議論 第13回 英語購読発表・議論 第14回 英語購読発表・議論 第15回 英語購読課題提出	
進め方	Persuasive Computing より、自分が興味があるテーマを選択し、そのテーマについて書かれた英語文献を購読します。Computer Game Design, Simulation Techniques, Communication and Persuasionなどの文献があります。		
テキスト	B. J. フォッグ, 人を動かすテクノロジー, 日経BP社内で参照されている英語論文。	参考文献	掲載されている論文
評価方法	授業出席・議論参加:30% 英語文献課題:30% 購読資料まとめ・発表:40%		

英書講読		通年 2 単位	2年
原書を読んで、ヨーロッパ史を学ぶ		西願 広望（せいがん こうぼう）	
ねらい	この授業の目的は英語能力の上達ではない。英語で書かれた文献を用いて、ヨーロッパ史を学ぶことこそが授業の目的である。		
授業計画	【前期】 第1回 フランス近代史に関する本を読む 第2回 フランス近代史に関する本を読む 第3回 フランス近代史に関する本を読む 第4回 フランス近代史に関する本を読む 第5回 フランス近代史に関する本を読む 第6回 フランス近代史に関する本を読む 第7回 フランス近代史に関する本を読む 第8回 フランス近代史に関する本を読む 第9回 フランス近代史に関する本を読む 第10回 フランス近代史に関する本を読む 第11回 フランス近代史に関する本を読む 第12回 フランス近代史に関する本を読む 第13回 フランス近代史に関する本を読む 第14回 フランス近代史に関する本を読む 第15回 フランス近代史に関する本を読む	【後期】 第1回 卒論作成に向けての原書購読 第2回 卒論作成に向けての原書購読 第3回 卒論作成に向けての原書購読 第4回 卒論作成に向けての原書購読 第5回 卒論作成に向けての原書購読 第6回 卒論作成に向けての原書購読 第7回 卒論作成に向けての原書購読 第8回 卒論作成に向けての原書購読 第9回 卒論作成に向けての原書購読 第10回 卒論作成に向けての原書購読 第11回 卒論作成に向けての原書購読 第12回 卒論作成に向けての原書購読 第13回 卒論作成に向けての原書購読 第14回 卒論作成に向けての原書購読 第15回 卒論作成に向けての原書購読	
進め方	前期は、一冊の本の訳読担当部分をわりふり、輪読方式で、おこなう。 後期は、各自が卒論で使う文献を読み、報告する。		
テキスト	D. A. Trinkle, The Napoleonic presse, the public sphere and oppositionary journalism, New York, 2002.（コピーを配布する）	参考文献	特になし
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

英書講読		通年 2 単位	2年
英語で書かれた東京論、東京案内を読む		禅野 靖司 (ぜんの やすし)	
ねらい	環境演習のテーマと連動し、東京に関して英語で書かれた文章を読む。また東京を訪れる外国人観光客のために英語で書かれたガイドブックやウェブ上のガイドを比較検討することで、Tokyoがどのような都市として視られているのか、その視点や都市へのアプローチのあり方を考察すると同時に、都市を語るための英語の語彙や表現の発想を学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 配布テキストの講読と討論 第2回 配布テキストの講読と討論 第3回 配布テキストの講読と討論 第4回 配布テキストの講読と討論 第5回 配布テキストの講読と討論 第6回 配布テキストの講読と討論 第7回 配布テキストの講読と討論 第8回 配布テキストの講読と討論 第9回 配布テキストの講読と討論 第10回 配布テキストの講読と討論 第11回 配布テキストの講読と討論 第12回 配布テキストの講読と討論 第13回 発表 第14回 発表 第15回 発表	【後期】 第1回 配布テキストの講読と討論 第2回 配布テキストの講読と討論 第3回 配布テキストの講読と討論 第4回 配布テキストの講読と討論 第5回 配布テキストの講読と討論 第6回 配布テキストの講読と討論 第7回 配布テキストの講読と討論 第8回 配布テキストの講読と討論 第9回 配布テキストの講読と討論 第10回 配布テキストの講読と討論 第11回 配布テキストの講読と討論 第12回 配布テキストの講読と討論 第13回 発表 第14回 発表 第15回 発表	
進め方	学期末の口頭発表の他、普段の授業でも、テキストの講読においては学生間の積極的な関与が可能となるように、英語の文法などを解説することよりは、内容と、その背景にある視点の分析を中心に進める。		
テキスト	英語の旅行ガイドを選んで使う。あとは特に定めず、その都度配布する資料を活用。	参考文献	特になし。
評価方法	出席:30% 討議へ参加度:20% 文章と口頭のレポート:50%		

英書講読		通年 2 単位	2年
実証研究を原書で読む		武田 美亜 (たけだ みあ)	
ねらい	心理学に関する英語文献を読み、心理学の研究手法や先行研究の知見、論文の書き方について学ぶ。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクッションと発表担当者決め 第2回 実証研究論文の読み方 第3回 発表とディスカッション1 第4回 発表とディスカッション2 第5回 発表とディスカッション3 第6回 発表とディスカッション4 第7回 発表とディスカッション5 第8回 発表とディスカッション6 第9回 発表とディスカッション7 第10回 発表とディスカッション8 第11回 発表とディスカッション9 第12回 発表とディスカッション10 第13回 発表とディスカッション11 第14回 発表とディスカッション12 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 インTRODクッションと発表担当者決め 第2回 発表とディスカッション1 第3回 発表とディスカッション2 第4回 発表とディスカッション3 第5回 発表とディスカッション4 第6回 発表とディスカッション5 第7回 発表とディスカッション6 第8回 発表とディスカッション7 第9回 発表とディスカッション8 第10回 発表とディスカッション9 第11回 発表とディスカッション10 第12回 発表とディスカッション11 第13回 発表とディスカッション12 第14回 発表とディスカッション13 第15回 全体のまとめ	
進め方	心理学に関する英語の教科書、研究論文などを取り上げ、担当を決めて発表してもらい。発表後、参加者全員で議論を行なう。		
テキスト	履修者の関心に応じて適宜選択する。	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	発表、議論への参加:60% 出席:20% 課題:20%		

英書講読		通年 2 単位	2年
文脈を読む		中井 章子 (なかい あやこ)	
ねらい	1. 文化に関わるテキストを読む。文脈を理解し、内容について議論できるようにしたい。2. テキストに書いてあることを、十分に理解して、自分の言葉で要約する。3. 長文を読む力をつける。		
授業計画	【前期】 第1回 英語について、文章について再検討する 第2回 文化に関するテキスト(1)を読む 第3回 文化に関するテキスト(1)を読む 第4回 文化に関するテキスト(1)を読む 第5回 まとめ 第6回 文化に関するテキスト(2)を読む 第7回 文化に関するテキスト(2)を読む 第8回 文化に関するテキスト(2)を読む 第9回 まとめ 第10回 文化に関するテキスト(3)を読む 第11回 文化に関するテキスト(3)を読む 第12回 文化に関するテキスト(3)を読む 第13回 まとめ 第14回 試験 第15回 レポート	【後期】 第1回 文化に関するテキスト(4)を読む 第2回 文化に関するテキスト(4)を読む 第3回 文化に関するテキスト(4)を読む 第4回 まとめ 第5回 文化に関するテキスト(5)を読む 第6回 文化に関するテキスト(5)を読む 第7回 文化に関するテキスト(5)を読む 第8回 まとめ 第9回 文化に関するテキスト(6)を読む 第10回 文化に関するテキスト(6)を読む 第11回 文化に関するテキスト(6)を読む 第12回 文化に関するテキスト(6)を読む 第13回 まとめ 第14回 試験 第15回 レポート	
	進め方	全員予習していることを前提とする。 長いまとまった文章を読み、読解力を高める 内容を理解し、それについて議論する。	
テキスト	相談の上で決める。	参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	出席、平常点:70% レポート、試験:30%		

英書講読		通年 2 単位	2年
文化人類学からみた日本		中村 淳 (なかむら じゅん)	
ねらい	文化とひとの関わりについて、また異文化についての学問である、「文化人類学」からみた日本研究の成果について読み進めていきます。単に訳すことを問題にするよりは、「異文化を翻訳すること」の難しさ・おもしろさについて経験してもらおうことがねらいとなります。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 輪読と討論(第1回) 第3回 同上(第2回) 第4回 同上(第3回) 第5回 同上(第4回) 第6回 同上(第5回) 第7回 同上(第6回) 第8回 同上(第7回) 第9回 同上(第8回) 第10回 同上(第9回) 第11回 同上(第10回) 第12回 同上(第11回) 第13回 同上(第12回) 第14回 同上(第13回) 第15回 まとめ	【後期】 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 輪読と討論(第1回) 第3回 同上(第2回) 第4回 同上(第3回) 第5回 同上(第4回) 第6回 同上(第5回) 第7回 同上(第6回) 第8回 同上(第7回) 第9回 同上(第8回) 第10回 同上(第9回) 第11回 同上(第10回) 第12回 同上(第11回) 第13回 同上(第12回) 第14回 同上(第13回) 第15回 まとめ	
	進め方	分担を決めて読み、討論します。各週の担当者は、担当部分を要約するだけでなく、その部分についてコメントと問いの提起を行なってもらい、その後全員で討論します。毎回必ず全員が読み、内容について考えてくることを前提とします。前期と後期で一度ずつ、それぞれの文献内容に即したレポートを課します。	
テキスト	比較的読みやすい日本研究の文献を何点か選び、開講時に参加者との相談の上で選択します。通常、前期と後期は別の文献を読みます。	参考文献	適宜指示します。
評価方法	平常点:80% レポート:20%		

英書講読		通年 2 単位	2年
法律の英語文献を読む		信澤 久美子 (のぶさわ くみこ)	
ねらい	みなさんは、英語でしかも法律などという、とても難しいという感想をもたれるかもしれません。しかし、用語などを押さえてしまえば、あやふやな日常用語よりも、法律の英語はむしろ簡単です。しかも、海外では欠かせない契約の約款がわかることは、トラブルを防ぐためにも必要です。さあ、トライしてみましょう！		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクダクシヨク 第2回 法律英語の基礎知識 1 第3回 法律英語の基礎知識 2 第4回 法律英語の基礎知識 3 第5回 文献輪読 1 第6回 文献輪読 2 第7回 文献輪読 3 第8回 文献輪読 4 第9回 文献輪読 5 第10回 文献輪読 6 第11回 文献輪読 7 第12回 文献輪読 8 第13回 文献輪読 9 第14回 文献輪読 10 第15回 レビユー・セクシヨク	【後期】 第1回 前期の復習と質疑応答 第2回 文献輪読 11 第3回 文献輪読 12 第4回 文献輪読 13 第5回 文献輪読 14 第6回 文献輪読 15 第7回 文献輪読 16 第8回 文献輪読 17 第9回 文献輪読 18 第10回 文献輪読 19 第11回 文献輪読 20 第12回 文献輪読 21 第13回 文献輪読 22 第14回 文献輪読 23 第15回 レビユー・セクシヨク	
進め方	原則的に、文献等を輪読します。あらかじめ、分担部分を決めて、訳をお願いしますので、必ず、当日は休まずに日本語訳を作ってきて提出し、翻訳をして下さい。もし、やむを得ない事情で休むときは、他の人と訳の担当部分を代わってもらって下さい。		
テキスト	みなさんの希望を聞いて、開講時に決定します。	参考文献	辞書（電子辞書可）を持ってきて下さい。難しい専門用語は、田中英夫編『英米法辞典』東京大学出版会を図書館で参照のこと。
評価方法	出席:20% レポーターの時の出来:30% 提出した訳の出来:50%		

英書講読		通年 2 単位	2年
名画を読み解く		人見 伸子 (ひとみ のぶこ)	
ねらい	【前期】パリのオルセー美術館が所蔵する19世紀名画の英文解説を読み、あわせて美術に関する基本的な英単語や表現を学びます。【後期】Trad Japanと題した英文テキストを読み、日本の文化をどのように英語で紹介すればよいのか考え、実践していきましょう。		
授業計画	【前期】 第1回 オルセー美術館のコレクション紹介 第2回 英文解説の講読 以下同様 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 学期末試験	【後期】 第1回 Trad Japan テキストの紹介 第2回 英文テキストの講読 以下同様 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 学期末試験	
進め方	【前期】まず最初の授業でコレクションを概観し、各自が興味をもった絵画を選んで講読の分担を決めます。発表時にはスライドを併用し、画像を見ながら読み進めていきます。【後期】各自の興味に従って日本の文化に関するテーマを選び、担当を決めることにします。毎回DVDを見ることで、さらに理解を深めていきましょう。		
テキスト	前期：授業中にプリント配布 後期： ”	参考文献	授業中に随時指示します。
評価方法	出席:20% 発表点:40% 試験:40%		

英書講読		通年 2 単位	2年
英書講読		廣松 悟 (ひろまつ さとる)	
ねらい	北米の都市と地域の歴史的発展に関する英語文献を読むことによって、北米という空間社会を理解するための基礎的な視角について学習する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス 第2回 担当順の決定 第3回 講読(第1回) 第4回 講読(第2回) 第5回 講読(第3回) 第6回 講読(第4回) 第7回 講読(第5回) 第8回 講読(第6回) 第9回 関連図書検索の実施 第10回 講読(第7回) 第11回 講読(第8回) 第12回 講読(第9回) 第13回 講読(第10回) 第14回 視聴覚教材の利用 第15回 授業のまとめ	【後期】 第1回 ガイダンス 第2回 担当順の決定 第3回 講読(第1回) 第4回 講読(第2回) 第5回 講読(第3回) 第6回 講読(第4回) 第7回 講読(第5回) 第8回 講読(第6回) 第9回 関連図書検索の実施 第10回 講読(第7回) 第11回 講読(第8回) 第12回 講読(第9回) 第13回 講読(第10回) 第14回 視聴覚教材の利用 第15回 授業のまとめ	
進め方	講読なので、指定したテキストを輪読方式で分担して発表する。テキストは北米における都市や地域の発展に関する英語論文を採用する。発表後には各自が意見を述べる議論の時間も設ける。辞書や事典は各自が必要に応じて調べる。		
テキスト	Eric Homberger (1995) The Penguin Historical Atlas of North America	参考文献	授業時に随時紹介した本のなかから各自が必要なものを読む。
評価方法	発表の内容と準備状況:70% 参加状況:30%		

英書講読		通年 2 単位	2年
英語テキストと論文の理解		本多一ハワード 素子 (ほんだ もとこ)	
ねらい	英語のテキストを読み、英語の理解をすすめることが主目的である。前期は心理学に関わる英語のテキストを用いて、その読解を中心に行う。また、実際に英語を用いた簡単なディスカッションも行う。映画を観て、その感想や気づいたことについて、全員で英語で話し合う。後期は、各自の卒業論文のテーマにあわせた英語論文の講読が中心である。		
授業計画	【前期】 第1回 インTRODクシヨン 第2回 テキストを用いた英語講読① 第3回 テキストを用いた英語講読② 第4回 テキストを用いた英語講読③ 第5回 英語によるディスカッション 第6回 テキストを用いた英語講読④ 第7回 テキストを用いた英語講読⑤ 第8回 テキストを用いた英語講読⑥ 第9回 英語によるディスカッション 第10回 テキストを用いた英語講読⑦ 第11回 テキストを用いた英語講読⑧ 第12回 テキストを用いた英語講読⑨ 第13回 英語によるディスカッション 第14回 まとめ 第15回 予備	【後期】 第1回 英語論文の検索と決定 第2回 英語論文レビュー① 第3回 英語論文レビュー② 第4回 英語論文レビュー③ 第5回 英語論文レビュー④ 第6回 英語論文レビュー⑤ 第7回 英語論文レビュー⑥ 第8回 英語論文レビュー⑦ 第9回 英語論文レビュー⑧ 第10回 英語論文レビュー⑨ 第11回 英語論文レビュー⑩ 第12回 まとめ 第13回 まとめ 第14回 まとめ 第15回 予備	
進め方	前期はテキストを取り上げて、そのテキストの講読と発表を中心とする。4回に1度は英語によるディスカッションを行う。後期は各自が卒論のテーマにあわせて英語論文をひとつずつ選び、それをまとめて発表する。		
テキスト		参考文献	初回の授業時に紹介する。
評価方法	出席:30% 発表:40% ディスカッション:30%		

英書講読		通年 2 単位	2年
国際関係論に関する英語文献の講読		三浦 明子 (みうら あきこ)	
ねらい	米国の対外政策決定過程を論じた英語文献や外交文書に取り組む。基本概念の理解と英語文献の基礎的な読解能力の養成をめざす。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 オリエンテーション 第2回 英語文献の講読 1 第3回 英語文献の講読 2 第4回 英語文献の講読 3 第5回 英語文献の講読 4 第6回 英語文献の講読 5 第7回 英語文献の講読 6 第8回 英語文献の講読 7 第9回 英語文献の講読 8 第10回 英語文献の講読 9 第11回 英語文献の講読 10 第12回 英語文献の講読 11 第13回 英語文献の講読 12 第14回 英語文献の講読 13 第15回 まとめ	第1回 英語文献の講読 14 第2回 英語文献の講読 15 第3回 英語文献の講読 16 第4回 英語文献の講読 17 第5回 英語文献の講読 18 第6回 英語文献の講読 19 第7回 英語文献の講読 20 第8回 英語文献の講読 21 第9回 英語文献の講読 22 第10回 英語文献の講読 23 第11回 英語文献の講読 24 第12回 英語文献の講読 25 第13回 英語文献の講読 26 第14回 英語文献の講読 27 第15回 まとめ	
進め方	米国の対アジア政策についての論文の講読を行う。テーマに関連する短い公文書の講読にも挑戦する。なお授業では英文を読むだけでなく、授業中のディスカッションによって米国の対外政策決定過程についての理解を深める。授業に参加するには予習が必要である。		
テキスト	授業で配布する。	参考文献	適宜指示する。
評価方法	出席:40% 予習ノート:40% レポート:20%		

英書講読		通年 2 単位	2年
女性と科学		八耳 俊文 (やつみみ としふみ)	
ねらい	19世紀は科学の大衆化の時代でした。多くの科学啓蒙書が著され、人々は自然の驚異に魅入ったのです。現在の科学は専門化がすすみ、一般の人々が科学の世界に興味をもつこと減りつつありますが、19世紀のさまざまな取り組みを振り返りながら、19世紀における「科学の広がり」の関係について考えを深めることをめざします。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 「18世紀における科学の大衆化」概論 第2回 「19世紀における科学の大衆化」概論 第3回 テキスト Chapter 1 (1) 第4回 テキスト Chapter 1 (2) 第5回 テキスト Chapter 1 (3) 第6回 テキスト Chapter 2 (1) 第7回 テキスト Chapter 2 (2) 第8回 テキスト Chapter 2 (3) 第9回 テキスト Chapter 3 (1) 第10回 テキスト Chapter 3 (2) 第11回 テキスト Chapter 3 (3) 第12回 テキスト Chapter 4 (1) 第13回 テキスト Chapter 4 (2) 第14回 テキスト Chapter 4 (3) 第15回 テキスト Chapter 4 (4)	第1回 テキスト Chapter 5 (1) 第2回 テキスト Chapter 5 (2) 第3回 テキスト Chapter 5 (3) 第4回 テキスト Chapter 6 (1) 第5回 テキスト Chapter 6 (2) 第6回 テキスト Chapter 6 (3) 第7回 テキスト Chapter 7 (1) 第8回 テキスト Chapter 7 (2) 第9回 テキスト Chapter 7 (3) 第10回 テキスト Chapter 8 (1) 第11回 テキスト Chapter 8 (2) 第12回 テキスト Chapter 8 (3) 第13回 テキスト Conclusion (1) 第14回 テキスト Conclusion (2) 第15回 テキスト Conclusion (3)	
進め方	テキストを分担して読みます。担当者は担当箇所を翻訳あるいは要約した紙を準備し、それをもとに発表します。		
テキスト	Bernard Lightman, Victorian popularizers of science (Chicago and London : The University of Chicago Press, 2007)	参考文献	リン・バーバー著、高山宏訳『博物学の黄金時代』(国書刊行会、1995)
評価方法	出席:20% 発表:80%		

英書講読		通年 2 単位	2年
社会科学・社会思想史の英文講読		輪島 達郎 (わじま たつろう)	
ねらい	社会科学もしくは社会思想史にかんするの英文テキストをていねいに和訳しながら、テキスト解釈と論理構築の方法を学びます。		
授業計画	【前期】 第1回 テキストの和訳と話し合い 第2回 テキストの和訳と話し合い 第3回 テキストの和訳と話し合い 第4回 テキストの和訳と話し合い 第5回 テキストの和訳と話し合い 第6回 テキストの和訳と話し合い 第7回 テキストの和訳と話し合い 第8回 テキストの和訳と話し合い 第9回 テキストの和訳と話し合い 第10回 テキストの和訳と話し合い 第11回 テキストの和訳と話し合い 第12回 テキストの和訳と話し合い 第13回 テキストの和訳と話し合い 第14回 テキストの和訳と話し合い 第15回 テキストの和訳と話し合い	【後期】 第1回 テキストの和訳と話し合い 第2回 テキストの和訳と話し合い 第3回 テキストの和訳と話し合い 第4回 テキストの和訳と話し合い 第5回 テキストの和訳と話し合い 第6回 テキストの和訳と話し合い 第7回 テキストの和訳と話し合い 第8回 テキストの和訳と話し合い 第9回 テキストの和訳と話し合い 第10回 テキストの和訳と話し合い 第11回 テキストの和訳と話し合い 第12回 テキストの和訳と話し合い 第13回 テキストの和訳と話し合い 第14回 テキストの和訳と話し合い 第15回 テキストの和訳と話し合い	
進め方	この授業は「社会思想史演習」と一体的に運用しますので、「社会思想史演習」でその時々考察しているテーマに即した英文を選び、和訳とともに内容についての議論を行います。		
テキスト	未定。「社会思想史演習」で考察対象となっている課題に即した英文を選定します。	参考文献	教室で指示します。
評価方法	平常点:90% レポート:10%		

英書講読		通年 2 単位	2年
パニックや流言の基本を学ぶ		渡邊 良智 (わたなべ よしとも)	
ねらい	パニック、流言などに関する古典や基本的文献を読んで、これらの社会現象についての理解を深める。また、英字新聞の日本関係の記事を読むことにより、日本社会や日本人についての理解を深める。		
授業計画	【前期】 第1回 H. Cantril, The Invasion from Mars (1) 第2回 同上 (2) 第3回 同上 (3) 第4回 同上 (4) 第5回 同上 (5) 第6回 G. Allport, L. Postman, The Psychology of Rumor (1) 第7回 同上 (2) 第8回 同上 (3) 第9回 同上 (4) 第10回 同上 (5) 第11回 N. DiFonzo, P. Bordia, Rumor Psychology (1) 第12回 同上 (2) 第13回 同上 (3) 第14回 同上 (4) 第15回 試験	【後期】 第1回 T. Shibutani, Improvised News (1) 第2回 同上 (2) 第3回 同上 (3) 第4回 同上 (4) 第5回 同上 (5) 第6回 R. Rosnow, G. Fine, Rumor and Gossip (1) 第7回 同上 (2) 第8回 同上 (3) 第9回 同上 (4) 第10回 同上 (5) 第11回 C. Sunstein, On Rumors (1) 第12回 同上 (2) 第13回 同上 (3) 第14回 同上 (4) 第15回 試験	
進め方	上記のテキストを読解する。		
テキスト	上記のテキスト	参考文献	特にない。
評価方法	出席:20% 平常点:20% 試験:60%		

フランス語演習Ⅰ（初級）		通年 2 単位	1・2年
フランス語入門		村田 真弓（むらた まゆみ）	
ねらい	初めてフランス語を学習する人を対象とします。発音の練習から始め、フランス語文法の基礎や日常表現などを学びます。やさしいフランス語の文章が読め、フランス語での簡単なコミュニケーションができるようになるのがねらいです。		
授業計画	【前期】 第1回 辞書の紹介、アルファベを発音する 第2回 挨拶する、発音と綴り字 第3回 名前、国籍、職業を言う 第4回 主語人称代名詞、動詞ETRE 第5回 名詞の性と数、動詞AVOIR 第6回 年齢を言う、家族を語る 第7回 否定文の作り方 第8回 疑問文の作り方 第9回 持ち物を言う、所有形容詞 第10回 形容詞の位置、形容詞の女性形と複数形 第11回 尋ねる、疑問詞 第12回 近い未来、近い過去 第13回 場所に関する表現 第14回 前期のまとめ 第15回 試験	【後期】 第1回 前期試験答案の返却、前期の復習 第2回 時間、天候を言う 第3回 非人称構文 第4回 数量を表す 第5回 紹介する 第6回 補語人称代名詞 第7回 一日を語る 第8回 代名動詞 第9回 頼む、命令する 第10回 未来のことを語る 第11回 直説法単純未来 第12回 過去のことを語る 第13回 直説法複合過去 第14回 後期のまとめ 第15回 試験	
進め方	教科書に沿って、文法事項の説明とそれに関する練習問題をしていきます。言葉の背景にあるフランスの文化についても適宜補足するつもりです。「ゆっくりかつ着実に」をモットーとして、頻繁に小テストをする予定です。質問大歓迎、積極的に授業にかかわって下さい。		
テキスト	藤田祐二・藤田知子著『新・東京ーパリ、初飛行』駿河台出版社	参考文献	必要に応じ、教室で指示します。
評価方法	定期試験:60% 平常点:40%		

フランス語演習Ⅱ（中級）		通年 2 単位	2年
フランス語Ⅰをふまえてレベルアップする		鈴木 律子（すずき りつこ）	
ねらい	フランス語一一年次にひき続くフランス語運用能力の向上		
授業計画	【前期】 第1回 過去のことを語るⅠ 第2回 過去のことを語るⅠ（続） 第3回 過去のことを語るⅡ 第4回 過去のことを語るⅡ（続） 第5回 人や物について語る 第6回 人や物について語る（続） 第7回 比較する 第8回 比較する（続） 第9回 受け身の形を使う 第10回 受け身の形を使う（続） 第11回 仮定する 第12回 仮定する（続） 第13回 仮定する（続） 第14回 前期分の総合的復習 第15回 試験	【後期】 第1回 感情を表現する 第2回 感情を表現する（続） 第3回 学生と共にテキストを選び読み進む 第4回 学生と共にテキストを選び読み進む 第5回 学生と共にテキストを選び読み進む 第6回 学生と共にテキストを選び読み進む 第7回 学生と共にテキストを選び読み進む 第8回 学生と共にテキストを選び読み進む 第9回 学生と共にテキストを選び読み進む 第10回 学生と共にテキストを選び読み進む 第11回 学生と共にテキストを選び読み進む 第12回 学生と共にテキストを選び読み進む 第13回 学生と共にテキストを選び読み進む 第14回 学生と共にテキストを選び読み進む 第15回 試験	
進め方	一年次と同様、まずテキストを口頭反復練習し、次に文法事項を解説する。テキストの訳、練習問題は学生の参加による。		
テキスト	藤田裕二・藤田知子著『新・東京ーパリ、初飛行』駿河台出版社	参考文献	教科書、仏和辞典、ノートは毎時間持参して欲しい。あとは必要に応じて授業中に指示する。
評価方法	定期試験の成績:80% 出席・授業の発表:20%		

ドイツ語演習Ⅰ（初級）		通年 2 単位	1・2年
ドイツ語入門		大谷 美奈（おおたに みな）	
ねらい	日本人女子学生のドイツ滞在記という設定のDVDが付いたテキストを使って、ドイツの日常生活に親しみながら、ドイツ語表現の習得を目指します。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス・アルファベット 第2回 発音、数詞 第3回 「空港での出迎え」 第4回 動詞・語順 第5回 練習 第6回 「ドライブ」 第7回 名詞・冠詞 第8回 練習 第9回 「ホストファミリー」 第10回 複数 第11回 練習 第12回 「語学学校」 第13回 命令 第14回 代名詞 第15回 試験	【後期】 第1回 「ドナウ河畔散策」 第2回 前置詞 第3回 冠詞類 第4回 「レストラン」 第5回 否定 第6回 接続詞 第7回 「郵便局」 第8回 「買い物」 第9回 「誕生パーティー」 第10回 「病気、薬局」 第11回 「小旅行」 第12回 「ホテル」 第13回 「ドイツ人との会話」 第14回 「別れ」 第15回 試験	
進め方	DVDで場面を確認しながら、テキストに沿って説明し、練習していきます。発音練習、内容確認問題や作文などの練習を通して、ドイツ語の文法、表現を定着させていきます。テキストにDVDと単語集が付いているので、予習、復習に活用してください。		
テキスト	『ドイツってすてき！ [DVD付き改訂版]』萩野蔵平・Andrea Raab（朝日出版社）	参考文献	辞書について最初の時間に紹介します。必ず毎時間教室に持参してください。
評価方法	試験:40% 平常点:30% 課題提出状況:30%		

ドイツ語演習Ⅱ（中級）		通年 2 単位	2年
ドイツ語の基礎を復習しながら、実践力をつけよう！		飯田 道子（いいだ みちこ）	
ねらい	前期は、一年次に学習した初級文法を復習しながら基礎固めをし、それを使ってさらに上級レベルの表現をめざします。後期は、文学作品や映像作品などを題材として、学んだ文法を実践的に使う力を養います。		
授業計画	【前期】 第1回 自己紹介 第2回 自分を話す 第3回 過去の表現（1） 第4回 過去の表現（2） 第5回 過去の表現（3） 第6回 受動（1） 第7回 受動（2） 第8回 再帰動詞 第9回 不定句 第10回 副文（1） 第11回 副文（2） 第12回 関係代名詞（1） 第13回 関係代名詞（2） 第14回 夏休みの予定 第15回 予備日	【後期】 第1回 夏休みのこと 第2回 完了表現のおさらい 第3回 接続法 第4回 接続法 第5回 映像作品に見るドイツ（1） 第6回 映像作品に見るドイツ（2） 第7回 ドイツ旅行計画を作ろう 第8回 ドイツ旅行計画を作ろう 第9回 グリム童話を読む 第10回 グリム童話を読む 第11回 グリム童話を読む 第12回 クリスマスの習慣 第13回 日本におけるグリム受容 第14回 一年のまとめ 第15回 予備日	
進め方	前期は、一年時に学んだ文法の復習をしながら、未習の文法を学習します。ミュンヘンで暮らす日本人学生を主人公にしたテキストを使って、日常の表現を中心に練習していきます。パートナー練習を多用した授業ですので、積極的な参加を重視します。		
テキスト	飯田道子・江口直光「アプファールト」（三修社）	参考文献	辞書を毎回持参してください。
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

スペイン語演習Ⅰ（初級）		通年 2 単位	1・2年
スペイン語の基礎を習得して、表現しよう！		廣田 拓（ひろた たく）	
ねらい	①スペイン語の初級文法及び簡単な会話表現を習得する。 ②スペイン語の文化・日常生活を理解する。 ③スペイン語で自己表現する。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、アルファベット、発音 第2回 文字、発音・アクセントの規則 第3回 簡単な挨拶の表現、名詞、形容詞 第4回 冠詞、主語人称代名詞、文の作り方 第5回 動詞serの用法 第6回 動詞estarの用法 第7回 所有形容詞、動詞serとestarの比較 第8回 基数、指示代名詞、指示形容詞 第9回 動詞hay, tener, irの用法 第10回 直説法現在形の規則動詞：A R動詞の用法 第11回 直説法現在形の規則動詞：E R動詞の用法 第12回 直説法現在形の規則動詞：I R動詞の用法 第13回 規則動詞を使った表現 第14回 まとめと復習 第15回 期末試験	【後期】 第1回 復習：ser, estar, hayの用法 第2回 復習：tener, irの用法、規則動詞の表現 第3回 不規則動詞の用法（1） 第4回 不規則動詞の用法（2）：動詞poder, quererの用法 第5回 不規則動詞を使った表現 第6回 曜日と日付の表現、前置詞格人称代名詞 第7回 疑問詞の用法と表現、前置詞の用法 第8回 間接目的語になる人称代名詞の用法 第9回 直接目的語になる人称代名詞の用法 第10回 動詞gustarの用法と表現、gustar型の動詞の用法 第11回 時間の表現 第12回 比較表現 第13回 再帰動詞の用法 第14回 まとめと復習 第15回 期末試験	
進め方	基本的にはテキストとプリントを活用して、授業計画に沿って授業を進める。毎回、重要な文法事項を説明し、その後、例文や会話表現を音読し、反復練習を行う。リスニングは、CDやDVD教材を用いる。小テストや宿題で文章を作る練習をする。		
テキスト	「Poquito a poco（スペイン語を学ぼうよ!）」 高橋寛二・伊藤ゆかり他、朝日出版社	参考文献	辞書及び参考文献については、ガイダンスの際に説明します。授業では辞書を用意してもらいます。
評価方法	期末試験:50% 小テスト・宿題:30% 出席状況:20%		

スペイン語演習Ⅱ（中級）		通年 2 単位	2年
スペイン語会話にチャレンジ！		フローレス（FLORES, H. A.）	
ねらい	幅広い会話表現を目指す。スペイン語Ⅰで学んだ基礎に基づき、それよりレベルの高い表現方法、コミュニケーションの方法を学習する。習った会話を自分で応用及び変化させながらより実用的な会話ができるように取り組んでいく。また、それまで習ったスペイン語を使って自由に、簡単なスピーチや作文を楽しむ。		
授業計画	【前期】 第1回 基本的な表現や一般的な動詞の用法を思い出す。 第2回 前置詞② desde, hasta, para（日常会話16） 第3回 点過去、動詞の活用（17） 第4回 点過去、線過去、動詞の活用（17-18） 第5回 線過去、不規則動詞のser, ir, ver（18） 第6回 点過去と線過去、その関係、Speech（19） 第7回 点過去、線過去、現在完了、Speech（19-20） 第8回 現在進行形・現在分詞、Speech（21） 第9回 過去進行形・現在分詞、Speech（21） 第10回 未来形及びその代り表現、Speech（22） 第11回 未来形、再帰動詞、Speech（22-23） 第12回 再帰動詞、再帰人称代名詞、Speech（23） 第13回 再帰人称代名詞（応用）、Speech（23） 第14回 全体的な復習、Speech 第15回 試験	【後期】 第1回 再帰動詞、関係代名詞/副詞Speech（23-24） 第2回 命令形、Speech（25） 第3回 命令形の色々な使い方、Speech（25） 第4回 “se”の用法、Speech（高度な表現1） 第5回 受身の表現、Speech（2） 第6回 比較、Speech（3） 第7回 接続法①、接続法現在、Speech（4） 第8回 接続法現在の一般的な用法、Speech（4） 第9回 接続法②、接続法過去、Speech（5） 第10回 接続法過去への一般的な用法、Speech（5） 第11回 条件法、Speech（6） 第12回 接続法と条件法の関係、Speech（6） 第13回 手紙の書き方、Speech（手紙の書き方1） 第14回 全体的な復習、Speech 第15回 試験	
進め方	スペイン語Ⅰの教科書を復習しながら授業計画に沿って授業を進めるが、時間やその他の条件によって、臨機応変に対応し学生と教師との対話をはかりつつ、授業を進める。		
テキスト	スペイン語Ⅰで使ったテキストを引き続き使用する。「CDレッスン 驚くほど身につくスペイン語」Luis Cebollada+山崎佳世【共著】（高橋書店）。	参考文献	西和辞典（研究社、小学館、白水社、等）を用意して下さい。その他必要に応じて、授業中に指示する。
評価方法	授業への積極的参加:20% 宿題:20% 定期試験:60%		

ロシア語演習Ⅰ（初級）		通年 2 単位	1・2年
やさしいロシア語入門 ロシア語を始めましょう		大野 斉子（おおの ときこ）	
ねらい	文法とともにロシア語の表現を学びながらロシア語の基礎を身につけます。ロシア語は意外に読むのが簡単で、日本人にとって親しみやすい言語です。日本とロシアは隣国として関係が深く、近年ロシアの経済や文化への関心は急速に高まっています。授業ではビデオ鑑賞も行います。楽しくロシアについて学びましょう。		
授業計画	【前期】 第1回 文字と発音（1） 会話表現 第2回 文字と発音（2） ロシアについて 第3回 文字と発音（3） ビデオ鑑賞 第4回 文字と発音（4） 会話表現 第5回 文字と発音（5） ロシアについて 第6回 名詞と形容詞 ビデオ鑑賞 第7回 名詞と形容詞 会話表現 第8回 所有代名詞 ロシアについて 第9回 所有代名詞 ビデオ鑑賞 第10回 人称代名詞と動詞 会話表現 第11回 人称代名詞と動詞 ロシアについて 第12回 目的語 ビデオ鑑賞 第13回 目的語 会話表現 第14回 これまでのまとめ ロシアについて 第15回 試験 ビデオ鑑賞	【後期】 第1回 命令形 会話表現 第2回 命令形 ロシアについて 第3回 数の表現 ビデオ鑑賞 第4回 数の表現 会話表現 第5回 名詞のまとめ ロシアについて 第6回 移動の表現 ビデオ鑑賞 第7回 移動の表現 会話表現 第8回 所有の表現 ロシアについて 第9回 所有の表現 ビデオ鑑賞 第10回 未来の表現 会話表現 第11回 未来の表現 ロシアについて 第12回 場所の表現 ビデオ鑑賞 第13回 場所の表現 会話表現 第14回 これまでのまとめ ロシアについて 第15回 試験 ビデオ鑑賞	
進め方	テキストと音声CDを中心に授業を行います。音読や筆記の練習をしながらゆっくり進めます。また美しいロシアの街やアニメーションのビデオを鑑賞し、ロシア語の歌を歌ったりロシアの文学や文化を学ぶ時間をとり入れます。のんびりとした楽しい授業ですので気軽に参加してください。		
テキスト	『ロシア語へのパスポート』（白水社） 『ロシア語習字ノート』（ナウカ出版）	参考文献	
評価方法	出席：70% 平常点：10% 定期試験：20%		

ロシア語演習Ⅱ（中級）		通年 2 単位	2年
やさしいロシア語中級 ロシア語を使いましょう		大野 斉子（おおの ときこ）	
ねらい	ロシア語を前年に引き続き学びます。文法を終えたらロシア語の文章を読んだり会話表現を練習して、これまで身につけたロシア語の表現力をさらに豊かなものにしていきましょう。また授業ではビデオ鑑賞やロシアの紹介を行います。楽しみながらロシアへの理解を一層深めます。		
授業計画	【前期】 第1回 移動の表現 会話表現 第2回 移動の表現 ロシアについて 第3回 所有の表現 ビデオ鑑賞 第4回 所有の表現 会話表現 第5回 未来の表現 ロシアについて 第6回 未来の表現 ビデオ鑑賞 第7回 場所の表現 会話表現 第8回 場所の表現 ロシアについて 第9回 過去の表現 ビデオ鑑賞 第10回 過去の表現 会話表現 第11回 動詞の変化 ロシアについて 第12回 動詞の変化 ビデオ鑑賞 第13回 名詞の格変化 会話表現 第14回 名詞の格変化 ロシアについて 第15回 試験 ビデオ鑑賞	【後期】 第1回 不完了体と完了体 会話表現 第2回 不完了体と完了体 ロシアについて 第3回 形容詞の格変化 ビデオ鑑賞 第4回 形容詞の格変化 会話表現 第5回 前置詞のまとめ ロシアについて 第6回 前置詞のまとめ ビデオ鑑賞 第7回 ロシア語を読みましょう 会話表現 第8回 ロシア語を読みましょう ロシアについて 第9回 ロシア語を読みましょう ビデオ鑑賞 第10回 ロシア語を読みましょう 作文 会話表現 第11回 ロシア語を読みましょう 作文 ロシアについて 第12回 ロシア語を読みましょう 作文 ビデオ鑑賞 第13回 ロシア語を読みましょう 会話表現 第14回 ロシア語を読みましょう ロシアについて 第15回 試験 ビデオ鑑賞	
進め方	前年に続いてロシア語のテキストと音声CDを中心に授業を行います。音読や筆記の練習をしながらゆっくり進めます。文法が終わったらロシア語の文章を読み、会話や作文でロシア語を使ってみましょう。また随時ビデオを鑑賞し、ロシア語の歌を歌ったりロシアの文学や文化について学ぶ時間をとり入れます。のんびりと楽しみながら授業を行います。		
テキスト	『ロシア語へのパスポート』（白水社）	参考文献	
評価方法	出席：70% 平常点：10% 定期試験：20%		

中国語演習Ⅰ（初級）		通年 2 単位	1・2年
中国語ポイント42		呉 秀月（ご しゅうげつ）	
ねらい	中国語を初めて勉強する人に、中国語の声調と発音をしっかり身につけることを目指します。そして中国語の文の基本構造を理解し、中国語の文章を読めることと簡単な会話が交わせることができるよう指導していきます。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 中国に関する紹介と中国語の発音の基礎紹介</p> <p>第2回 中国語の発音：（1）声調・単母音の習得</p> <p>第3回 中国語の発音：（2）複合母音の習得</p> <p>第4回 中国語の発音：（3）子音の習得</p> <p>第5回 中国語の発音：（4）鼻母音の習得</p> <p>第6回 第一課：人称代名詞・是の文・名前の言い方</p> <p>第7回 第一課の復習と第二課：動詞が述語になる文</p> <p>第8回 第二課：指示代名詞・疑問詞を使う疑問文</p> <p>第9回 第二課の復習と第三課：形容詞が述語になる文</p> <p>第10回 第三課：所有を表す“有”・反復疑問文・副詞</p> <p>第11回 第三課の復習と第四課：場所を表す代名詞</p> <p>第12回 第四課：存在を表す“在”・動詞の重ね型・省略疑問文</p> <p>第13回 第四課の復習と第五課：数詞・量詞</p> <p>第14回 第五課：“幾”と“多少”・語気助詞</p> <p>第15回 第一課から第五課の復習</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 前期教えた発音と文型の復習</p> <p>第2回 第六課：存在を表す“有”・連動文・月日・曜日・時刻</p> <p>第3回 第六課の復習と第七課：助動詞：“要”“想”</p> <p>第4回 第七課：介詞“在”・完了を表す“了”</p> <p>第5回 第七課の復習と第八課：助動詞“能”“会”“可以”</p> <p>第6回 第八課：経験を表す文・時間の長さを表し方</p> <p>第7回 第八課の復習と第九課：介詞“給”</p> <p>第8回 第九課：動詞の進行を表す“正”“在”など</p> <p>第9回 第九課の復習と第十課：結果補語</p> <p>第10回 第十課：動作の状態や程度の表現など</p> <p>第11回 第十課の復習と第十一課：方向補語</p> <p>第12回 第十一課：“把”構文・比較の表現</p> <p>第13回 第十一課の復習と第十二課：可能補語</p> <p>第14回 第十二課：二重目的語をとる動詞・“是・・・的”の文</p> <p>第15回 第六課から第十二課の復習</p>	
進め方	最初の数回は発音と声調の練習にあてます。その後は会話形式で中国語の文の基本的な構造と文の聞き取りの練習を何回も行います。受講者の授業への積極的参加が望まれます。		
テキスト	本間史・孟広学『中国語ポイント42』（白水社、2009年）。	参考文献	授業中に紹介します。
評価方法	出席と授業参与:30% 期末試験:70%		

中国語演習Ⅱ（中級）		通年 2 単位	2年
中国語のステップアップ		孔 令敬（こう れいけい）	
ねらい	中国語を一年間学習した人を対象にする講座である。既習の単語や文法知識を再確認しながら豊かな表現を勉強する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 練習 既習した項目の復習</p> <p>第2回 第一課 練習 補語と慣用句と使役文など</p> <p>第3回 練習</p> <p>第4回 第二課 完了文・複文使い方など</p> <p>第5回 練習</p> <p>第6回 第三課 助動詞と動量詞を使った表現</p> <p>第7回 練習</p> <p>第8回 第四課 複文と結果補語・名詞の修飾の仕方など</p> <p>第9回 練習</p> <p>第10回 第五課 様態補語・助詞「了」のいろいろな使い方など</p> <p>第11回 練習</p> <p>第12回 第六課 比較文 因果関係を表す表現など</p> <p>第13回 練習</p> <p>第14回 第七課 復習と総合練習</p> <p>第15回 練習</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 前期に学習した項目の復習</p> <p>第2回 第八課 複文と慣用句など</p> <p>第3回 練習</p> <p>第4回 第九課 複文と慣用表現</p> <p>第5回 練習</p> <p>第6回 第十課 完了説明文と慣用表現の使い方など</p> <p>第7回 練習</p> <p>第8回 第十一課 助動詞の使い方 慣用句など</p> <p>第9回 練習</p> <p>第10回 第十二課 前置詞と特別動詞の使い方など</p> <p>第11回 練習</p> <p>第12回 第十三課 将来形の表現</p> <p>第13回 練習</p> <p>第14回 復習と総合練習</p> <p>第15回 テスト</p>	
進め方	教科書に沿って進める。学習効果を高めるため、プリントを配布する時がある。		
テキスト	白帝社・『表現する中国語Ⅱ』・楊凱栄ほか	参考文献	中国語の語彙がもつ本来の意義は多岐に互るものなので、みずから進んで辞書にあたって調べる習慣をつけてほしい。市販のものなら、何でもいい。
評価方法	平常点（出席点）と受講姿勢:50% 前後期の試験:50%		

韓国語演習Ⅰ（初級）		通年 2 単位	1・2年
韓国語と韓国の文化、社会		川村 受映（かわむら じゅえい）	
ねらい	この講座では、韓国語の基礎をマスターすることを目的とする。韓国語の読み書きをはじめ、文章のつくり方など基本的な文法を指導するが、全体的に会話に重点を置く。なお、韓国関係のビデオや映画などを用いることで、韓国の現代社会や文化、歴史にもふれる。インターネットを活用して授業を進めると同時にコンピュータでハングルのやり取りができるようにする。		
授業計画	【前期】 第1回 授業のオリエンテーション、第1課 第2回 第2課 第3回 第3課 第4回 第4課 第5回 第5課 第6回 第6課 第7回 第7課 第8回 第8課 第9回 第9課 第10回 第10課 第11回 第11課 第12回 第12課 第13回 第13課 第14回 第14課 第15回 第15課	【後期】 第1回 第16課 第2回 第16課 第3回 第17課 第4回 第17課 第5回 第18課 第6回 第18課 第7回 第19課 第8回 第19課 第9回 第20課 第10回 第20課 第11回 第21課 第12回 第21課 第13回 第22課 第14回 第22課 第15回 試験	
進め方	教科書に沿ってすすめる。		
テキスト	『書いて覚える初級朝鮮語』白水社 高島 淑郎	参考文献	授業中紹介する。
評価方法	平常点:30% 中間発表:30% 期末テスト:40%		

韓国語演習Ⅱ（中級）		通年 2 単位	2年
中級韓国語		北原 スマ子（きたはら すまこ）	
ねらい	韓国語の中級レベルの「読む・書く・話す・聞く」力をバランスよく身につけることを目的とします。日常よく使う文法・文型・語彙などを学び、より多様で豊かな表現ができるようにします。学んだことを応用して、簡単な会話ができることをめざします。言葉の背景にある韓国の文化や社会に対する理解を深めます。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、日常会話の復習、自己紹介 第2回 第1課～第4課 文字、発音、文法の復習 第3回 第5課 田中です。 第4回 第5課 名詞文 第5回 第6課 私のカバンではありません。 第6回 第6課 名詞文の否定と尊敬 第7回 第7課 どこにありますか。 第8回 第7課 用言文 第9回 第8課 1万3千ウォンです。 第10回 第8課 数詞・疑問詞 第11回 第9課 どこに行かれますか。 第12回 第9課 尊敬形 第13回 第5課～第9課の総まとめ 第14回 韓国の文化に触れるⅠ 第15回 期末試験	【後期】 第1回 前期の復習、会話練習 第2回 第10課 もう少し教えてください。 第3回 第10課 連用形 第4回 第10課 ヘヨ体 第5回 第11課 ちょっとお待ち下さい。 第6回 第11課 ヘヨ体の尊敬形 第7回 第11課 婉曲表現 第8回 第12課 日曜日は何をなさいましたか。 第9回 第12課 過去形 第10回 第12課 原因・理由表現 第11回 第13課 日本語を専攻しています。 第12回 第13課 進行形・連体形 第13回 第10課～第13課の総まとめ 第14回 韓国の文化に触れるⅡ 第15回 期末試験	
進め方	テキストを使って単語・発音・文法・文型などを学び、練習問題を通して、理解の定着を図ります。本文を暗記してロールプレイングを行います。韓国の文化や社会を理解するために、映像や出版物を活用します。		
テキスト	生越直樹、チョ・ヒチヨル著『ことばの架け橋』（白帝社）	参考文献	小学館・韓国金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』（小学館）
評価方法	出席:30% 宿題・小テスト:20% 定期試験:50%		

情報処理 I		前期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		安瀬 美知子 (あんせ みちこ) 宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	コンピュータと通信技術の進歩は私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩には必ずつきまとう“光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：情報のデジタル化 第3回 システム環境、コンピュータの基本操作 第4回 文字入力の基礎、文章の編集 第5回 ワードプロ（1）編集、文字飾り等 第6回 ワードプロ（2）課題演習 第7回 ワードプロ（3）課題演習 第8回 インターネット概説、メールの送受信 第9回 ワードプロ（4）罫線処理 第10回 ワードプロ（5）画像処理 第11回 ワードプロ（6）図形処理 第12回 パワーポイント（1）スライド作成の基礎 第13回 パワーポイント（2）課題演習 第14回 パワーポイント（3）課題演習 第15回 まとめの課題		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では機能及び使い方の解説をしながら実際に操作して動作を確認する。課題を仕上げるにより、初歩的なIT技術を確実に身につける。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・大谷康晴・宮治裕著 青山学院購買会）	参考文献	無し
評価方法	課題演習：80% 出席：20%		

情報処理 I		前期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		飯田 千代 (いいだ ちよ)	
ねらい	コンピュータと通信技術の進歩は私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩には必ずつきまとう“光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：コンピュータの基礎知識 第3回 コンピュータの基本操作 第4回 ワードプロ実習（1）文字入力の基礎、文章の編集 第5回 インターネット実習（1） 第6回 インターネット実習（2） 第7回 ワードプロ実習（2）文字飾り 第8回 ワードプロ実習（3）課題演習 第9回 ワードプロ実習（4）課題演習 第10回 ワードプロ実習（5）罫線処理 第11回 ワードプロ実習（6）課題演習 第12回 画像処理 第13回 ワードプロ実習（7）画像の貼り付け 第14回 パワーポイント実習 第15回 課題演習		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では解説に従って実際に操作し、まとめの課題演習をとおしてIT技術を身につける。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・宮治裕著、同文書院）	参考文献	随時紹介する。
評価方法	実習課題：80% 出席：20%		

情報処理 I		後期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		飯田 千代 (いいた ちよ)	
ねらい	コンピュータと通信技術の進歩は私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩には必ずつきまとう“光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：コンピュータの基礎知識 第3回 コンピュータの基本操作 第4回 ワープロ実習（1）文字入力的基础、文章の編集 第5回 インターネット実習（1） 第6回 インターネット実習（2） 第7回 ワープロ実習（2）文字飾り 第8回 ワープロ実習（3）課題演習 第9回 ワープロ実習（4）課題演習 第10回 ワープロ実習（5）罫線処理 第11回 ワープロ実習（6）課題演習 第12回 画像処理 第13回 ワープロ実習（7）画像の貼り付け 第14回 パワーポイント実習 第15回 課題演習		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では解説に従って実際に操作し、まとめの課題演習をとおしてIT技術を身につける。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・宮治裕著、同文書院）	参考文献	随時紹介する。
評価方法	実習課題：80% 出席：20%		

情報処理 I		後期 2 単位	1・2年
コンピュータ・リテラシー		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	コンピュータと通信技術の進歩は私達の生活に大きな影響を与えている。本講座は、講義とパーソナル・コンピュータを使っての実習を通して、情報処理の基礎的な知識と技術を習得するとともに、科学技術の進歩には必ずつきまとう“光と影”についての理解を目的とする。		
授業計画	【後期】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 講義：情報のデジタル化 第3回 システム環境、コンピュータの基本操作 第4回 文字入力的基础、文章の編集 第5回 ワープロ（1）編集、文字飾り 第6回 ワープロ（2）課題演習 第7回 ワープロ（3）課題演習 第8回 インターネット概説、メールの送受信 第9回 ワープロ（4）罫線処理 第10回 ワープロ（5）画像処理 第11回 ワープロ（6）図形処理 第12回 パワーポイント（1）スライド作成の基礎 第13回 パワーポイント（2）課題演習 第14回 パワーポイント（3）課題演習 第15回 まとめ課題		
進め方	コンピュータの基礎知識に関して講義した後実習に入る。実習では機能及び使い方の解説をしながら実際に操作して動作を確認する。課題を仕上げることにより、初歩的なIT技術を実践に身につける。		
テキスト	情報基礎講義（宮田雅智・大谷康晴・宮治裕著 青山学院購買会）	参考文献	無し
評価方法	課題演習：80% 出席：20%		

情報処理Ⅱ		前期 2 単位	1・2年
表計算と統計処理		飯田 千代 (いいた ちよ)	
ねらい	事務等でよく利用される表計算について、実際にパソコンを利用しながら、その意義を知り、操作方法を習得すると同時に、統計の基礎概念を理解することを目的とします。後半は、実際にデータを用いて情報を分析、予測する手法を演習を通して習得します。		
授業計画	<p>【前期】</p> 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 Excelの基本操作 第3回 式と関数の基礎 第4回 表示形式と表の清書 第5回 グラフ作成 第6回 課題演習 第7回 統計の基礎 第8回 分析、推定 第9回 課題演習 第10回 関数(1) 第11回 関数(2) 第12回 課題演習 第13回 集計 第14回 マクロ 第15回 課題演習		
進め方	概念などについての講義のあと、実際に操作することによって技能を身につける。		
テキスト	情報基礎講義 (宮田雅智・宮治裕著 同文書院)	参考文献	随時紹介する。
評価方法	課題:70% 出席:30%		

情報処理Ⅱ		後期 2 単位	1・2年
表計算と統計処理			
<p>【担当教員】 安瀬 美知子 (あんせ みちこ)、飯田 千代 (いいた ちよ)、宮田 雅智 (みやた まさのり)</p> <p>【ねらい】 事務等でよく利用される表計算について、実際にパソコンを利用しながら、その意義を知り、操作方法を習得すると同時に、統計の基礎概念を理解することを目的とします。後半は、実際にデータを用いて情報を分析、予測する手法を演習を通して習得します。</p> <p>【授業計画】 第1回 ガイダンス、利用者登録等実習環境準備 第2回 Excelの基本操作 第3回 式と関数の基礎 第4回 表示形式と表の清書 第5回 グラフ作成 第6回 課題演習 第7回 統計の基礎 第8回 分析、推定 第9回 課題演習 第10回 関数(1) 第11回 関数(2) 第12回 課題演習 第13回 集計 第14回 マクロ 第15回 課題演習</p> <p>【進め方】 概念などについての講義のあと、実際に操作することによって技能を身につける。</p> <p>【テキスト】 情報基礎講義 (宮田雅智・大谷康晴・宮治裕著 青山学院購買会) また、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考文献】 必要に応じて紹介する。</p> <p>【評価方法】 課題:70% 出席:30%</p>			

情報処理Ⅲ		後期 2 単位	1・2年
プログラミングの初歩		宮田 雅智 (みやた まさのり)	
ねらい	コンピュータ利用というワープロや表計算ソフトなど既存のソフトウェアを使う場合が多いが、そういったものに頼らず、プログラムを作成し、作業することも可能である。本講義は、プログラミングに関して全くの初心者を対象に、「Visual Basic」というプログラミング言語を使ってソフトウェアを作ることを体験する。		
授業計画	【後期】 第1回 プログラムとは。Visual Basicの開始と終了、実習(1) 第2回 フォーム、コマンドボタン、ファイルの保存、実習(2) 第3回 テキストボックスとラベル、実習(3) 第4回 変数と変数名、四則演算、代入文、実習(4) 第5回 実習(5) 第6回 Date関数、実習(6) 第7回 実習(7) 第8回 ピクチャーボックスとGraphics命令(1)、実習(8) 第9回 Graphics命令(2)、実習(9) 第10回 繰り返しの処理For～Next命令、実習(10) 第11回 実習(11) 第12回 実習(12) 第13回 実習(13) 第14回 実習レポート課題 第15回 実習レポート課題		
進め方	Visual Basicの命令文の解説と実習を交互に行っていく。実習では実際にプログラムを作成し、命令に従ってコンピュータがどのように動作するか確認する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。	参考文献	無し
評価方法	実習課題:70% 出席:30%		